

厚生労働省 令和3年度老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

生活期リハビリテーションにおける
適切なアウトカムの評価の在り方に関する調査研究事業
報告書

令和4年3月
みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

目 次

第1章 背景と目的.....	5
(1)事業の背景・目的	5
(2)事業の目的	7
第2章 事業概要及び調査方法.....	8
(1) 調査概要.....	8
① 事業の全体像	8
② 検討委員会の設置	9
③ 事業の体制	10
(2)アンケート調査.....	11
① 調査設計における視点	11
② 調査対象	11
③ 調査方法	11
④ 調査実施期間	11
⑤ 調査項目(概要).....	12
第3章 調査結果.....	14
(1)回収状況	14
(2)集計結果 通所リハ 事業所票	14
(3)集計結果 通所リハ 利用者票.....	47
(4)集計結果 訪問リハ/老健/介護医療院 事業所票	61
(5)集計結果 訪問リハ/老健/介護医療院 利用者票	82
第4章 アンケートデータ結果の分析.....	109
(1)クロス集計 通所リハ 事業所票.....	109
(2)クロス集計 通所リハ 利用者票.....	132
(3)個別クロス集計 通所リハ (利用者票及び事業所票結合)	143
(4)個別クロス集計 訪問リハ／老健／介護医療院(利用者票及び事業所票結合)	156
第5章 本調査のまとめ.....	160
参考資料.....	164

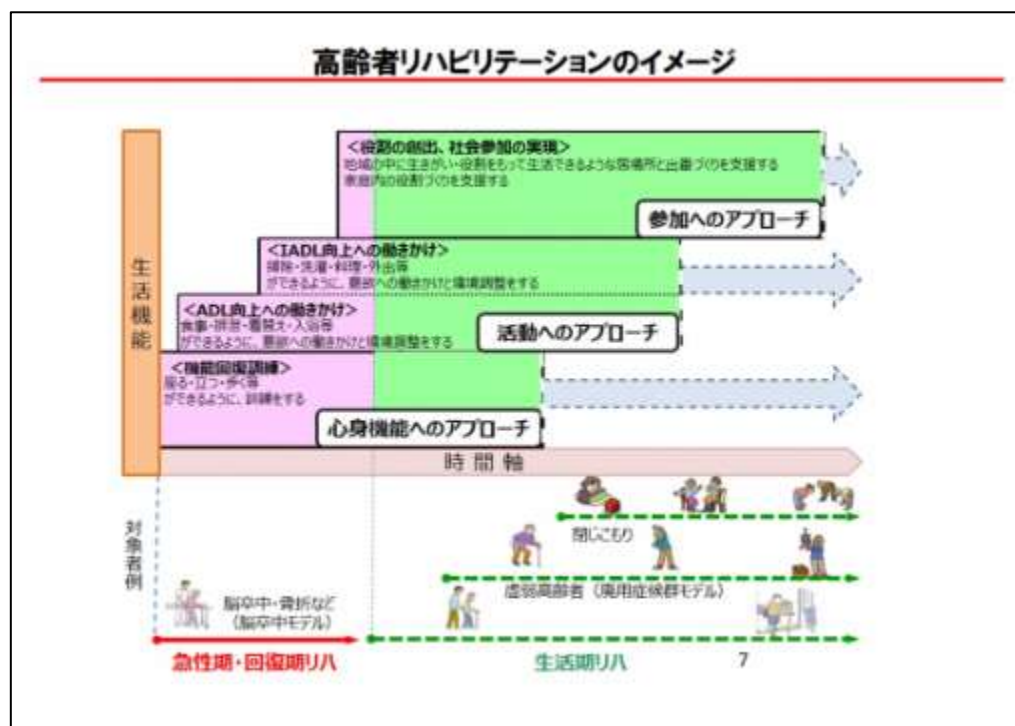
第1章 背景と目的

(1) 事業の背景・目的

- 令和3年度介護報酬改定に関する審議報告では、今後の課題として、①生活期リハビリテーションについてアウトカムに関する評価方法の検討を行った上で、②通所リハビリテーションについてストラクチャー・プロセス・アウトカム評価を組み合わせた総合的な評価方法の検討を行うことが挙げられた。

社会保障審議会介護給付費分科会 令和3年度介護報酬改定に関する審議報告 令和2年 12 月 23 日 【今後の課題】 ○ 令和3年度介護報酬改定の基本的考え方や各サービスの報酬・基準の見直しの方向については以上のとおりである。 今回の介護報酬改定に基づき、全ての介護サービス事業者において、新型コロナウイルス感染症をはじめ、感染症や災害への対応力を強化し、要介護者等に必要な介護サービスを安定的・継続的に提供していくことが求められる。また、団塊の世代が75歳以上となっている2025年に向けて、更には介護サービス需要が一層増大・多様化し、生産年齢人口の減少が進む2040年を見据えて、国民一人一人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域包括ケアシステムを推進するとともに、それぞれの地域で、尊厳を保持しながら、状態に応じた適切な介護サービスを受けられるよう、着実に対応していくことが求められる。 ○ あわせて、今回の介護報酬改定の影響を把握するとともに、次期介護報酬改定に向けて、見直すべき事項がないか、検討を進めるべきである。 その際、各介護サービスが、その専門性や特異性を最大限発揮しながら、利用者の状態に応じて適時・適切に過不足なく提供されるよう、留意すべきである。また、医療と介護の役割分担も踏まえながら、医療と介護の連携を一層推進する視点にも留意すべきである。ケアの質や職員の負担の状況を適時に把握しながら取組を改善していく視点にも留意すべきである。 次期介護報酬改定までに特に検討を進めるべきと考えられる事項について、以下のとおりまとめたので、厚生労働省において着実に対応することを求めたい。 また、検討は、しっかりとしたデータに基づき行うことが必要であり、介護報酬改定の効果検証及び調査研究、介護事業経営実態調査の更なる精緻化を進めるとともに、各種の調査・研究等を通じて、実態を適確に把握することを求めたい。さらに、CHASE・VISIT情報をはじめとする介護関連のデータの収集・分析を進め、検討に活用することも求めたい。
【自立支援・重度化防止の取組の推進】 (介護保険制度におけるアウトカムの視点も含めた評価の在り方) ○ 今回の介護報酬改定でリハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養など多職種が連携した取組を推進することとしたが、その取組の実施状況、効果等について、CHASE・VISIT等も活用しながら検証し、更なる推進方策を検討していくべきである。 ○ 平成30年度介護報酬改定において、自立支援に向けた事業所へのインセンティブとしてADL維持等加算が創設され、今回の介護報酬改定ではこれを拡充することとしたが、引き続きクリームスキミングにより利用者のサービス利用に支障が出るなどの弊害が生じていないかなどについて検証し、必要な対応を検討していくべきである。 ○ リハビリテーションサービスについて、生活期のリハビリテーションは、心身機能、活動、参加のそれぞれにバランス良く働きかけることが重要とされている一方、現時点でそのアウトカムに関する適切な評価方法が定まっていないことから、その具体的な評価方法について、科学的な妥当性を前提としつつ、現場で活用されている評価方法も参考に、引き続き検討していくべきである。また、その検討を踏まえて、通所リハビリテーションにおける、ストラクチャー、プロセス、アウトカム評価を組み合わせた総合的な評価方法について、検討していくべきである。 ○ 今回の介護報酬改定では褥瘡マネジメントや排せつ支援において新たにアウトカム評価を導入することとしたが、介護保険制度におけるアウトカムの視点も含めた評価の在り方について、引き続き検討していくべきである。

- 生活期のリハビリテーションは、心身機能へのアプローチだけでなく、活動や参加へのアプローチが必要となる。通所リハビリテーションの運営基準においても、リハビリテーションの提供に当たっては、利用者の心身機能の維持回復を図り、日常生活の自立に資することとされている。



通所リハビリテーションの運営基準

指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準 ＜通所リハビリテーションの基本取扱方針＞ 第113条 指定通所リハビリテーションは、<u>利用者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。</u> 2 指定通所リハビリテーション事業所は、<u>自らその提供する指定通所リハビリテーションの質の評価を行い、常にその改善を図らなければならない。</u> ＜指定通所リハビリテーションの具体的取扱方針＞ 第114条 指定通所リハビリテーションの方針は、次に掲げるところによるものとする。 1 指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、<u>医師の指示及び次条第一項に規定する通所リハビリテーション計画に基づき、利用者の心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立に資するよう、妥当適切に行う。</u> 2 通所リハビリテーション従業者は、指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、<u>懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、リハビリテーションの観点から療養上必要とされる事項について、理解しやすいように指導又は説明を行う。</u> 3 指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、<u>常に利用者の病状、心身の状況及びその置かれていた環境の的確な把握に努め、利用者に対し適切なサービスを提供する。特に、認知症である要介護者に対しては、必要に応じ、その特性に対応したサービス提供ができる体制を整える。</u> 4 指定通所リハビリテーション事業所は、<u>リハビリテーション会議の開催により、リハビリテーションに関する専門的な見地から利用者の状況等に関する情報を集約し共有するよう努め、利用者に対し、適切なサービスを提供する。</u>
--

（２）事業の目的

- このような背景を踏まえ、本事業では、下記について検討することを目的としている。
 - ① 令和３年度介護報酬改定の通所リハビリテーション及び訪問リハビリテーションにおける影響の実態を把握
 - ② 生活期リハビリテーションにおけるアウトカムの評価方法の在り方
 - ③ 通所リハビリテーションにおける、ストラクチャー、プロセス、アウトカム評価を組み合わせた総合的な評価方法の在り方

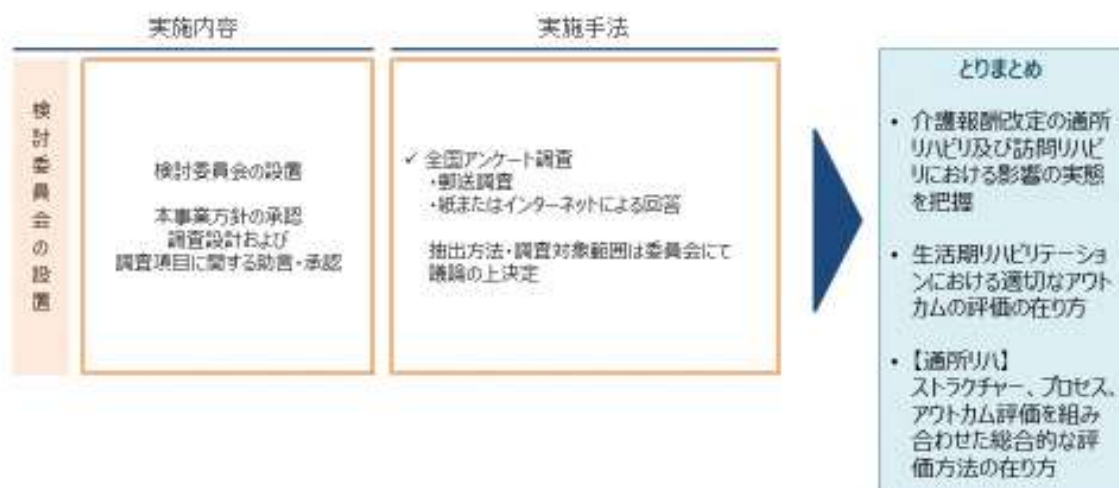
第2章 事業概要及び調査方法

(1) 調査概要

① 事業の全体像

- 本事業では、検討委員会を設置するとともに、全国アンケート調査を実施し、とりまとめることにより、生活期リハビリテーションにおける適切なアウトカムの評価の在り方等について検討した。
- アンケート調査は、主に、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、介護老人保健施設、介護医療院を対象に行った。

図表1 本事業の実施体制



② 検討委員会の設置

- 本事業を推進するにあたり、検討委員会を設置し、以下の日程で、検討を行った。

図表2 検討委員会の開催概要

No.	開催日時	検討内容
1	令和3年10月4日(月) 15:00~17:00	● 調査全体の実施方針の検討 ● 実施スケジュールの確認 ● アンケート調査票の検討
2	令和3年11月4日(木) (書面開催)	● アンケート調査票の検討
3	令和4年2月10日(火) 10:00~12:00	● アンケート調査結果の報告 ● 報告書取りまとめに向けた検討
4	令和4年3月25日(金) 15:30~17:30	● 報告書取りまとめに向けた検討

③ 事業の体制

- 本事業の実施体制は、次のとおりである。

図表3 本事業の実施体制

【検討委員会委員】

氏名	所属	備考
江澤 和彦	公益社団法人日本医師会 常任理事	
川越 雅弘	公立大学法人埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科兼研究開発センター教授	
近藤 国嗣	一般社団法人全国デイ・ケア協会 会長	
斉藤 秀之	公益社団法人日本理学療法士協会 会長	
斉藤 正身	一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設協会 会長	
中村 春基	一般社団法人日本作業療法士協会 会長	
深浦 順一	一般社団法人日本言語聴覚士協会 会長	
東 憲太郎	公益社団法人全国老人保健施設協会 会長	
松田 晋哉	学校法人産業医科大学公衆衛生学教授	座長
水間 正澄	一般社団法人日本生活期リハビリテーション医学会 代表理事	
宮田 昌司	一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会 会長	

【オブザーバー】

厚生労働省 老健局 老人保健課

【事務局】

氏名	所属
高橋 正樹	みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 社会政策コンサルティング部
小松 紗代子	同上
荒井 裕太	同上
足立 奈緒子	同上

(2) アンケート調査

① 調査設計における視点

- 自立支援・重度化防止に資する生活期リハビリサービスのアウトカムの視点から、
 - ・令和3年度介護報酬改定の通所リハビリ及び訪問リハビリにおける影響の実態を把握
 - ・生活期リハビリにおけるアウトカムの評価方法の在り方
 - ・ストラクチャー、プロセス、アウトカム評価を組み合わせた総合的な評価方法の在り方【通所リハビリのみ】
- について検討に必要なデータを取得し、集計・分析する。

② 調査対象

- 全国から対象施設等を実無作為抽出する。
- 施設種別と母集団の状況、抽出数は下表のとおりである。
- 災害救助法の適用地域、及び、新型コロナウイルス緊急事態宣言発出中の地域（調査票配布時点）は、抽出対象から除外する。

調査対象（施設種類）	抽出数 （発送数）	悉皆／抽出	母集団
① 通所リハビリテーション	2,500	抽出	8,116 ⁽¹⁾
② 訪問リハビリテーション	500	抽出	4,920 ⁽¹⁾
③ 介護老人保健施設	500	抽出	4,249 ⁽¹⁾
④ 介護医療院	500	悉皆	565 ⁽²⁾

(1) 介護給付費実態統計 請求事業所数（令和3年3月時点）より

③ 調査方法

- アンケート調査は、紙式調査票の郵送調査を行った。
- 調査票は、事業所票と利用者票の2種類とした。
- 調査票については、通所リハビリテーションを対象とした調査票と訪問リハ事業所、介護老人保健施設、介護医療院用をそれぞれ用意した。

④ 調査実施期間

- 調査期間は、2022年1月12日より1か月間とした。

⑤ 調査項目（概要）

○ 本調査における調査項目（概要）は、以下のとおり。

【事業所票】

項目	備考
1. 事業所の基本情報	
(1) 通所リハの提供施設	【通所リハのみ】
(2) 事業所規模・主に提供している時間区分・営業日数	【通所リハのみ】
(3) 同一敷地内で提供されている他のサービス	
(4) （1日あたりの）利用定員数	
(5) 送迎の実施有無・実施体制	【通所リハのみ】
(6) 職員配置・常勤換算数	
2. 利用者の状況	
(1) 利用者数	
(2) 要介護度・寝たきり度・日常生活自立度別利用者数	
(3) 医療処置を実施している者の人数	【通所リハのみ】
(4) 6か月間の月あたりの利用者数	【通所リハのみ】
(5) 6か月間の月あたりの新規利用者数・利用終了者数等	【通所リハのみ】
(6) 6か月間の月あたりの要介護別・認知症程度別・医療処置の有無別・利用時間別の利用者数	【通所リハのみ】
3. サービスの提供状況	
(1) 提供しているリハビリの種類	【通所リハのみ】
(2) 提供しているケアの内容	【通所リハのみ】
(3) 利用者宅への定期的な居宅訪問の内容等	【通所リハのみ】
(4) 医師の関与	【通所リハのみ】
(5) 多職種連携について	【通所リハのみ】
4. 評価指標の活用状況	
(1) 活用している評価指標	
5. 加算の算定状況	
(1) 各加算（体制加算）の算定状況	
(2) 各加算（利用者単位）の算定割合	
6. 事業所における取組	

(1) 利用者家族・親族等とのかかわり方	【通所リハのみ】
(2) 地域リハビリテーション活動支援事業等への派遣実績の有無	【通所リハのみ】

【利用者票】

項目	備考
1. 基本情報	
(1) 年齢・性別	
(2) 要介護度・日常生活自立度	
(3) リハビリが必要になった原因の傷病名	
(4) 現在の障害の状況	
(5) 紹介元の介護サービス事業所	
(6) 現在の居所	【通所リハのみ】
(7) 主な利用時間（リハビリの提供時間）・利用頻度	
(8) 併用サービス	【通所リハのみ】
(9) 入浴サービス	【通所リハのみ】
(10) 敷地外リハビリの有無・内容	【通所リハのみ】
(11) 在宅での生活機能の評価の頻度	【通所リハのみ】
2. リハビリの内容、時間	
(1) リハビリ実施計画書の短期目標	
(2) 提供しているリハビリの種類	
3. 各指標の変化（反応性について）	
(1) 利用開始時、6か月前、現在の評価指標（ADL（BI））	
(2) 利用開始時、6か月前、現在の評価指標（IADL（FAI））	

第3章 調査結果

(1) 回収状況

○ 施設別の回収状況は、以下のとおり。

調査対象（施設種類）	発送数	回収	回収率
⑤ 通所リハビリテーション	2,500		
⑥ 訪問リハビリテーション	500		
⑦ 介護老人保健施設	500		
⑧ 介護医療院	500		

(2) 集計結果 通所リハ 事業所票

I. 貴事業所の基本情報

問1 令和3年10月1日時点の貴事業所の基本情報についてご回答ください。

1) 通所リハビリテーションのサービス提供施設

「介護老人保健施設」が36.7%で最も多く、次いで「診療所」が36.0%、「病院」が26.6%であった。

図表 1.1 通所リハビリテーションのサービス提供施設

提供施設	件数	%
病院	108	26.6
診療所	146	36.0
介護老人保健施設	149	36.7
介護医療院	2	0.5
無回答	1	0.2
調査数	406	100.0

2) 事業所規模

「通常規模型」が85.7%で最も多く、次いで「大規模事業所型Ⅱ」が6.9%、「大規模事業所型Ⅰ」が6.2%であった。

図表 1.2 事業所規模

事業所規模	件数	%
通常規模型	348	85.7
大規模事業所型Ⅰ	25	6.2
大規模事業所型Ⅱ	28	6.9
無回答	5	1.2
調査数	406	100.0

3) サービス提供の時間区分

「6時間以上7時間未満」が61.3%で最も多く、次いで「2時間以上3時間未満」が36.0%であった。

図表 1.3 サービス提供の時間区分

時間区分	件数	%
1時間以上2時間未満	189	46.6
2時間以上3時間未満	119	29.3
3時間以上4時間未満	146	36.0
4時間以上5時間未満	111	27.3
5時間以上6時間未満	121	29.8
6時間以上7時間未満	249	61.3
7時間以上8時間未満	83	20.4
8時間以上	6	1.5
無回答	1	0.2
調査数	406	100.0

4) 同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

「訪問リハビリテーション」が53.7%で最も多く、次いで「居宅介護支援事業所」が51.0%、「短期入所療養介護」が31.5%であった。

図表 1.4 同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

サービス	件数	%
訪問リハビリテーション	218	53.7
訪問看護	106	26.1
訪問介護	56	13.8
通所介護	45	11.1
短期入所生活介護	36	8.9
短期入所療養介護	128	31.5
居宅介護支援事業所	207	51.0
地域包括支援センター	30	7.4
グループホーム	32	7.9
その他	45	11.1
併設サービスはない	44	10.8
無回答	10	2.5
調査数	406	100.0

5) 1週間の営業日数（日／週）

「6日」が58.6%で最も多く、次いで「5日」が34.7%であった。
平均は、5.5日、中央値は6日であった。

図表 1.5 1週間の営業日数（日／週）

営業日数	件数	%
1日	2	0.5
2日	2	0.5
3日	3	0.7
4日	13	3.2
5日	141	34.7
6日	238	58.6
7日	7	1.7
調査数	406	100.0

平均	5.539409
中央値	6
標準偏差	0.740905
最大値	7
最小値	1

6) 1日あたりの利用定員数（人）

「31人～40人」が26.1%で最も多く、次いで「21人～30人」が22.7%、「11人～20人」が18.0%であった。
平均は、35.9人、中央値は32人であった。

図表 1.6 1日あたりの利用定員数（人）

利用定員数	件数	%
1人～10人	35	8.6
11人～20人	73	18.0
21人～30人	92	22.7
31人～40人	106	26.1
41人～50人	36	8.9
51人～60人	31	7.6
61人以上	28	6.9
無回答	5	
調査数	406	100.0

平均	35.93017
中央値	32
標準偏差	23.06242
最大値	270
最小値	1

問2 送迎を行っている場合の体制についてご回答ください。

1) 送迎の実施

「利用者のほぼ全員が利用」が90.9%と大半であった。

図表 2.1 送迎の実施

利用定員数	件数	%
利用者のほぼ全員が利用	369	90.9
利用者のほぼ半数が利用	15	3.7
利用者の一部が利用	4	1.0
実施していない	16	3.9
無回答	2	0.5
調査数	406	100.0

2) 1日あたりの運転手の人数（人）

「3人」が18.7%で最も多く、次いで「2人」が15.3%であった。

平均は、4.0人、中央値は4人であった。

図表 2.2 1日あたりの運転手の人数（人）

利用定員数	件数	%
0人	15	3.7
1人	42	10.3
2人	62	15.3
3人	76	18.7
4人	51	12.6
5人	55	13.5
6人	36	8.9
7人	24	5.9
8人	16	3.9
9人	5	1.2
10人以上	12	3.0
無回答	12	3.0
調査数	406	100.0

平均	3.974619
中央値	4
標準偏差	2.469996
最小値	13
最大値	0

3) 送迎用の車両台数 (台)

「5台」が16.3%で最も多く、次いで「3台」が15.3%、「4台」が14.8%であった。

平均は、5.0台、中央値は5台であった。

図表 2.3 送迎用の車両台数 (台)

利用定員数	件数	%
0台	9	2.2
1台	21	5.2
2台	38	9.4
3台	62	15.3
4台	60	14.8
5台	66	16.3
6台	42	10.3
7台	35	8.6
8台	24	5.9
9台	11	2.7
10台以上	29	7.1
無回答	9	2.2
調査数	406	100.0

平均	5.037783
中央値	5
標準偏差	3.026513
最大値	23
最小値	0

問3 貴事業所の職員体制についてご回答ください。（令和3年10月1日時点、常勤換算数）

医師、理学療法士、看護職員、その他の介護職員は「0人超～1人以下」が最も多く、それ以外の職員は「0人」が最も多い。

図表 3.1 貴事業所の職員体制

職員体制(常勤換算数)	医師	歯科医師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護職員	介護福祉士	その他介護職員
0人(一部無回答は0)	42	389	24	160	282	114	85	93
0人超～1人以下	312	5	133	153	107	152	32	102
1人超～2人以下	35	1	108	52	5	91	42	81
2人超～3人以下	4	0	63	22	0	25	48	58
3人超～4人以下	1	0	28	6	0	11	40	25
4人超～5人以下	1	0	22	1	0	1	32	9
5人超～6人以下	0	0	9	1	1	0	28	15
6人超～7人以下	0	0	6	0	0	0	29	6
7人超～8人以下	0	0	0	0	0	0	18	1
8人超～9人以下	0	0	0	0	0	0	11	3
9人超～10人以下	0	0	1	0	0	0	11	0
10人超	0	0	1	0	0	1	19	2
無回答(すべての項目に無回答)	11	11	11	11	11	11	11	11

職員体制(常勤換算数)	歯科衛生士	管理栄養士	栄養士	支援相談員・ソーシャルワーカー
0人(一部無回答は0)	395	395	395	395
0人超～1人以下	26	120	17	95
1人超～2人以下	0	7	1	10
2人超～3人以下	0	1	1	3
3人超～4人以下	0	0	0	0
4人超～5人以下	0	0	0	0
5人超～6人以下	0	0	0	0
6人超～7人以下	0	0	0	0
7人超～8人以下	0	0	0	0
8人超～9人以下	0	0	0	0
9人超～10人以下	0	0	0	0
10人以上	0	0	0	0
無回答(すべての項目に無回答)	11	11	11	11

問3' 常勤換算数／1日当たり利用者数（延実人数／営業日数）

■理学療法士＋作業療法士＋言語聴覚士

「2.0～4.0%」が134（延実人数／営業日数）で最も多く、次いで「1.0～2.0%」が115（延実人数／営業日数）であった。

■介護福祉士＋その他介護職員

「4.0～10.0%」が205（延実人数／営業日数）で最も多く、次いで「2.0～4.0%」が74（延実人数／営業日数）であった。

図表 3.2 常勤換算数／1日当たり利用者数（延実人数／営業日数）

職員体制 (常勤換算数)／1日あたり利用者数	理学療法士＋作業療法士＋言語聴覚士	介護福祉士＋その他介護職員
0以上～0.1%未満	8	37
0.1～0.5%	7	1
0.5～1.0%	27	8
1.0～2.0%	115	16
2.0～4.0%	134	74
4.0～10.0%	56	205
10.0～20.0%	9	21
20.0～30.0%	2	1
30.0～40.0%	3	3
40.0～50.0%	1	1
50.0%～	7	2
無回答	37	37

Ⅱ．利用者の状況

問4 令和3年10月1日時点の利用登録者数（実人数）についてご回答ください。

「51人～60人」が11.3%で最も多く、次いで「31人～40人」「41人～50人」が各々9.4%であった。

平均は、75.7人、中央値は60人であった。

図表 4.1 令和3年10月1日時点の利用登録者数（実人数）

利用登録者数(実人数)	件数	%
1人～10人	14	3.4
11人～20人	22	5.4
21人～30人	37	9.1
31人～40人	38	9.4
41人～50人	38	9.4
51人～60人	46	11.3
61人～70人	22	5.4
71人～80人	24	5.9
81人～90人	34	8.4
91人～100人	21	5.2
101人～110人	14	3.4
111人～120人	16	3.9
121人～130人	9	2.2
131人～140人	9	2.2
141人～150人	5	1.2
150人以上	36	8.9
無回答	21	5.2
調査数	406	100.0

平均	75.7013
中央値	60
標準偏差	64.71305
最小値	831
最大値	1

2) 要介護度別の利用登録者数

要支援1、要支援2、要介護2、要介護3、要介護4、要介護5、申請中は「1人～10人」が最も多く、要介護1は「11人～20人」が最も多い。

図表 4.2 要介護度別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中
1人～10人	230	186	122	142	235	282	242	23
11人～20人	73	95	129	132	108	44	3	0
21人～30人	24	50	78	59	19	3	0	0
31人～40人	9	18	36	32	7	1	0	1
41人～50人	10	6	12	11	0	0	0	0
51人～60人	4	5	10	7	1	0	0	0
61人～71人	1	0	3	4	0	0	0	0
71人～80人	0	3	2	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	1	0	0	0	0	0	1
101人以上	0	1	1	1	0	0	0	0
無回答	22	23	11	10	18	23	42	122

3) 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数

すべての日常生活自立度で「1人～10人」が最も多い。

図表 4.3 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
1人～10人	125	197	147	108	131	184	177	94	91
11人～20人	13	31	68	80	86	44	19	3	1
21人～30人	3	12	31	53	31	8	2	0	0
31人～40人	5	3	20	22	18	0	1	0	0
41人～50人	0	6	10	13	4	1	0	0	0
51人～60人	0	1	7	10	1	0	0	0	0
61人～71人	1	1	2	2	1	0	0	0	0
71人～80人	0	1	0	0	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	0	0	1	0	0	0	0	1
101人以上	0	0	2	0	0	0	0	0	0
無回答	138	114	100	103	108	120	130	145	150

4) 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数

すべての日常生活自立度で「1人～10人」が最も多い。

図表 4.4 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M
1人～10人	98	93	176	164	187	118	99	30
11人～20人	72	72	66	80	14	2	3	0
21人～30人	34	41	29	18	5	0	0	0
31人～40人	23	42	5	7	0	0	0	0
41人～50人	12	14	0	3	0	0	0	0
51人～60人	10	10	1	0	0	0	0	0
61人～71人	6	4	0	0	0	0	0	0
71人～80人	1	3	0	0	0	0	0	0
81人～91人	3	3	0	0	0	0	0	0
91人～100人	3	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	6	2	0	0	0	0	0	0
無回答	108	103	106	105	125	138	145	158

5) 医療処置を実施している者※の実人数

すべての医療処置で「0人」が最も多い。

図表 4.5 医療処置を実施している者※の実人数

利用登録者数(実人数)	1. 常時頻回の喀痰吸引実施	2. 常時頻回ではない喀痰吸引実施	3. 人工呼吸器	4. 中心静脈注射	5. 人工腎臓かつ重篤な合併症を有する	6. 重篤な心機能障害、呼吸障害等により常時モニター測定	7. 身体障害者等級4級以上かつストマ処置	8. 経鼻経管栄養や胃瘻等の経腸栄養	9. 褥瘡治療	10. 気管切開
0人	315	296	324	326	319	327	283	285	268	313
1人	12	24	3	1	2	0	35	32	32	15
2人	2	10	1	0	3	0	7	11	20	4
3人	1	3	0	0	1	0	3	7	5	1
4人	0	1	0	0	1	0	2	1	2	0
5人	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
6人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7人	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
8人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10人以上	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問5 過去半年間（令和3年4月1日～令和3年9月30日）の実績（要介護者のみ）についてご回答ください。（回答があったものの平均値）

③28日以内に医療機関を退院して利用を開始した新規利用者、④28日以内に老健を退所して利用を開始した新規利用者は「4月」が最も多く、①新規利用者数、⑤上記以外で利用を開始した新規利用者、⑨施設への入所による終了、⑪利用実人数、⑫利用延べ人数は「7月」が最も多い。

図表 5.1 過去半年間（令和3年4月1日～令和3年9月30日）の実績（要介護者のみ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
①新規利用者数	2.03	1.82	1.79	2.04	1.84	1.95
②14日以内に医療機関を退院して利用を開始した新規利用者	0.59	0.48	0.53	0.59	0.57	0.61
③28日以内に医療機関を退院して利用を開始した新規利用者	0.16	0.14	0.14	0.13	0.12	0.12
④28日以内に老健を退所して利用を開始した新規利用者	0.30	0.14	0.22	0.21	0.19	0.24
⑤上記以外で利用を開始した新規利用者	1.26	1.13	1.15	1.40	1.23	1.25
⑥利用終了者数	2.03	1.90	1.80	2.03	1.88	1.83
⑦通所介護等への移行による終了	0.52	0.45	0.57	0.55	0.57	0.51
⑧医療機関への入院による終了	0.66	0.69	0.65	0.63	0.58	0.66
⑨施設への入所による終了	0.60	0.56	0.50	0.68	0.54	0.51
⑩死亡等による終了	0.44	0.42	0.45	0.42	0.42	0.44
⑪利用実人数	61.58	60.38	61.30	62.15	61.58	61.75
⑫利用延べ人数	464.06	430.56	460.58	464.93	440.76	454.66
⑬利用キャンセルされた延べ人数（事前キャンセル・当日キャンセル含む）	58.59	64.38	62.61	63.16	66.75	58.04

問5' リハビリテーションの利用の回転率（12/平均利用延月数）

*平均利用月数＝評価対象期間の利用延月数/ 評価対象期間の（新規開始者数＋新規終了者数）÷ 2

「30%～35%」が10.1%で最も多く、次いで「15%～20%」が9.6%、「35%～40%」が9.4%であった。

図表 5.2 リハビリテーションの利用の回転率（12/平均利用延月数）

リハビリテーションの利用の回転率	件数	%
0%～5%	4	1.0
5%～10%	15	3.7
10%～15%	18	4.4
15%～20%	39	9.6
20%～25%	35	8.6
25%～30%	34	8.4
30%～35%	41	10.1
35%～40%	38	9.4
40%～45%	32	7.9
45%～50%	31	7.6
50%～55%	15	3.7
55%～60%	15	3.7
60%～65%	9	2.2
65%～70%	5	1.2
70%～75%	3	0.7
70%～75%	4	1.0
80%～	17	4.2
無回答	51	12.6
調査数	406	100.0

問6 問5で回答した利用延べ人数について、利用者の属性別の実績についてご回答ください。

介護度別では要介護1の利用者がいずれの月も最も多く、時間別では「6時間以上7時間未満」の利用者がいずれの月も最も多い。

図表6 利用者の属性別の実績

(回答があったものの平均値)

利用延べ人数(属性別)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1の利用者(による利用延べ人数)	141.13	130.60	139.57	141.81	134.62	138.83
要介護2の利用者	128.71	119.87	127.77	129.61	122.12	126.19
要介護3の利用者	74.10	69.20	73.80	75.20	71.75	73.39
要介護4の利用者	39.31	37.10	39.02	40.44	39.31	40.25
要介護5の利用者	16.02	15.14	15.70	15.85	15.15	15.23
認知症高齢者の日常生活自立度がⅡの利用者	66.91	63.39	67.65	67.80	65.25	67.06
認知症高齢者の日常生活自立度がⅢ・Ⅳ・Ⅴの利用者	24.18	23.05	23.34	23.95	22.68	22.71
「1時間以上2時間未満」の利用者	57.59	52.53	57.01	56.41	53.85	56.91
「2時間以上3時間未満」の利用者	14.82	12.76	14.13	14.80	14.30	15.02
「3時間以上4時間未満」の利用者	45.80	41.96	44.77	46.92	43.42	45.95
「4時間以上5時間未満」の利用者	22.53	21.80	22.40	23.23	21.11	22.18
「5時間以上6時間未満」の利用者	29.00	26.46	29.11	28.75	27.17	26.17
「6時間以上7時間未満」の利用者	261.50	243.07	258.59	262.71	250.37	255.71
「7時間以上8時間未満」の利用者	55.61	53.22	56.15	55.45	52.77	54.29
「8時間以上」の利用者	0.74	0.72	0.71	0.66	0.63	0.58

Ⅲ. サービスの提供状況

問 7 (ADL 訓練等のリハビリテーション以外で) 提供しているリハビリテーションについて
ご回答ください。

1) 提供しているリハビリテーション

「福祉用具の評価・調整・作成」が 75.1%で最も多く、次いで「認知症に関するリハビリテーション」が 65.0%であった。

図表 7.1 提供しているリハビリテーション

(複数回答)

提供リハビリ	件数	%
IADL 訓練	251	61.8
摂食嚥下に関するリハビリテーション	224	55.2
排泄に関するリハビリテーション	232	57.1
敷地外でのリハビリテーション	198	48.8
認知症に関するリハビリテーション	264	65.0
失語症・構音障害へのリハビリテーション	169	41.6
義肢装具の評価・調整・作成	207	51.0
福祉用具の評価・調整・作成	305	75.1
無回答	34	8.4
調査数	406	100.0

2) IADL に関するリハビリテーションの具体的な内容

「車の乗降訓練」が 64.9%で最も多く、次いで「趣味活動の訓練」が 56.6%であった。

図表 7.2 IADL に関するリハビリテーションの具体的な内容

(複数回答)

IADL リハビリの具体的な内容	件数	%
調理訓練	66	26.3
洗濯動作の訓練	111	44.2
掃除の訓練	83	33.1
趣味活動の訓練	142	56.6
服薬管理	56	22.3
車の乗降訓練	163	64.9
家の手入れ(含草取り・菜園)訓練	69	27.5
買い物訓練	63	25.1
就労訓練(報酬を伴わないものを含む)	32	12.7
その他	26	10.4
無回答	2	0.8
調査数	251	100.0

(非該当 155)

3) 摂食嚥下に関するリハビリテーションの具体的内容

「食事姿勢・体位調整」が76.8%で最も多く、次いで「食形態調整」が68.3%、「口腔ケア」が66.5%、「本人・家族等への指導」が65.6%であった。

図表 7.3 摂食嚥下に関するリハビリテーションの具体的内容

(複数回答)

摂食嚥下リハビリの具体的内容	件数	%
嚥下機能評価	134	59.8
食形態調整	153	68.3
口腔ケア	149	66.5
間接嚥下訓練(頭部挙上等)	110	49.1
呼吸訓練	100	44.6
直接嚥下訓練(交互嚥下、複数回嚥下等)	60	26.8
食事姿勢・体位調整	172	76.8
本人・家族等への指導	147	65.6
その他	6	2.7
無回答	1	0.4
調査数	224	100.0

(非該当 182)

4) 排泄に関するリハビリテーションの具体的内容

「移乗訓練」が79.7%で最も多く、次いで「トイレ動作の指導」が75.4%であった。

図表 7.4 排泄に関するリハビリテーションの具体的内容

(複数回答)

排泄リハビリの具体的内容	件数	%
骨盤底筋訓練	109	47.0
移乗訓練	185	79.7
時間排泄誘導	107	46.1
パターン排泄誘導	43	18.5
トイレ動作の指導	175	75.4
排尿姿勢の調整	52	22.4
膀胱訓練	11	4.7
環境調整	127	54.7
その他	2	0.9
無回答	2	0.9
調査数	232	100.0

(非該当 174)

5) 敷地外でのリハビリテーションの具体的内容

「屋外歩行訓練（坂道、不整地等）」が96.5%であった。

図表 7.5 敷地外でのリハビリテーションの具体的内容

(複数回答)

敷地外リハビリの具体的内容	件数	%
スーパー等での買い物訓練	41	20.7
バス等の公共交通機関の利用訓練	23	11.6
屋外歩行訓練(坂道、不整地等)	191	96.5
就労訓練(報酬を伴わないものを含む)	15	7.6
その他	3	1.5
無回答	2	1.0
調査数	198	100.0

(非該当 208)

6) 認知症に関するリハビリテーションの具体的内容

「認知機能維持のための訓練」が90.9%で最も多く、次いで「意欲を引き出す集団訓練」が64.4%であった。

図表 7.6 認知症に関するリハビリテーションの具体的内容

(複数回答)

認知症リハビリの具体的内容	件数	%
認知機能維持のための訓練	240	90.9
残存する認知能力を活用した、生活行為の訓練	118	44.7
意欲を引き出す集団訓練	170	64.4
認知、記憶、見当識等を代償する福祉用具等の活用	43	16.3
人的環境調整(ケアの統一、家族教育・支援)	103	39.0
無回答	2	0.8
調査数	264	100.0

(非該当 142)

7) 失語症・構音障害へのリハビリテーションの具体的内容

「個別の言語聴覚療法」が86.4%、「集団での言語聴覚療法」が27.8%であった。

図表 7.7 失語症・構音障害へのリハビリテーションの具体的内容

(複数回答)

認知症リハビリの具体的内容	件数	%
個別の言語聴覚療法	146	86.4
集団での言語聴覚療法	47	27.8
無回答	4	2.4
調査数	169	100.0

(非該当 237)

8) 義肢装具の評価・調整・作成の具体的内容

「装具の評価・調整」が89.4%で最も多く、次いで「義肢装具会社・義肢装具士との連携」が69.6%であった。

図表 7.8 義肢装具の評価・調整・作成の具体的内容

(複数回答)

義肢装具	件数	%
装具の評価・調整	185	89.4
装具の作成	52	25.1
義肢の評価・調整	41	19.8
義肢装具会社・義肢装具士との連携	144	69.6
その他	3	1.4
無回答	0	0.0
調査数	207	100.0

(非該当 199)

9) 福祉用具の評価・調整

「福祉用具の評価・調整」が94.8%で最も多く、次いで「福祉用具専門員との連携」が81.0%、「福祉用具の貸与の検討」が80.7%であった。

図表 7.9 福祉用具の評価・調整

(複数回答)

福祉用具	件数	%
福祉用具の評価・調整	289	94.8
福祉用具の貸与の検討	246	80.7
自助具等の作成	68	22.3
福祉用具専門員との連携	247	81.0
その他	1	0.3
無回答	1	0.3
調査数	305	100.0

(非該当 101)

10) 通所リハ単独で保有しているリハ機器・設備（兼用除く）

「歩行器・車」が83.5%で最も多く、次いで「平行棒」が78.6%、「筋力増強のための機器」が70.7%であった。

図表 7.10 通所リハ単独で保有しているリハ機器・設備（兼用除く）

（複数回答）

保有リハビリ機器・設備	件数	%
筋力増強のための機器	287	70.7
平行棒	319	78.6
プラットフォーム	277	68.2
訓練用階段	185	45.6
エルゴメーター	274	67.5
温熱療法のための機器	258	63.5
神経筋電気刺激装置	110	27.1
訓練用装具（下肢装具等）	94	23.2
歩行器・車	339	83.5
調理設備（訓練用）	42	10.3
個別浴槽	121	29.8
畳の部屋	91	22.4
掃除機などの掃除用品	116	28.6
手工芸用品	201	49.5
無回答	30	7.4
調査数	406	100.0

問8 提供しているケアの内容についてお答えください。

1) 食事の提供の有無

「有」が70.4%、「無」が24.4%であった。

図表 8.1.1 食事の提供の有無

食事の提供の有無	件数	%
有	286	70.4
無	99	24.4
無回答	21	5.2
調査数	406	100.0

1) 食事の提供の割合

「利用者のほぼ全員（80%以上）が利用」が83.6%で大半であった。

図表 8.1.2 食事の提供の割合

食事の提供の割合	件数	%
利用者のほぼ全員（80%以上）が利用	239	83.6
利用者の過半数（60～80%）が利用	28	9.8
利用者の半数程度（40～60%）が利用	10	3.5
利用者の少数（20～40%）が利用	6	2.1
利用者の一部（20%以下）が利用	3	1.0
調査数	286	100.0

（非該当 120）

2) 食事提供時のケアとして取り組んでいる内容

「食事姿勢の修正」が80.4%で最も多く、次いで「一対一での食事介助」が56.6%、「利用者の嗜好に配慮した献立」が48.3%であった。

図表 8.2 食事提供時のケアとして取り組んでいる内容

（複数回答）

食事提供時のケアの内容	件数	%
一対一での食事介助	162	56.6
利用者の希望時間での提供	9	3.1
利用者の嗜好に配慮した献立	138	48.3
慣れ親しんだ食器等の使用	30	10.5
自宅環境を配慮した介助	40	14.0
食事姿勢の修正	230	80.4
無回答	15	5.2
調査数	286	100.0

（非該当 120）

- 3) 排泄のケアの提供の有無
「有」が74.6%であった。

図表 8.3.1 排泄のケアの提供の有無

排泄のケアの提供の有無	件数	%
有	303	74.6
無	78	19.2
無回答	25	6.2
調査数	406	100.0

- 3) 排泄のケアの提供の割合

「利用者の少数（20～40%）が利用」が24.8%で最も多く、次いで「利用者の一部（20%以下）が利用」が23.1%、「利用者の半数程度（40～60%）が利用」が20.8%であった。

図表 8.3.2 排泄のケアの提供の有無

排泄のケアの提供の割合	件数	%
利用者のほぼ全員（80%以上）が利用	49	16.2
利用者の過半数（60～80%）が利用	37	12.2
利用者の半数程度（40～60%）が利用	63	20.8
利用者の少数（20～40%）が利用	75	24.8
利用者の一部（20%以下）が利用	70	23.1
無回答	9	3.0
調査数	303	100.0

（非該当 103）

- 4) 排泄のケアとして取り組んでいる内容

「プライバシーの配慮」が84.5%で最も多く、次いで「排泄リズムに沿った支援」が68.3%、「本人の希望を踏まえた排泄時間」が64.7%であった。

図表 8.4 排泄のケアとして取り組んでいる内容

（複数回答）

排泄のケアの取組内容	件数	%
排泄リズムに沿った支援	207	68.3
本人の希望を踏まえた排泄時間	196	64.7
プライバシーの配慮	256	84.5
自宅環境を配慮した介助	79	26.1
無回答	5	1.7
調査数	303	100.0

（非該当 103）

5) 入浴の提供の有無

「有」が68.0%、「無」が27.8%であった。

図表 8.5.1 入浴の提供の有無

入浴の提供の有無	件数	%
有	276	68.0
無	113	27.8
無回答	17	4.2
調査数	406	100.0

5) 入浴の提供の割合

「利用者のほぼ全員（80%以上）が利用」が49.6%で最も多く、次いで「利用者の過半数（60～80%）が利用」が26.4%であった。

図表 8.5.2 入浴の提供の割合

入浴の提供の割合	件数	%
利用者のほぼ全員（80%以上）が利用	137	49.6
利用者の過半数（60～80%）が利用	73	26.4
利用者の半数程度（40～60%）が利用	31	11.2
利用者の少数（20～40%）が利用	22	8.0
利用者の一部（20%以下）が利用	9	3.3
無回答	4	1.4
調査数	276	100.0

（非該当 130）

6) 入浴提供時のケアとして取り組んでいる内容

「一般浴槽での入浴」が90.6%で最も多く、次いで「プライバシーの配慮」が81.2%、「機械浴での入浴」が67.0%であった。

図表 8.6 入浴提供時のケアとして取り組んでいる内容

（複数回答）

入浴のケアの取組内容	件数	%
一般浴槽での入浴	250	90.6
機械浴での入浴	185	67.0
一対一での入浴介助	132	47.8
本人の希望を踏まえた入浴時間	59	21.4
プライバシーの配慮	224	81.2
自宅環境を配慮した介助	102	37.0
調査数	276	100.0

（非該当 130）

問9 利用者自宅への定期的な居宅訪問についてご回答ください。

1) 定期的な居宅訪問の実施

「実施していない」が35.5%で最も多く、次いで「一部の利用者について実施している」が27.8%、「すべての利用者について実施している」が25.6%であった。

図表 9.1 定期的な居宅訪問の実施

定期的な居宅訪問	件数	%
すべての利用者について実施している	104	25.6
およそ半数の利用者について実施している	40	9.9
一部の利用者について実施している	113	27.8
実施していない	144	35.5
無回答	5	1.2
調査数	406	100.0

2) 定期的な居宅訪問の実施頻度の目安

「おおむね1年に1回程度実施している」が28.4%で最も多く、次いで「それ以下の頻度で実施している」が23.0%、「おおむね3か月に1回程度実施している」が20.2%であった。

図表 9.2 定期的な居宅訪問の実施頻度の目安

居宅訪問の実施頻度	件数	%
おおむね月に1回程度実施している	18	7.0
おおむね3か月に1回程度実施している	52	20.2
おおむね半年に1回程度実施している	50	19.5
おおむね1年に1回程度実施している	73	28.4
それ以下の頻度で実施している	59	23.0
無回答	5	1.9
調査数	257	100.0

(非該当 149)

3) 居宅訪問時のアセスメント項目

「住環境評価（家屋・居室等）」が86.0%で最も多く、次いで「福祉用具の評価・検討」が75.1%、「ADL 評価」が65.8%、「家族の希望」が64.2%であった。

図表 9.3 居宅訪問時のアセスメント項目

居宅訪問時のアセスメント項目	件数	%
当初の支援方針	124	48.2
生活目標	147	57.2
家族の希望	165	64.2
1日の過ごし	107	41.6
ADL 評価	169	65.8
IADL評価	114	44.4
介助方法	154	59.9
訪問サービスの実施状況	46	17.9
住環境評価(家屋・居室等)	221	86.0
生活環境評価(屋外・地域)	126	49.0
福祉用具の評価・検討	193	75.1
これまでに達成された内容(得られた効果)	101	39.3
今後の方針(残された課題)	160	62.3
無回答	7	2.7
調査数	257	100.0

(非該当 149)

4) 自宅訪問結果の活用方法

「リハビリテーション計画への反映」が85.6%で最も多く、次いで「家族・介助者等へのフィードバック（目標共有含む）」が74.3%、「本人のフィードバック（目標共有含む）」が73.2%であった。

図表 9.4 自宅訪問結果の活用方法

自宅訪問結果の活用方法	件数	%
目標達成状況の確認	171	66.5
リハビリテーション計画への反映	220	85.6
リハビリテーション会議での共有	171	66.5
本人のフィードバック(目標共有含む)	188	73.2
家族・介助者等へのフィードバック(目標共有含む)	191	74.3
その他	11	4.3
無回答	7	2.7
調査数	257	100.0

(非該当 149)

問 10 医師の関与状況についてご回答ください。

1) リハビリテーションに関する医師からの指示内容

「リハビリテーション実施上の留意点」が 92.1%で最も多く、次いで「リハビリテーションの目的」が 82.3%、「リハビリテーション中止の基準」が 79.3%であった。

図表 10.1 リハビリテーションに関する医師からの指示内容

(複数回答)

医師からの指示内容	件数	%
リハビリテーションの目的	334	82.3
利用者の機能予後	119	29.3
リハビリテーション中止の基準	322	79.3
リハビリテーション実施上の留意点	374	92.1
運動の負荷量	225	55.4
リハビリテーションの実施方針	247	60.8
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の職種に応じた訓練内容	167	41.1
終了の目安・時期	132	32.5
その他	9	2.2
無回答	4	1.0
調査数	406	100.0

2) 貴事業所での医師の役割

「急変時の対応」が 86.0%で最も多く、次いで「疾患の管理」が 65.3%、「リハビリテーション会議等への参加」「リハビリテーション計画の作成・承認」が各々 65.0%であった。

図表 10.2 貴事業所での医師の役割

(複数回答)

医師の役割	件数	%
疾患の管理	265	65.3
運動リスクの管理	244	60.1
急変時の対応	349	86.0
機能・活動の評価	83	20.4
リハビリテーション会議等への参加	264	65.0
本人・家族への説明	224	55.2
リハビリテーション計画の作成・承認	264	65.0
書類作成	96	23.6
業務管理・職員教育	84	20.7
その他	10	2.5
無回答	5	1.2
調査数	406	100.0

3) 主治医（かかりつけ医）との連携

「利用者の急変時に指示を仰ぐ」が65.3%で最も多く、次いで「利用者の急変時に関する状況の報告」が53.9%、「利用者の通常時の様子等に関する状況の報告」が35.2%であった。

図表 10.3 主治医（かかりつけ医）との連携

(複数回答)

主治医(かかりつけ医)との連携	件数	%
利用者の急変時に指示を仰ぐ	265	65.3
利用者の急変時の通院の付き添い	31	7.6
利用者の急変時に関する状況の報告	219	53.9
利用者の通常時の様子等に関する状況の報告	143	35.2
その他	44	10.8
無回答	32	7.9
調査数	406	100.0

問 11 多職種連携についてご回答ください。

1) リハビリテーション会議への基本構成員以外の参加者

「担当ケアマネジャー」が 65.0%で最も多く、次いで「介護福祉士」が 46.3%であった。

図表 11.1 リハビリテーション会議への基本構成員以外の参加者

(複数回答)

リハ会議への参加者(基本構成員以外)	件数	%
歯科医師	4	1.0
看護職員	162	39.9
介護福祉士	188	46.3
介護職員	147	36.2
歯科衛生士	9	2.2
管理栄養士	45	11.1
栄養士	2	0.5
支援相談員・ソーシャルワーカー	93	22.9
1～8以外の事業所職員	38	9.4
かかりつけ医	30	7.4
担当ケアマネジャー	264	65.0
併用利用サービスの関係者	140	34.5
無回答	73	18.0
調査数	406	100.0

2) リハビリテーション会議における主な検討内容

「リハビリテーションの内容」が 78.3%で最も多く、次いで「アセスメント結果などの情報の共有」が 76.1%であった。

図表 11.2 リハビリテーション会議における主な検討内容

(複数回答)

リハ会議における主な検討内容	件数	%
アセスメント結果などの情報の共有	309	76.1
リハビリテーションの内容	318	78.3
多職種協働に向けた支援方針	214	52.7
他サービス事業所との連携	192	47.3
家族との連携	248	61.1
在宅環境の検討	214	52.7
無回答	62	15.3
調査数	406	100.0

3) 管理栄養士が貴事業所で実施している取組内容

「食事摂取量の確認」が82.2%で最も多く、次いで「栄養状態の評価（スクリーニング含む）」「食事嗜好の確認と対応」が各々73.3%であった。

図表 11.3 管理栄養士が貴事業所で実施している取組内容

(複数回答)

管理栄養士の取組内容	件数	%
栄養状態の評価(スクリーニング含む)	33	73.3
栄養ケア計画の作成	26	57.8
提供栄養量の調整	26	57.8
食事摂取量の確認	37	82.2
食事嗜好の確認と対応	33	73.3
利用者・家族への説明・指導	28	62.2
職員への栄養管理の指導	10	22.2
摂食嚥下リハ学会の分類に応じた嚥下調整食の提供	20	44.4
見た目に配慮したソフト食の提供	18	40.0
その他	3	6.7
無回答	2	4.4
調査数	45	100.0

(非該当 361)

4) 歯科医師・歯科衛生士が貴事業所で実施している取組内容

「口腔衛生状態の評価（スクリーニング含む）」「口腔清掃・口腔清掃に関する指導」「利用者の口腔に関する相談」が各々76.9%で最も多く、次いで「口腔機能状態の評価（スクリーニング含む）」が69.2%であった。

図表 11.4 歯科医師・歯科衛生士が貴事業所で実施している取組内容

(複数回答)

歯科医師・歯科衛生士の取組内容	件数	%
口腔機能状態の評価(スクリーニング含む)	9	69.2
口腔衛生状態の評価(スクリーニング含む)	10	76.9
摂食・嚥下等の口腔機能に関する指導	8	61.5
口腔清掃・口腔清掃に関する指導	10	76.9
音声・言語機能に関する指導	7	53.8
歯科治療が必要な方の歯科医院への紹介	7	53.8
利用者の口腔に関する相談	10	76.9
事業所職員への口腔衛生に関する技術的助言および指導	6	46.2
その他	0	0.0
無回答	3	23.1
調査数	13	100.0

(非該当 393)

5) 支援相談員・ソーシャルワーカー が貴事業所で実施している取組内容

「ケアマネとの連携」が82.8%で最も多く、次いで「本人・家族からの希望の聴取」が78.5%、「他事業所との連携」が68.8%であった。

図表 11.5 支援相談員・ソーシャルワーカー が貴事業所で実施している取組内容

(複数回答)

支援相談員・ソーシャルワーカー の取組内容	件数	%
本人・家族からの希望の聴取	73	78.5
福祉サービスの紹介と調整	39	41.9
ケアマネとの連携	77	82.8
他事業所との連携	64	68.8
その他	6	6.5
無回答	15	16.1
調査数	93	100.0

(非該当 313)

6) 「リハビリテーション・個別機能訓練、栄養管理、口腔管理に係る実施計画書」の活用有無
「活用あり」が64.8%、次いで「活用なし」が28.3%であった。

図表 11.6 「リハビリテーション・個別機能訓練、栄養管理、口腔管理に係る実施計画書」の活用有無

実施計画書の活用有無	件数	%
活用あり	263	64.8
活用なし	115	28.3
無回答	28	6.9
調査数	406	100.0

7) 上記6) で活用なしの場合、活用していない理由

「栄養・口腔に関連する加算を算定していない」が64.3%で最も多く、次いで「歯科医師・歯科衛生士が勤務していない」が50.4%であった。

図表 11.7 上記6) で活用なしの場合、活用していない理由

(複数回答)

活用していない理由	件数	%
当該計画書様式の内容を知らない	5	4.3
栄養・口腔に関連する加算を算定していない	74	64.3
管理栄養士が勤務していない	38	33.0
歯科医師・歯科衛生士が勤務していない	58	50.4
報酬上のインセンティブがないため	13	11.3
当該計画書様式の記載が煩雑	12	10.4
報酬算定の管理が煩雑	5	4.3
その他	16	13.9
無回答	8	7.0
調査数	115	100.0

(非該当 291)

問 12 各評価指標について、活用の有無をご回答ください。

「④ 握力」が90.9%で最も多く、次いで「⑲ BI (Barthel Index)」が89.7%、「① TUG (Timed Up and Go Test)」が89.2%、「⑫ HDS-R (長谷川式認知症スケール)」が86.0%であった。

図表 12 各評価指標について

	件数	%
① TUG (Timed Up and Go Test)	362	89.2
② 6分間歩行距離	98	24.1
③ CS30 (30秒椅子立ち上がりテスト)	88	21.7
④ 握力	369	90.9
⑤ BMI	226	55.7
⑥ FAC (Functional Ambulation Categories)	23	5.7
⑦ 10m歩行テスト	193	47.5
⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度	316	77.8
⑨ DBD-13 (Dementia Behavior Disturbance scale - 13)	55	13.5
⑩ Vitality Index	81	20.0
⑪ MMSE (Mini Mental State Examination)	152	37.4
⑫ HDS-R (長谷川式認知症スケール)	349	86.0
⑬ CDR (Clinical Dementia Rating)	7	1.7
⑭ NPI-Q (NPI-Brief Questionnaire Form)	3	0.7
⑮ SLTA (Standard Language Test of Aphasia)	38	9.4
⑯ リバーミード行動記憶検査 (Rivermead Behavioural Memory Test)	9	2.2
⑰ Ability for Basic Movement Scale	12	3.0
⑱ 障害高齢者の日常生活自立度	322	79.3
⑲ BI (Barthel Index)	364	89.7
⑳ FIM (Functional Independence Measure)	134	33.0
21. Lawton の日常生活尺度 (IADL)	94	23.2
22. FAI (Frenchay Activities Index)	115	28.3
23. 老研式活動能力指標	17	4.2
24. LSA (Life Space Assessment)	28	6.9
25. CHART (Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)	4	1.0
26. CIQ (Community Integration Questionnaire)	3	0.7
27. SF-36 (MOS 36-Item Short-Form Health Survey)	4	1.0
28. ICF ステージング	49	12.1
29. WHODAS2.0 (The World Health Organization Disability Assessment Schedule)	2	0.5
30. 生活行為の作業工程分析 (作業遂行アセスメント表)	14	3.4
調査数	406	100.0

問 13 各加算の届出有無、及び算定実人数（令和 3 年 9 月分）についてご回答ください。

1) 各加算の届出有無

「5) 介護職員処遇改善加算」が 75.6%で最も多く、次いで「1) リハビリテーション提供体制加算」が 71.2%、「10) 短期集中個別リハビリテーション実施加算」が 62.3%、「14) 入浴介助加算（Ⅰ）」が 62.1%であった。

図表 13.1 各加算の届出有無（令和 3 年 9 月分）

各加算の届出有無	件数	%
1) リハビリテーション提供体制加算	289	71.2
2) 理学療法士等体制強化加算	111	27.3
3) 中重度ケア体制加算	100	24.6
4) サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	203	50.0
4) サービス提供体制強化加算（Ⅱ）	68	16.7
4) サービス提供体制強化加算（Ⅲ）	71	17.5
5) 介護職員処遇改善加算	307	75.6
6) 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ）	175	43.1
6) 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅱ）	48	11.8
7) 移行支援加算（旧社会参加支援加算）	75	18.5
8) 科学的介護推進体制加算	205	50.5
9) リハビリテーションマネジメント加算（Ａ）イ	99	24.4
9) リハビリテーションマネジメント加算（Ａ）ロ	92	22.7
9) リハビリテーションマネジメント加算（Ｂ）イ	120	29.6
9) リハビリテーションマネジメント加算（Ｂ）ロ	144	35.5
10) 短期集中個別リハビリテーション実施加算	253	62.3
11) 認知症短期集中リハビリテーション実施加算（Ⅰ）	32	7.9
11) 認知症短期集中リハビリテーション実施加算（Ⅱ）	25	6.2
12) 生活行為向上リハビリテーション実施加算	45	11.1
13) 若年性認知症利用者受入加算	24	5.9
14) 入浴介助加算（Ⅰ）	252	62.1
14) 入浴介助加算（Ⅱ）	96	23.6
15) 重度者療養管理加算	58	14.3
16) 栄養アセスメント加算	66	16.3
17) 栄養改善加算	38	9.4
18) 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅰ）	67	16.5
18) 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅱ）	44	10.8
19) 口腔機能向上加算（Ⅰ）	66	16.3
19) 口腔機能向上加算（Ⅱ）	53	13.1
調査数	406	100.0

2) 各加算の届出状況 (算定人数)

14) 入浴介助加算 (Ⅰ) は平均値が 57.31、中央値が 40 でいずれも最も多い。

図表 13.2 各加算の届出状況 (算定人数)

	調査数	平均	中央値	標準偏差	最大値	最小値
9)リハビリテーションマネジメント加算(A)イ 算定人数(人)	65	15.30	5.5	25.14	156.00	0.00
9)リハビリテーションマネジメント加算(A)ロ 算定人数(人)	54	19.53	2.5	35.56	231.00	0.00
9)リハビリテーションマネジメント加算(B)イ 算定人数(人)	85	17.88	9	24.97	124.00	0.00
9)リハビリテーションマネジメント加算(B)ロ 算定人数(人)	114	29.91	19.5	32.78	172.00	0.00
10)短期集中個別リハビリテーション実施加算 算定人数(人)	193	4.31	2	7.76	84.00	0.00
11) 認知症短期集中リハビリテーション実施加 算(Ⅰ) 算定人数(人)	8	3.18	0	12.20	66.00	0.00
11) 認知症短期集中リハビリテーション実施加 算(Ⅱ) 算定人数(人)	3	0.19	0	0.50	2.00	0.00
12)生活行為向上リハビリテーション実施加算 算定人数(人)	21	1.38	1	2.41	12.00	0.00
13)若年性認知症利用者受入加算 算定人数 (人)	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00
14)入浴介助加算(Ⅰ) 算定人数(人)	196	57.31	40	84.94	594.00	0.00
14)入浴介助加算(Ⅱ) 算定人数(人)	73	37.85	11	86.27	650.00	0.00
15)重度者療養管理加算 算定人数(人)	35	6.57	1	22.74	149.00	0.00
17)栄養改善加算 算定人数(人)	11	1.21	0	2.85	15.00	0.00
19)口腔機能向上加算(Ⅰ) 算定人数(人)	33	8.70	2	22.54	160.00	0.00
19)口腔機能向上加算(Ⅱ) 算定人数(人)	33	12.22	2	20.02	101.00	0.00

VI. 貴事業所における取組等

問 14 貴事業所における、利用者家族・親族等との関わり方についてご回答ください

1) リハビリテーション会議への家族・親族等の参加

「参加を案内していない」が 33.3%で最も多く、次いで「すべての家族・親族等について参加を案内している」が 31.0%、「一部の家族・親族等について参加を案内している」が 21.4%であった。

図表 14.1 リハビリテーション会議への家族・親族等の参加

リハ会議への家族・親族等の参加	件数	%
すべての家族・親族等について参加を案内している	126	31.0
およそ半数の家族・親族等について参加を案内している	29	7.1
一部の家族・親族等について参加を案内している	87	21.4
参加を案内していない	135	33.3
無回答	29	7.1
調査数	406	100.0

2) 家族・親族等への在宅での介助に関する指導や説明

「一部の家族・親族等について実施している」が 55.2%で最も多く、次いで「すべての家族・親族等について実施している」が 22.4%であった。

図表 14.2 家族・親族等への在宅での介助に関する指導や説明

在宅での介助に関する指導や説明	件数	%
すべての家族・親族等について実施している	91	22.4
およそ半数の家族・親族等について実施している	57	14.0
一部の家族・親族等について実施している	224	55.2
実施していない	23	5.7
無回答	11	2.7
調査数	406	100.0

3) 2) 以外の家族・親族等への支援

「個別相談への対応」が 52.0%で最も多く、次いで「特に実施していない」が 33.3%であった。

図表 14.3 2) 以外の家族・親族等への支援

2) 以外の家族・親族等への支援	件数	%
家族会の開催	5	1.2
意見交換会の開催	2	0.5
個別相談への対応	211	52.0
その他	14	3.4
特に実施していない	135	33.3
無回答	39	9.6
調査数	406	100.0

問 15 貴事業所における、過去 1 年間（令和 2 年 10 月 1 日～令和 3 年 9 月 30 日）の、地域への貢献活動（地域リハビリテーション活動支援事業等）への参加状況についてご回答ください。

「2）地域ケア会議等への職員の関与（委員として参加したなど）」が 26.8%で最も多く平均は 3.44 人、中央値は 2 人、次いで「1）地域リハビリテーション活動支援事業の一環としての自治体への関与（リハビリテーション専門職を地域支援事業へ派遣した等）」が 23.4%であった。

図表 15 過去 1 年間地域への貢献活動（地域リハビリテーション活動支援事業等）への参加状況

地域への貢献活動	件数	%
1) 地域リハビリテーション活動支援事業の一環としての自治体への関与（リハビリテーション専門職を地域支援事業へ派遣した等）	95	23.4
2) 地域ケア会議等への職員の関与（委員として参加したなど）	109	26.8
3) 地域の介護事業所等への職員の訪問・派遣	32	7.9
4) 地域住民が運営している通いの場への職員の訪問・派遣（指導者として参画した等）	55	13.5
5) 地域住民に対する健康教室（介護予防・健康づくり）の開催	56	13.8
6) 認知症・失語症・障害者等の地域住民が集うカフェやサロンの運営・設置・参加	14	3.4

地域への貢献活動	調査数	平均	中央値	標準偏差	最大値	最小値
2) 地域ケア会議等への職員の関与（委員として参加したなど） 延べ人数（人）	99	3.44	2	4.55	36.00	1.00
3) 地域の介護事業所等への職員の訪問・派遣 訪問回数（回）	28	11.50	4	16.43	55.00	1.00
4) 地域住民が運営している通いの場への職員の訪問・派遣（指導者として参画した等） 訪問回数（回）	50	4.50	2	6.08	28.00	1.00
5) 地域住民に対する健康教室（介護予防・健康づくり）の開催 実施日数（日）	51	12.33	3	34.04	200.00	1.00
6) 認知症・失語症・障害者等の地域住民が集うカフェやサロンの運営・設置・参加 実施日数（日）	12	6.83	3	8.61	32.00	1.00

(3) 集計結果 通所リハ 利用者票

2) 年齢

「85 歳以上～90 歳未満」が 23.9%で最も多く、次いで「80 歳以上～85 歳未満」が 20.4%であった。

図表 2 年齢

年齢	件数	%
60歳未満	58	2.6
60歳以上～65歳未満	73	3.3
65歳以上～70歳未満	145	6.6
70歳以上～75歳未満	250	11.3
75歳以上～80歳未満	316	14.3
80歳以上～85歳未満	451	20.4
85歳以上～90歳未満	529	23.9
90歳以上～95歳未満	280	12.7
95歳以上～100歳未満	84	3.8
100歳以上	13	0.6
無回答	14	0.6
調査数	2213	100.0

3) 性別

「男」が 42.3%、「女」が 54.3%であった。

図表 3 性別

性別	件数	%
男	936	42.3
女	1201	54.3
無回答	76	3.4
調査数	2213	100.0

4) サービスの利用開始時期【西暦】

「2020 年～」が 42.1%で最も多く、次いで「2015 年～2020 年」が 37.4%であった。

図表 4 サービスの利用開始時期【西暦】

利用開始時期	件数	%
～1990年	207	9.4
1990年～1995年	0	0.0
1995年～2000年	1	0.0
2000年～2005年	16	0.7
2005年～2010年	42	1.9
2010年～2015年	165	7.5
2015年～2020年	827	37.4
2020年～	932	42.1
無回答	23	1.0
調査数	2213	100.0

5) 要介護度

「要介護1」が36.3%で最も多く、次いで「要介護2」が31.0%、「要介護3」が17.3%であった。

図表5 要介護度

要介護度	件数	%
要介護1	804	36.3
要介護2	687	31.0
要介護3	383	17.3
要介護4	206	9.3
要介護5	86	3.9
無回答	47	2.1
調査数	2213	100.0

6) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」が27.9%で最も多く、次いで「Ⅰ」が27.8%、「Ⅱb」が16.4%、「Ⅱa」が14.4%であった。

図表6 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度	件数	%
自立	617	27.9
Ⅰ	615	27.8
Ⅱa	318	14.4
Ⅱb	363	16.4
Ⅲa	123	5.6
Ⅲb	30	1.4
Ⅳ	40	1.8
Ⅴ	7	0.3
不明	24	1.1
無回答	76	3.4
調査数	2213	100.0

7) リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

「脳血管障害」が32.5%で最も多く、次いで「骨関節疾患」が30.1%であった。

図表7 リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

リハビリ原因の主たる傷病名	件数	%
脳血管障害	719	32.5
骨関節疾患	666	30.1
関節リウマチ	16	0.7
神経筋疾患(パーキンソン病含む)	143	6.5
虚血性心疾患・心不全	37	1.7
呼吸器疾患(COPD・間質性肺炎含む)	22	1.0
脊髄損傷	38	1.7
がん	22	1.0
認知症	144	6.5
サルコペニア	18	0.8
フレイル	25	1.1
うつ(状態)	8	0.4
その他	125	5.6
不明	3	0.1
無回答	227	10.3
調査数	2213	100.0

8) 現在の障害の状況

「筋力低下」が 81.9%で最も多く、次いで「耐久性低下」が 45.5%、「関節機能障害」が 41.3%であった。

図表 8 現在の障害の状況

現在の障害の状況	件数	%
片麻痺	641	29.0
四肢麻痺	62	2.8
対麻痺	37	1.7
運動失調	174	7.9
感覚障害	504	22.8
呼吸障害	69	3.1
循環障害	97	4.4
耐久性低下	1007	45.5
筋力低下	1813	81.9
関節機能障害	913	41.3
高次脳機能障害	212	9.6
認知機能障害	546	24.7
失語症	142	6.4
構音障害	172	7.8
嚥下障害	106	4.8
疼痛	847	38.3
排泄障害	85	3.8
その他	89	4.0
調査数	2213	100.0

9) 現在の医療介入

「無回答」が 97.2%であった。

図表 9 現在の医療介入

現在の医療介入	件数	%
常時頻回の喀痰吸引を実施している状態	2	0.1
呼吸障害等により人工呼吸器を使用している状態	1	0.0
中心静脈注射を実施している状態	0	0.0
人工腎臓を実施しており、かつ重篤な合併症を有する状態	3	0.1
重篤な心機能障害、呼吸障害等により常時モニター測定を実施している状態	0	0.0
膀胱または直腸の機能障害の程度が身体障害者4級以上に該当し、かつ、ストーマの処置を実施している状態	14	0.6
経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われている状態	24	1.1
褥瘡に対する治療を実施している状態	19	0.9
気管切開が行われている状態	2	0.1
無回答	2151	97.2
調査数	2213	100.0

10) 通所リハ利用開始前に入院・入所していた医療機関

「病院」が56.7%であった。

図表 10 通所リハ利用開始前に入院・入所していた医療機関

現在の医療介入	件数	%
病院	1255	56.7
老健	129	5.8
介護医療院	3	0.1
その他	86	3.9
無回答	740	33.4
調査数	2213	100.0

11) 通所リハ利用開始前に利用していた介護サービス事業所

「無回答」が84.6%であった。

図表 11 通所リハ利用開始前に利用していた介護サービス事業所

通所リハ利用開始前に利用していた 介護サービス事業所	件数	%
通所介護	214	9.7
地域密着型通所介護	10	0.5
認知症対応型通所介護	2	0.1
小規模多機能型居宅介護	4	0.2
看護小規模多機能型居宅介護	1	0.0
介護予防認知症対応型通所介護	0	0.0
介護予防小規模多機能型居宅介護	0	0.0
その他	110	5.0
無回答	1872	84.6
調査数	2213	100.0

12) 現在の居所

「自宅・親戚宅」が90.7%と大半であった。

図表 12 現在の居所

現在の居所	件数	%
自宅・親戚宅	2007	90.7
高齢者住宅	107	4.8
その他	13	0.6
無回答	86	3.9
調査数	2213	100.0

13) 主な利用時間

「6～7時間」が46.4%で最も多く、次いで「1～2時間」が18.4%であった。

図表 13 主な利用時間

主な利用時間	件数	%
1～2時間	408	18.4
2～3時間	119	5.4
3～4時間	183	8.3
4～5時間	51	2.3
5～6時間	178	8.0
6～7時間	1026	46.4
7～8時間	197	8.9
8時間以上	3	0.1
無回答	48	2.2
調査数	2213	100.0

14) 主な利用頻度

「週2回」が42.3%で最も多く、次いで「週3回」が24.9%であった。

図表 14 主な利用頻度

主な利用頻度	件数	%
週1回	282	12.7
週2回	936	42.3
週3回	552	24.9
週4回	122	5.5
週5回以上	78	3.5
無回答	243	11.0
調査数	2213	100.0

15) 加算の算定状況

「入浴介助加算Ⅰ」が40.3%で最も多く、次いで「リハビリテーションマネジメント加算(B) ロ」が22.2%であった。

図表 15 加算の算定状況

加算の算定状況	件数	%
リハビリテーションマネジメント加算(A) イ	208	9.4
リハビリテーションマネジメント加算(A) ロ	186	8.4
リハビリテーションマネジメント加算(B) イ	201	9.1
リハビリテーションマネジメント加算(B) ロ	492	22.2
短期集中個別リハビリテーション実施加算	88	4.0
認知症短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ	10	0.5
認知症短期集中リハビリテーション実施加算Ⅱ	1	0.0
生活行為向上リハビリテーション実施加算	9	0.4
入浴介助加算Ⅰ	892	40.3
入浴介助加算Ⅱ	178	8.0
栄養改善加算	26	1.2
重度者療養管理加算	32	1.4
口腔機能向上加算Ⅰ	43	1.9
口腔機能向上加算Ⅱ	65	2.9
無回答	568	25.7
調査数	2213	100.0

16) 併用サービスの有無

「福祉用具」が 54.6%で最も多く、次いで「通所介護」が 18.5%、「訪問介護」が 17.8%であった。

図表 16 併用サービスの有無

併用サービスの有無	件数	%
訪問リハ	160	7.2
訪問看護	204	9.2
訪問介護	395	17.8
通所介護	409	18.5
短期生活介護	106	4.8
短期療養介護	65	2.9
福祉用具	1209	54.6
障害福祉サービス	11	0.5
その他	57	2.6
無回答	564	25.5
調査数	2213	100.0

17) 入浴サービスの有無

「利用あり」が 57.3%、「利用なし」が 40.6%であった。

図表 17.1 入浴サービスの有無

入浴サービスの有無	件数	%
利用あり	1267	57.3
利用なし	898	40.6
無回答	48	2.2
調査数	2213	100.0

17) 「1. 利用あり」の場合のサービス形態

「集団浴」が 48.0%で最も多く、次いで「個浴」が 30.7%、「機械浴」が 20.7%であった。

図表 17.2 「1. 利用あり」の場合のサービス形態

「1. 利用あり」の場合のサービス形態	件数	%
個浴	389	30.7
機械浴	262	20.7
集団浴	608	48.0
無回答	29	2.3
調査数	1267	100.0

(非該当 946)

18) 過去 6 か月以内に実施した敷地外でのリハビリの有無・内容

「実施なし」が71.9%で最も多く、次いで「屋外歩行訓練（坂道・不整地等）」が21.7%であった。

図表 18 過去6か月以内に実施した敷地外でのリハビリの有無・内容

敷地外でのリハビリの有無・内容	件数	%
スーパー等での買い物訓練	29	1.3
バス等の公共交通機関の利用訓練	3	0.1
屋外歩行訓練(坂道・不整地等)	481	21.7
就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等を含む)	2	0.1
その他	35	1.6
実施なし	1591	71.9
無回答	112	5.1
調査数	2213	100.0

19) 在宅での生活機能の評価の頻度

「実施なし」が29.5%で最も多く、次いで「2～3か月に1回程度」が20.0%、「年に1回以下の頻度」が17.8%であった。

図表 19 在宅での生活機能の評価の頻度

在宅での生活機能の評価の頻度	件数	%
月に1回程度	108	4.9
2～3か月に1回程度	442	20.0
3か月～半年に1回程度	246	11.1
半年～年に1回程度	287	13.0
年に1回以下の頻度	393	17.8
実施なし	653	29.5
無回答	84	3.8
調査数	2213	100.0

20) 在宅での生活状況（離床時間）※通所サービスの利用時間以外

「8時間以上（1日あたり換算）」が49.5%で最も多く、次いで「4時間以上8時間未満（1日あたり換算）」が28.5%、「2時間以上4時間未満（1日あたり換算）」が11.1%であった。

図表 20 在宅での生活状況（離床時間）※通所サービスの利用時間以外

在宅での生活状況（離床時間）	件数	%
0時間（離床なし）	29	1.3
1時間未満（1日あたり換算）	30	1.4
1時間以上2時間未満（1日あたり換算）	104	4.7
2時間以上4時間未満（1日あたり換算）	245	11.1
4時間以上8時間未満（1日あたり換算）	631	28.5
8時間以上（1日あたり換算）	1096	49.5
無回答	78	3.5
調査数	2213	100.0

- 21) 在宅での生活状況（排泄方法）※通所サービスの利用時間以外
「自宅トイレ利用」が90.9%と大半であった。

図表 21 在宅での生活状況（排泄方法）※通所サービスの利用時間以外

在宅での生活状況（排泄方法）	件数	%
自宅トイレ利用	2012	90.9
簡易トイレ	157	7.1
おむつ	229	10.3
その他	44	2.0
無回答	27	1.2
調査数	2213	100.0

- 22) リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）
「身体機能・構造」が88.6%で最も多く、次いで「歩行や移動」が86.8%であった。

図表 22 リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

リハビリ実施計画書の目標	件数	%
精神機能	353	16.0
感覚機能と痛み	834	37.7
身体機能・構造	1960	88.6
学習	106	4.8
選択と実行	61	2.8
問題解決	77	3.5
日課の遂行	338	15.3
コミュニケーション	571	25.8
姿勢の変換	195	8.8
姿勢保持	723	32.7
移乗	433	19.6
物の運搬・移動・操作	130	5.9
歩行や移動	1920	86.8
交通手段の利用	59	2.7
入浴	458	20.7
整容	93	4.2
トイレ動作	340	15.4
更衣	222	10.0
食事	142	6.4
健康管理	387	17.5
買物	135	6.1
料理	70	3.2
家事	178	8.0
家庭用品の管理	21	0.9
他者への援助	14	0.6
対人関係	286	12.9
仕事	30	1.4
趣味や社会活動	333	15.0
人権	3	0.1
無回答	19	0.9
調査数	2213	100.0

23) 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

「筋力増強訓練」が 92.2% で最も多く、次いで「立位歩行訓練」が 84.7%、「関節可動域訓練」が 75.9% であった。

図表 23 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

提供したリハビリの種類	件数	%
関節可動域訓練	1680	75.9
筋力増強訓練	2040	92.2
基本動作訓練	1051	47.5
移乗訓練	401	18.1
立位歩行訓練	1875	84.7
バランス訓練	1203	54.4
持久力(心肺機能)訓練	810	36.6
呼吸機能訓練	51	2.3
階段昇降訓練	675	30.5
促通手技(上肢・下肢麻痺に対する)	191	8.6
巧緻運動・協調性運動訓練	200	9.0
排泄機能訓練	23	1.0
摂食嚥下機能訓練	75	3.4
失語症訓練	81	3.7
構音訓練	80	3.6
認知機能訓練(認知症に対する)	313	14.1
認知機能訓練(高次脳機能障害に対する)	62	2.8
食事動作	82	3.7
整容動作	77	3.5
トイレ動作	200	9.0
入浴動作	251	11.3
更衣動作	147	6.6
調理動作	26	1.2
洗濯動作	29	1.3
掃除動作	13	0.6
趣味活動	149	6.7
服薬管理	55	2.5
車の乗降	92	4.2
家の手入れ	7	0.3
買い物	20	0.9
就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等を含む)	4	0.2
公共交通機関の利用	7	0.3
義肢装具の評価・調整・作成	47	2.1
福祉用具の評価・調整	139	6.3
家屋の評価・環境調整	88	4.0
その他	147	6.6
調査数	2213	100.0

24) 調査日から直近のある1日において、リハビリを提供した総時間数(分)

※分数でお答えください。

■ある1日のリハビリ総提供時間(分)

「30分未満」が30.0%で最も多く、次いで「30分以上～60分未満」が26.5%、「60分以上～90分未満」が20.6%であった。

■ある1日の下肢・体幹への筋力増強訓練、歩行訓練、立ち上がり訓練の総提供時間(分)

「30分未満」が55.9%で最も多く、次いで「30分以上～60分未満」が23.5%、「60分以上～90分未満」が11.9%であった。

図表 24.1 ある1日のリハビリ総提供時間(分)

ある1日のリハビリ総提供時間(分)	件数	%
30分未満	664	30.0
30分以上～60分未満	587	26.5
60分以上～90分未満	455	20.6
90分以上～120分未満	187	8.5
120分以上～150分未満	136	6.1
150分以上～180分未満	46	2.1
180分以上～210分未満	84	3.8
210分以上～240分未満	6	0.3
240分以上	15	0.7
無回答	33	1.5
調査数	2213	100.0

図表 24.2 ある1日の下肢・体幹への筋力増強訓練、歩行訓練、立ち上がり訓練の総提供時間(分)

ある1日の下肢・体幹への筋力増強訓練、歩行訓練、立ち上がり訓練の総提供時間(分)	件数	%
30分未満	1236	55.9
30分以上～60分未満	519	23.5
60分以上～90分未満	263	11.9
90分以上～120分未満	91	4.1
120分以上～150分未満	38	1.7
150分以上～180分未満	21	0.9
180分以上～210分未満	10	0.5
210分以上～240分未満	0	0.0
240分以上	1	0.0
無回答	34	1.5
調査数	2213	100.0

- 25) 調査日から直近のある1日において、重点的に取り組んだ（提供時間が多い3つの訓練項目）リハビリの種類と実施時間
- 「筋力増強訓練」が23.3%で最も多く、次いで「立位歩行訓練」が22.1%、「関節可動域訓練」が14.8%であった。

図表 25 調査日から直近のある1日において、重点的に取り組んだ
（提供時間が多い3つの訓練項目）リハビリの種類と実施時間

重点的に取り組んだリハビリの種類	件数	%	訓練時間の平均	訓練時間の中央値	標準偏差	最大値	最小値
関節可動域訓練	981	14.8	14.65063	10	14.64194	240	0
筋力増強訓練	1549	23.3	17.03165	10	16.73342	120	2
基本動作訓練	299	4.5	12.19732	10	9.018999	60	2
移乗訓練	84	1.3	9.380952	10	5.654549	30	2
立位歩行訓練	1465	22.1	12.52877	10	8.468386	80	2
バランス訓練	460	6.9	11.31808	10	8.101959	50	2
持久力(心肺機能)訓練	349	5.3	14.15759	10	10.27646	100	2
呼吸機能訓練	14	0.2	17.5	10	23.66055	100	5
階段昇降訓練	180	2.7	10.77222	5	14.67115	100	0
促通手技(上肢・下肢麻痺に対する)	78	1.2	12.42308	10	6.378086	40	5
巧緻運動・協調性運動訓練	70	1.1	14.72857	10	11.54485	60	4
排泄機能訓練	2	0.0	15	15	5	20	10
摂食嚥下機能訓練	21	0.3	15	10	6.36209	30	10
失語症訓練	45	0.7	18.88889	20	8.020037	55	5
構音訓練	24	0.4	14.5	15	6.733003	30	3
認知機能訓練(認知症に対する)	128	1.9	26.08661	20	23.44369	120	2
認知機能訓練(高次脳機能障害に対する)	23	0.3	16.30435	10	9.114894	30	5
食事動作	6	0.1	13.33333	10	6.871843	25	5
整容動作	4	0.1	22.5	12.5	21.93741	60	5
トイレ動作	33	0.5	13.63636	10	6.659776	30	5
入浴動作	61	0.9	21.43333	20	11.15253	60	1
更衣動作	16	0.2	10.33333	10	5.545769	20	2
調理動作	9	0.1	15	10	10.80123	30	5
洗濯動作	7	0.1	11.42857	10	4.403153	20	5
掃除動作	3	0.0	13.33333	10	4.714045	20	10
趣味活動	63	0.9	49.28571	30	55.21514	200	5
服薬管理	0	0.0	-	-	-	0	0
車の乗降	0	0.0	-	-	-	0	0
家の手入れ	0	0.0	-	-	-	0	0
買い物	3	0.0	10	10	0	10	10
就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等含)	1	0.0	30	30	0	30	30
公共交通機関の利用	0	0.0	-	-	-	0	0
義肢装具の評価・調整・作成	2	0.0	12.5	12.5	7.5	20	5
福祉用具の評価・調整	2	0.0	12.5	12.5	2.5	15	10
家屋の評価・環境調整	4	0.1	16.25	12.5	8.196798	30	10
その他	84	1.3	23.19048	15	33.50781	240	3
無回答	569	8.6	-	-	-	-	-

26) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

⑨排便コントロール、⑩排尿コントロールは「利用開始時」、②車いすからベッドの移乗、③整容は「6 か月前」、④トイレ動作、⑤入浴、⑥歩行、⑦階段昇降、⑧着替えは「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 26.1 利用者のADL

利用者のADL (Barthel Index)	【利用開始 時】平均	【6か月前】 平均	【現在】平 均
①食事	9.49	9.49	9.44
②車いすからベッドの移乗	12.84	13.08	13.04
③整容	4.06	4.12	4.09
④トイレ動作	8.53	8.60	8.61
⑤入浴	1.93	1.98	2.07
⑥歩行	10.36	10.61	10.78
⑦階段昇降	5.32	5.47	5.62
⑧着替え	7.78	7.81	7.88
⑨排便コントロール	9.04	8.97	8.92
⑩排尿コントロール	8.89	8.76	8.69
合計点	77.89	78.45	78.73

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	【利用開始 時】合計点	【6か月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	13	17	24
5以上～10未満	12	12	10
10以上～15未満	7	8	13
15以上～20未満	14	9	10
20以上～25未満	12	13	16
25以上～30未満	18	14	17
30以上～35未満	13	16	18
35以上～40未満	25	16	23
40以上～45未満	34	22	22
45以上～50未満	38	34	42
50以上～55未満	53	47	49
55以上～60未満	60	55	58
60以上～65未満	72	64	79
65以上～70未満	115	93	104
70以上～75未満	107	97	105
75以上～80未満	145	133	140
80以上～85未満	198	177	223
85以上～90未満	264	236	250
90以上～95未満	265	250	271
95以上～100未満	233	226	275
100	253	244	314
無回答	243	409	123

26) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

③認知機能～オリエンテーション、⑤認知機能～精神活動、⑥食事～嚥下機能、⑦食事～食事動作および食事介助、⑩整容～口腔ケア、⑪整容～整容は「利用開始時」、①基本動作は「6 か月前」、②歩行・移動、④認知機能～コミュニケーション、⑧排泄の動作、⑨入浴動作、⑫整容～衣服の着脱、⑬社会参加～余暇、⑭社会参加～社会交流は「現在」が最も高い。合計点は「利用開始時」が最も高い。

図表 26.2 利用者のADL (ICF ステージング)

利用者のADL (ICF ステージング)	【利用開始 時(点)】平均	【6か月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①基本動作【利用開始時(点)】	4.20	4.33	4.31
②歩行・移動【利用開始時(点)】	2.94	3.07	3.10
③認知機能～オリエンテーション【利用開始時(点)】	4.63	4.56	4.58
④認知機能～コミュニケーション【利用開始時(点)】	4.19	4.17	4.20
⑤認知機能～精神活動【利用開始時(点)】	4.26	4.20	4.20
⑥食事～嚥下機能【利用開始時(点)】	4.55	4.51	4.51
⑦食事～食事動作および食事介助【利用開始時(点)】	4.58	4.53	4.57
⑧排泄の動作【利用開始時(点)】	4.26	4.28	4.29
⑨入浴動作【利用開始時(点)】	3.34	3.42	3.44
⑩整容～口腔ケア【利用開始時(点)】	4.19	4.15	4.16
⑪整容～整容【利用開始時(点)】	3.83	3.77	3.75
⑫整容～衣服の着脱【利用開始時(点)】	3.79	3.79	3.82
⑬社会参加～余暇【利用開始時(点)】	3.05	3.16	3.19
⑭社会参加～社会交流【利用開始時(点)】	3.28	3.34	3.35
合計点	53.23	52.94	53.17

利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)	【利用開始 時】合計点	【6か月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	2	3	3
5以上～10未満	3	5	6
10以上～15未満	4	4	5
15以上～20未満	4	4	3
20以上～25未満	3	3	5
25以上～30未満	4	5	6
30以上～35未満	12	9	8
35以上～40未満	14	15	17
40以上～45未満	17	16	22
45以上～50未満	31	24	36
50以上～55未満	35	30	33
55以上～60未満	64	65	70
60以上～65未満	83	66	76
65以上～70以下	47	54	70
無回答	1888	1908	1851

26) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

⑪旅行は「利用開始時」、⑤力仕事は「6 か月前」、①食事の用意、②食事の片付け、③洗濯、④掃除や整頓、⑥買い物、⑦外出、⑧屋外歩行、⑨趣味、⑩交通手段の利用、⑫庭仕事、⑬家や車の手入れ、⑮勤労は「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 26.3 利用者の IADL (FAI:Frenchay Activities Index)

利用者のIADL (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開始 時(点)】平均	【6か月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①食事の用意	0.76	0.82	0.84
②食事の片付け	0.92	1.01	1.02
③洗濯	0.79	0.84	0.86
④掃除や整頓	0.83	0.93	0.94
⑤力仕事	0.15	0.17	0.16
⑥買い物	0.66	0.74	0.77
⑦外出	1.30	1.47	1.49
⑧屋外歩行	1.16	1.27	1.29
⑨趣味	0.77	0.89	0.92
⑩交通手段の利用	0.29	0.33	0.34
⑪旅行	0.07	0.06	0.06
⑫庭仕事	0.24	0.29	0.30
⑬家や車の手入れ	0.07	0.08	0.09
⑭読書	0.70	0.78	0.78
⑮勤労	0.06	0.07	0.08
合計点	8.71	9.69	9.88

利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開始 時】合計点	【6か月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	639	512	561
5以上～10未満	315	333	379
10以上～15未満	215	190	228
15以上～20未満	153	158	180
20以上～25未満	125	132	149
25以上～30未満	59	65	81
30以上～35未満	16	24	31
35以上～40未満	5	4	3
40以上～45未満	0	1	1
無回答	685	793	599

(4) 集計結果 単純集計表 訪問リハ 事業所票

問1 令和3年10月1日時点の貴事業所の基本情報についてご回答ください。

1) 貴事業所の同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

「通所リハビリテーション」が66.7%で最も多く、次いで「訪問リハビリテーション」が56.7%、「訪問介護」が39.0%、「居宅介護支援」が35.5%であった。

図表 1.1 貴事業所の同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

(複数回答)

サービス	件数	%
通所リハビリテーション	94	66.7
訪問リハビリテーション	80	56.7
訪問看護	55	39.0
訪問介護	17	12.1
通所介護	10	7.1
短期入所生活介護	7	5.0
短期入所療養介護	22	15.6
居宅介護支援	50	35.5
地域包括支援センター	10	7.1
認知症対応型共同生活介護	2	1.4
その他	10	7.1
併設サービスはない	8	5.7
無回答	3	2.1
調査数	141	100.0

2) 訪問リハビリテーションの開設者種別（訪問リハのみ）

「病院」が48.2%で最も多く、次いで「診療所」が37.6%、「介護老人保健施設」が13.5%であった。

図表 1.2 訪問リハビリテーションの開設者種別（訪問リハのみ）

訪問リハビリテーションの開設者種別	件数	%
病院	68	48.2
診療所	53	37.6
介護老人保健施設	19	13.5
介護医療院	0	0.0
無回答	1	0.7
調査数	141	100.0

問2 貴事業所の職員体制についてご回答ください。

医師、理学療法士、作業療法士は「0人超～1人以下」が最も多く、言語聴覚士は「0人」が最も多い。

図表2 職員体制（常勤換算数）

職員体制(常勤換算数)	医師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
0人(一部無回答は0)	9	4	35	48
0人超～1人以下	86	59	47	29
1人超～2人以下	17	29	9	5
2人超～3人以下	3	17	6	0
3人超～4人以下	2	9	0	0
4人超～5人以下	2	5	0	0
5人超～6人以下	2	3	0	0
6人超～7人以下	1	2	1	0
7人超～8人以下	3	0	0	0
8人超～9人以下	0	0	0	0
9人超～10人以下	0	1	0	0
10人以上	0	2	0	0
無回答(すべての項目に無回答)	0	0	0	0

Ⅱ. 利用者の状況

問3 令和3年10月1日時点の利用登録者数（実人数）についてご回答ください。

1) 利用者数／入所者数

「1人～10人」「11人～20人」が18.4%で最も多く、次いで「21人～30人」が14.2%であった。

図表 3.1 利用者登録者数（実人数）

利用者登録者数(実人数)	件数	%
1人～10人	26	18.4
11人～20人	26	18.4
21人～30人	20	14.2
31人～40人	15	10.6
41人～50人	8	5.7
51人～60人	6	4.3
61人～71人	7	5.0
71人～80人	5	3.5
81人～90人	3	2.1
91人～100人	0	0.0
101人～110人	2	1.4
111人～120人	1	0.7
121人～130人	1	0.7
131人～140人	0	0.0
141人～150人	0	0.0
151人以上	4	2.8
無回答	15	10.6
調査数	141	100.0

2) 要介護度別の利用登録者

すべての要介護度で「1人～10人」が最も多い。

図表 3.2 要介護度別の利用登録者

利用者登録者数(実人数)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中
1人～10人	79	96	98	92	89	91	93	5
11人～20人	2	8	13	17	18	15	10	0
21人～30人	0	1	5	6	5	3	3	0
31人～40人	1	1	1	3	0	2	0	0
41人～50人	0	1	1	2	1	0	0	0
51人～60人	0	0	0	0	1	0	0	0
61人～71人	0	0	0	0	0	0	0	0
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	29	21	18	17	18	20	26	53

- 3) 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数
すべての日常生活自立度で「1人～10人」が最も多い。

図表 3.3 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
1人～10人	25	62	75	67	74	73	67	53	62
11人～20人	1	2	7	23	15	7	5	0	5
21人～30人	0	1	2	7	5	2	1	0	1
31人～40人	0	0	0	0	1	1	0	0	0
41人～50人	0	0	0	3	0	1	0	0	0
51人～60人	0	0	0	1	0	0	0	0	0
61人～71人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	54	43	43	35	40	43	47	52	50

- 4) 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数
すべての日常生活自立度で「1人～10人」が最も多い。

図表 3.4 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
1人～10人	62	60	86	80	66	36	54	26
11人～20人	15	23	5	9	3	0	1	0
21人～30人	8	3	1	1	1	0	1	0
31人～40人	5	4	0	1	0	0	0	0
41人～50人	1	1	0	0	0	0	0	0
51人～60人	0	0	0	0	0	0	0	0
61人～71人	1	0	0	0	0	0	0	0
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	1	0	0	0	0	0	0	0
無回答	41	40	42	42	48	55	53	57

Ⅲ. リハビリテーションの評価指標の活用状況

問4 各評価指標について、活用の有無をご回答ください。

「①⑨ BI (Barthel Index)」が86.5%で最も多く、次いで「⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度」が83.7%、「⑱ 障害高齢者の日常生活自立度」が81.6%であった。

図表4 各評価指標について

	件数	%
① TUG(Timed Up and Go Test)	82	58.2
② 6分間歩行距離	32	22.7
③ CS30 (30秒椅子立ち上がりテスト)	30	21.3
④ 握力	90	63.8
⑤ BMI	62	44.0
⑥ FAC (Functional Ambulation Categories)	4	2.8
⑦ 10m歩行テスト	49	34.8
⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度	118	83.7
⑨ DBD-13 (Dementia Behavior Disturbance scale - 13)	6	4.3
⑩ Vitality Index	12	8.5
⑪ MMSE (Mini Mental State Examination)	59	41.8
⑫ HDS-R(長谷川式認知症スケール)	110	78.0
⑬ CDR(Clinical Dementia Rating)	2	1.4
⑭ NPI-Q(NPI-Brief Questionnaire Form)	2	1.4
⑮ SLTA(Standard Language Test of Aphasia)	15	10.6
⑯ リバーミード行動記憶検査(Rivermead Behavioural Memory Test)	7	5.0
⑰ Ability for Basic Movement Scale	7	5.0
⑱ 障害高齢者の日常生活自立度	115	81.6
⑲ BI (Barthel Index)	122	86.5
⑳ FIM(Functional Independence Measure)	68	48.2
21. Lawton の日常生活尺度 (IADL)	36	25.5
22. FAI(Frenchay Activities Index)	44	31.2
23. 老研式活動能力指標	5	3.5
24. LSA(Life Space Assessment)	16	11.3
25. CHART (Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)	0	0.0
26. CIQ (Community Integration Questionnaire)	0	0.0
27. SF-36 (MOS 36-Item Short-Form Health Survey)	5	3.5
28. ICF ステージング	15	10.6
29. WHODAS2.0 (The World Health Organization Disability Assessment Schedule)	0	0.0
30. 生活行為の作業工程分析(作業遂行アセスメント表)	5	3.5

IV. 加算の算定状況

問5 各加算の届出有無、（令和3年9月分）についてご回答ください。

「1）短期集中リハビリテーション実施加算」が78.7%で最も多く、次いで「4）サービス提供体制強化加算（Ⅰ）」が73.8%であった。

図表5 各加算の届出有無

各加算の届出有無	件数	%
1)短期集中リハビリテーション実施加算	111	78.7
2)リハビリテーションマネジメント加算（A）イ	52	36.9
2)リハビリテーションマネジメント加算（A）ロ	41	29.1
2)リハビリテーションマネジメント加算（B）イ	43	30.5
2)リハビリテーションマネジメント加算（B）ロ	37	26.2
3)移行支援加算(旧社会参加支援加算)	50	35.5
4)サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	104	73.8
4)サービス提供体制強化加算（Ⅱ）	22	15.6

(5) 集計結果 単純集計表 老健 事業所票

問1 令和3年10月1日時点の貴事業所の基本情報についてご回答ください。

1) 貴事業所の同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

「短期入所療養介護」が91.7%で最も多く、次いで「通所リハビリテーション」が86.9%であった。

図表 1.1 貴事業所の同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

(複数回答)

サービス	件数	%
通所リハビリテーション	73	86.9
訪問リハビリテーション	31	36.9
訪問看護	18	21.4
訪問介護	10	11.9
通所介護	7	8.3
短期入所生活介護	9	10.7
短期入所療養介護	77	91.7
居宅介護支援	47	56.0
地域包括支援センター	9	10.7
認知症対応型共同生活介護	8	9.5
その他	7	8.3
併設サービスはない	1	1.2
無回答	1	1.2
調査数	84	100.0

3) 介護報酬上の届け出

「1 超強化型」が31.0%で最も多く、次いで「4 基本型」が26.2%、「3 加算型」が25.0%であった。

図表 1.3 介護報酬上の届け出

利用定員数	件数	%
1 超強化型	26	31.0
2 在宅強化型	11	13.1
3 加算型	21	25.0
4 基本型	22	26.2
5 その他型	2	2.4
無回答	2	2.4
調査数	84	100.0

4) 入所定員数

「100 人～120 人未満」が 39.3%で最も多く、次いで「80 人～100 人未満」が 26.2%であった。

図表 1.4 入所定員数

利用定員数	件数	%
0人～20人未満	2	2.4
20人～40人未満	3	3.6
40人～60人未満	5	6.0
60人～80人未満	9	10.7
80人～100人未満	22	26.2
100人～120人未満	33	39.3
120人～140人未満	5	6.0
140人～160人未満	3	3.6
160人～180人未満	0	0.0
180人以上	0	0.0
無回答	2	2.4
調査数	84	100.0

問2 貴事業所の職員体制についてご回答ください。

医師、作業療法士、管理栄養士、介護支援専門員は「1人超～2人以下」、歯科医師、薬剤師、言語聴覚士、歯科衛生士、栄養士は「0人超～1人以下」が最も多い。

図表2 職員体制（常勤換算数）

職員体制（常勤換算数）	医師	歯科医師	薬剤師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護職員	介護福祉士	その他介護職員
0人（一部無回答は0）	0	35	7	1	5	24	0	0	2
0人超～1人以下	56	7	53	18	22	31	2	1	5
1人超～2人以下	23	0	0	15	23	4	3	0	5
2人超～3人以下	1	0	0	18	14	1	2	0	4
3人超～4人以下	0	0	0	17	8	0	0	1	5
4人超～5人以下	0	0	0	9	2	0	3	0	10
5人超～6人以下	0	0	0	4	0	0	1	1	5
6人超～7人以下	0	0	0	0	0	0	4	4	7
7人超～8人以下	0	0	0	0	0	0	8	0	8
8人超～9人以下	0	0	0	0	0	0	6	1	3
9人超～10人以下	1	0	0	0	0	0	13	1	6
10人超～20人以下	0	0	0	1	0	0	38	24	18
20人超～30人以下	0	0	0	0	0	0	0	31	0
30人超～40人以下	0	0	0	0	0	0	0	11	1
40人超～50人以下	0	0	0	0	0	0	0	3	0
50人超～	0	0	0	0	0	0	0	1	0
無回答（すべての項目に無回答）	3	42	24	1	10	24	4	5	5

職員体制（常勤換算数）	歯科衛生	管理栄養	栄養士	支援相談	介護支援
0人（一部無回答は0）	36	2	33	0	0
0人超～1人以下	11	53	7	21	43
1人超～2人以下	1	19	3	23	26
2人超～3人以下	0	3	1	23	6
3人超～4人以下	0	1	0	8	3
4人超～5人以下	0	0	0	5	0
5人超～6人以下	0	0	0	0	0
6人超～7人以下	0	0	0	0	0
7人超～8人以下	0	0	0	0	0
8人超～9人以下	0	0	0	0	0
9人超～10人以下	0	0	0	0	0
10人以上	0	0	0	0	0
無回答（すべての項目に無回答）	36	6	40	4	6

Ⅱ. 利用者の状況

問3 令和3年10月1日時点の利用登録者数（実人数）についてご回答ください。

1) 利用者数／入所者数

「71人～80人」「81人～90人」が20.2%で最も多い。

図表 3.1 利用者登録者数（実人数）

利用者登録者数(実人数)	件数	%
1人～10人	2	2.4
11人～20人	1	1.2
21人～30人	2	2.4
31人～40人	0	0.0
41人～50人	6	7.1
51人～60人	3	3.6
61人～71人	10	11.9
71人～80人	17	20.2
81人～90人	17	20.2
91人～100人	9	10.7
101人～110人	2	2.4
111人～120人	3	3.6
121人～130人	1	1.2
131人～140人	1	1.2
141人～150人	1	1.2
151人以上	1	1.2
無回答	8	9.5
調査数	84	100.0

2) 要介護度別の利用登録者

要介護1は「1人～10人」、要介護2～5は「11人～20人」が最も多い。

図表 3.2 要介護度別の利用登録者

利用者登録者数(実人数)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中
1人～10人	1	1	44	26	10	10	28	6
11人～20人	0	0	25	29	38	31	42	0
21人～30人	0	0	5	19	26	30	8	0
31人～40人	0	0	1	4	4	8	0	0
41人～50人	0	0	0	0	0	0	0	0
51人～60人	0	0	0	0	0	0	0	0
61人～71人	0	0	0	0	0	0	0	0
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	0	0	1	1	1	1	1	0
無回答	33	34	6	4	4	3	4	33

3) 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数

J2、A1、C1、C2は「1人～10人」、A2、B1、B2は「11人～20人」が最も多い。

図表 3.3 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
1人～10人	4	9	30	42	21	13	9	62	46
11人～20人	1	0	0	18	35	32	25	4	14
21人～30人	0	0	2	1	13	14	21	0	4
31人～40人	0	0	0	3	3	12	13	0	1
41人～50人	0	0	0	0	0	2	2	0	0
51人～60人	0	0	0	0	0	0	1	0	0
61人～71人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	34	36	27	16	11	10	12	14	13

4) 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数

Ⅲaは「21人～30人」が最も多く、その他の日常生活自立度では「1人～10人」が最も多い。

図表 3.4 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M
1人～10人	41	53	43	23	16	50	50	26
11人～20人	2	12	20	21	17	19	14	1
21人～30人	0	1	6	17	21	1	3	0
31人～40人	0	0	1	9	11	1	1	0
41人～50人	0	0	0	3	6	0	0	0
51人～60人	0	0	0	0	2	0	0	0
61人～71人	0	0	0	1	1	0	0	0
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	0
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	22	15	12	9	9	10	10	28

Ⅲ. リハビリテーションの評価指標の活用状況

問4 各評価指標について、活用の有無をご回答ください。

「⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度」が95.2%で最も多く、次いで「⑫ HDS-R（長谷川式認知症スケール）」が91.7%、「⑲ BI（Barthel Index）」が90.5%であった。

図表4 各評価指標について

	件数	%
① TUG(Timed Up and Go Test)	65	77.4
② 6分間歩行距離	19	22.6
③ CS30(30秒椅子立ち上がりテスト)	15	17.9
④ 握力	67	79.8
⑤ BMI	60	71.4
⑥ FAC(Functional Ambulation Categories)	3	3.6
⑦ 10m歩行テスト	38	45.2
⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度	80	95.2
⑨ DBD-13(Dementia Behavior Disturbance scale - 13)	17	20.2
⑩ Vitality Index	24	28.6
⑪ MMSE(Mini Mental State Examination)	44	52.4
⑫ HDS-R(長谷川式認知症スケール)	77	91.7
⑬ CDR(Clinical Dementia Rating)	0	0.0
⑭ NPI-Q(NPI-Brief Questionnaire Form)	0	0.0
⑮ SLTA(Standard Language Test of Aphasia)	13	15.5
⑯ リバーミード行動記憶検査(Rivermead Behavioural Memory Test)	2	2.4
⑰ Ability for Basic Movement Scale	1	1.2
⑱ 障害高齢者の日常生活自立度	73	86.9
⑲ BI(Barthel Index)	76	90.5
⑳ FIM(Functional Independence Measure)	38	45.2
21. Lawton の日常生活尺度(IADL)	11	13.1
22. FAI(Frenchay Activities Index)	13	15.5
23. 老研式活動能力指標	6	7.1
24. LSA(Life Space Assessment)	2	2.4
25. CHART(Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)	1	1.2
26. CIQ(Community Integration Questionnaire)	0	0.0
27. SF-36(MOS 36-Item Short-Form Health Survey)	0	0.0
28. ICF ステージング	28	33.3
29. WHODAS2.0(The World Health Organization Disability Assessment Schedule)	0	0.0
30. 生活行為の作業工程分析(作業遂行アセスメント表)	7	8.3

IV. 加算の算定状況

問5 各加算の届出有無、及び算定実人数（令和3年9月分）についてご回答ください。

「1) 短期集中リハビリテーション実施加算」が82.0%で最も多く、次いで「16) 科学的介護推進体制加算」が61.0%であった。

図表5 各加算の届出有無

各加算の届出有無	件数	%
1) 短期集中リハビリテーション実施加算	82	82.0
2) 認知症短期集中リハビリテーション実施加算	53	53.0
3) 認知症ケア加算	19	19.0
4) 若年性認知症入所者受入加算	24	24.0
5) 在宅復帰支援機能加算	38	38.0
6) 栄養マネジメント強化加算	33	33.0
7) 経口移行加算	29	29.0
8) 経口維持加算	55	55.0
9) 口腔衛生管理加算	35	35.0
10) 認知症専門ケア加算（Ⅰ）	3	3.0
10) 認知症専門ケア加算（Ⅱ）	2	2.0
11) 認知症行動・心理症状緊急対応加算	14	14.0
12) リハビリテーションマネジメント計画書情報加算	58	58.0
13) 褥瘡マネジメント加算（Ⅰ）	46	46.0
13) 褥瘡マネジメント加算（Ⅱ）	39	39.0
13) 褥瘡マネジメント加算（Ⅲ）	19	19.0
14) 排せつ支援加算（Ⅰ）	47	47.0
14) 排せつ支援加算（Ⅱ）	28	28.0
14) 排せつ支援加算（Ⅲ）	25	25.0
14) 排せつ支援加算（Ⅳ）	21	21.0
15) 自立支援促進加算	32	32.0
16) 科学的介護推進体制加算	61	61.0
17) サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	37	37.0
17) サービス提供体制強化加算（Ⅱ）	31	31.0
17) サービス提供体制強化加算（Ⅲ）	21	21.0

（6）集計結果 単純集計表 介護医療院 事業所票

問1 令和3年10月1日時点の貴事業所の基本情報についてご回答ください。

1) 貴事業所の同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

「通所リハビリテーション」が45.7%で最も多く、次いで「短期入所療養介護」が39.5%であった。

図表 1.1 貴事業所の同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

(複数回答)

サービス	件数	%
通所リハビリテーション	37	45.7
訪問リハビリテーション	26	32.1
訪問看護	28	34.6
訪問介護	10	12.3
通所介護	8	9.9
短期入所生活介護	3	3.7
短期入所療養介護	32	39.5
居宅介護支援	29	35.8
地域包括支援センター	5	6.2
認知症対応型共同生活介護	5	6.2
その他	12	14.8
併設サービスはない	11	13.6
無回答	7	8.6
調査数	81	100.0

5) 施設類型

「1 I型」が20.3%、「2 II型」が5.6%であった。

図表 1.5 施設類型

施設類型	件数	%
1 I型	62	20.3
2 II型	17	5.6
無回答	2	0.7
調査数	81	100.0

6) 入所定員数

「40 人～60 人未満」が 8.5%で最も多く、次いで「20 人～40 人未満」が 5.2%、「0 人～20 人未満」が 4.6%であった。

図表 1.6 入所定員数

利用定員数	件数	%
0人～20人未満	14	4.6
20人～40人未満	16	5.2
40人～60人未満	26	8.5
60人～80人未満	9	2.9
80人～100人未満	6	2.0
100人～120人未満	3	1.0
120人～140人未満	0	0.0
140人～160人未満	4	1.3
160人～180人未満	1	0.3
180人以上	1	0.3
無回答	1	0.3
調査数	81	100.0

問2 貴事業所の職員体制についてご回答ください。

医師、管理栄養士、介護支援専門員は「1人超～2人以下」、歯科医師、薬剤師、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、栄養士、支援相談員・ソーシャルワーカーは「0人超～1人以下」が最も多い。

図表2 職員体制（常勤換算数）

職員体制（常勤換算数）	医師	歯科医師	薬剤師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護職員	介護福祉士	その他介護職員
0人（一部無回答は0）	1	31	3	2	17	25	1	0	4
0人超～1人以下	35	8	49	36	25	25	1	4	8
1人超～2人以下	19	0	11	15	8	5	2	7	11
2人超～3人以下	9	1	1	9	2	1	6	2	11
3人超～4人以下	7	0	1	2	4	0	1	3	4
4人超～5人以下	4	0	0	2	2	0	3	5	8
5人超～6人以下	1	0	0	1	0	1	5	1	1
6人超～7人以下	1	0	0	3	0	0	3	2	3
7人超～8人以下	3	0	1	0	0	0	6	8	7
8人超～9人以下	0	0	0	0	0	0	5	6	1
9人超～10人以下	0	0	0	0	0	0	7	7	3
11人超～20人以下	0	0	0	0	0	0	28	22	10
21人超～31人以下	0	0	0	0	0	0	6	3	3
31人超～41人以下	0	0	0	0	0	0	4	2	0
41人超～51人以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51人超～	0	0	0	0	0	0	1	1	0
無回答（すべての項目に無回答）	0	0	0	0	0	0	0	0	0

職員体制（常勤換算数）	歯科衛生	管理栄養	栄養士	支援相談	介護支援
0人（一部無回答は0）	26	1	28	24	3
0人超～1人以下	13	58	16	17	57
1人超～2人以下	3	8	2	5	8
2人超～3人以下	0	3	1	1	5
3人超～4人以下	0	0	0	1	1
4人超～5人以下	0	0	1	0	1
5人超～6人以下	1	1	0	0	0
6人超～7人以下	0	0	0	0	0
7人超～8人以下	0	0	0	0	0
8人超～9人以下	0	0	0	0	0
9人超～10人以下	0	0	0	0	0
10人以上	0	0	0	0	0
無回答（すべての項目に無回答）	0	0	0	0	0

Ⅱ. 利用者の状況

問3 令和3年10月1日時点の利用登録者数（実人数）についてご回答ください。

1) 利用者数／入所者数

「31人～40人」が22.2%で最も多く、次いで「51人～60人」が14.8%、「11人～20人」が12.3%であった。

図表 3.1 利用者登録者数（実人数）

利用者登録者数(実人数)	件数	%
1人～10人	4	4.9
11人～20人	10	12.3
21人～30人	6	7.4
31人～40人	18	22.2
41人～50人	9	11.1
51人～60人	12	14.8
61人～71人	1	1.2
71人～80人	0	0.0
81人～90人	5	6.2
91人～100人	5	6.2
101人～110人	0	0.0
111人～120人	1	1.2
121人～130人	1	1.2
131人～140人	0	0.0
141人～150人	2	2.5
151人以上	3	3.7
無回答	4	4.9
調査数	81	100.0

2) 要介護度別の利用登録者

要介護1～3は「1人～10人」、要介護4～5は「11人～20人」が最も多い。

図表 3.2 要介護度別の利用登録者

利用者登録者数(実人数)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中
1人～10人	1	1	18	38	55	22	21	3
11人～20人	0	0	1	4	9	31	25	0
21人～30人	0	0	0	1	1	11	13	0
31人～40人	0	0	0	0	0	6	8	0
41人～50人	0	0	0	0	1	4	5	0
51人～60人	0	0	0	0	1	1	6	0
61人～71人	0	0	0	0	0	2	1	0
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	1
81人～91人	0	0	0	0	0	1	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	0	0	0	0	0	1	1	0
無回答	40	41	33	24	12	2	1	37

3) 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数

A1～C1は「1人～10人」が最も多い。

図表 3.3 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
1人～10人	1	2	2	18	29	48	38	54	14
11人～20人	0	1	0	0	1	4	16	7	19
21人～30人	0	0	1	1	1	2	5	5	13
31人～40人	0	0	0	1	0	0	1	0	11
41人～50人	0	0	0	0	0	1	5	0	5
51人～60人	0	0	0	0	0	0	1	0	3
61人～71人	0	0	0	0	0	0	0	0	1
71人～80人	0	0	0	0	0	0	0	0	1
81人～91人	0	0	0	0	0	0	0	0	1
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0	1
101人以上	0	0	0	0	0	0	1	0	2
無回答	49	47	48	39	37	21	14	14	10

4) 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数

すべての日常生活自立度で「1人～10人」が最も多い。

図表 3.4 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数

利用登録者数(実人数)	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
1人～10人	9	22	34	42	36	36	23	30
11人～20人	0	1	2	5	17	13	19	4
21人～30人	1	0	0	1	4	7	12	0
31人～40人	0	1	0	0	4	1	6	2
41人～50人	0	0	0	0	1	1	2	0
51人～60人	0	0	0	0	0	2	3	1
61人～71人	0	0	0	0	0	0	1	0
71人～80人	0	0	0	0	0	1	2	0
81人～91人	0	0	0	0	1	0	0	0
91人～100人	0	0	0	0	0	0	0	0
101人以上	0	0	0	0	0	0	1	1
無回答	46	36	33	26	16	16	10	27

Ⅲ. リハビリテーションの評価指標の活用状況

問4 各評価指標について、活用の有無をご回答ください。

「⑫ HDS-R（長谷川式認知症スケール）」が80.2%で最も多く、次いで「⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度」が76.5%、「⑱ 障害高齢者の日常生活自立度」が75.3%であった。

図表4 各評価指標について

	件数	%
① TUG(Timed Up and Go Test)	34	42.0
② 6分間歩行距離	11	13.6
③ CS30（30秒椅子立ち上がりテスト）	5	6.2
④ 握力	47	58.0
⑤ BMI	46	56.8
⑥ FAC(Functional Ambulation Categories)	2	2.5
⑦ 10m歩行テスト	22	27.2
⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度	62	76.5
⑨ DBD-13（Dementia Behavior Disturbance scale - 13）	4	4.9
⑩ Vitality Index	7	8.6
⑪ MMSE（Mini Mental State Examination）	31	38.3
⑫ HDS-R（長谷川式認知症スケール）	65	80.2
⑬ CDR(Clinical Dementia Rating)	0	0.0
⑭ NPI-Q(NPI-Brief Questionnaire Form)	0	0.0
⑮ SLTA(Standard Language Test of Aphasia)	16	19.8
⑯ リバーミード行動記憶検査(Rivermead Behavioural Memory Test)	4	4.9
⑰ Ability for Basic Movement Scale	0	0.0
⑱ 障害高齢者の日常生活自立度	61	75.3
⑲ BI (Barthel Index)	56	69.1
⑳ FIM(Functional Independence Measure)	32	39.5
21.Lawton の日常生活尺度(IADL)	9	11.1
22.FAI(Frenchay Activities Index)	4	4.9
23. 老研式活動能力指標	3	3.7
24.LSA(Life Space Assessment)	1	1.2
25.CHART(Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)	1	1.2
26.CIQ(Community Integration Questionnaire)	0	0.0
27.SF-36(MOS 36-Item Short-Form Health Survey)	1	1.2
28. ICF ステージング	7	8.6
29. WHODAS2.0(The World Health Organization Disability Assessment Schedule)	0	0.0
30. 生活行為の作業工程分析(作業遂行アセスメント表)	0	0.0

IV. 加算の算定状況

問5 各加算の届出有無（令和3年9月分）についてご回答ください。

「12）理学療法、作業療法又は言語聴覚療法に係る加算」が65.4%で最も多く、次いで「2）栄養マネジメント強化加算」が35.8%、「14）科学的介護推進体制加算（Ⅱ）」「15）サービス提供体制強化加算（Ⅱ）」が各々34.6%であった。

図表5 各加算の届出有無

各加算の届出有無	件数	%
1) 若年性認知症入所者受入加算	12	14.8
2) 栄養マネジメント強化加算	29	35.8
3) 経口移行加算	23	28.4
4) 経口維持加算（Ⅰ）	27	33.3
4) 経口維持加算（Ⅱ）	21	25.9
5) 口腔衛生管理加算（Ⅰ）	17	21.0
5) 口腔衛生管理加算（Ⅱ）	18	22.2
6) 在宅復帰支援機能加算	9	11.1
7) 認知症専門ケア加算（Ⅰ）	7	8.6
7) 認知症専門ケア加算（Ⅱ）	1	1.2
8) 認知症行動・心理症状緊急対応加算	2	2.5
9) 重度認知症疾患療養体制加算（Ⅰ）	0	0.0
9) 重度認知症疾患療養体制加算（Ⅱ）	0	0.0
10) 褥瘡マネジメント加算（Ⅰ）	20	24.7
10) 褥瘡マネジメント加算（Ⅱ）	12	14.8
10) 褥瘡マネジメント加算（Ⅲ）	0	0.0
11) 排せつ支援加算（Ⅰ）	22	27.2
11) 排せつ支援加算（Ⅱ）	9	11.1
11) 排せつ支援加算（Ⅲ）	9	11.1
11) 排せつ支援加算（Ⅳ）	6	7.4
12) 理学療法、作業療法又は言語聴覚療法に係る加算	53	65.4
13) 自立支援促進加算	20	24.7
14) 科学的介護推進体制加算（Ⅰ）	15	18.5
14) 科学的介護推進体制加算（Ⅱ）	28	34.6
15) サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	24	29.6
15) サービス提供体制強化加算（Ⅱ）	28	34.6
15) サービス提供体制強化加算（Ⅲ）	24	29.6

(7) 集計結果 単純集計表 訪問リハ 利用者票

2) 年齢

「85 歳以上～90 歳未満」が 21.3%で最も多く、次いで「80 歳以上～85 歳未満」が 17.1%、「90 歳以上～95 歳未満」が 15.4%であった。

図表 2 年齢

年齢	件数	%
60歳未満	20	5.6
60歳以上～65歳未満	8	2.2
65歳以上～70歳未満	23	6.4
70歳以上～75歳未満	50	14.0
75歳以上～80歳未満	45	12.6
80歳以上～85歳未満	61	17.1
85歳以上～90歳未満	76	21.3
90歳以上～95歳未満	55	15.4
95歳以上～100歳未満	16	4.5
100歳以上	3	0.8
無回答	0	0.0
調査数	357	100.0

3) 性別

「男」が 40.3%、「女」が 57.4%であった。

図表 3 性別

性別	件数	%
男	144	40.3
女	205	57.4
無回答	8	2.2
調査数	357	100.0

4) サービスの利用開始時期【西暦】

「2020年～」が53.5%で最も多く、次いで「2015年～2020年」が30.5%であった。

図表4 サービスの利用開始時期【西暦】

利用開始時期	件数	%
～1990年	40	11.2
1990年～1995年	0	0.0
1995年～2000年	0	0.0
2000年～2005年	1	0.3
2005年～2010年	4	1.1
2010年～2015年	10	2.8
2015年～2020年	109	30.5
2020年～	191	53.5
無回答	2	0.6
調査数	357	100.0

5) 要介護度

「要介護2」が25.5%で最も多く、次いで「要介護1」が23.5%、「要介護3」が19.6%、「要介護4」が17.1%であった。

図表5 要介護度

要介護度	件数	%
要介護1	84	23.5
要介護2	91	25.5
要介護3	70	19.6
要介護4	61	17.1
要介護5	47	13.2
無回答	4	1.1
調査数	357	100.0

6) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」が32.5%で最も多く、次いで「Ⅰ」が20.7%、「Ⅱb」が19.3%であった。

図表6 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度	件数	%
自立	116	32.5
Ⅰ	74	20.7
Ⅱa	34	9.5
Ⅱb	69	19.3
Ⅲa	26	7.3
Ⅲb	4	1.1
Ⅳ	16	4.5
Ⅴ	7	2.0
不明	3	0.8
無回答	8	2.2
調査数	357	100.0

7) リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

「脳血管障害」が33.3%で最も多く、次いで「骨関節疾患」が25.5%、「神経筋疾患（パーキンソン病含む）」が11.5%であった。

図表7 リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

リハビリ原因の主たる傷病名	件数	%
脳血管障害	119	33.3
骨関節疾患	91	25.5
関節リウマチ	4	1.1
神経筋疾患（パーキンソン病含む）	41	11.5
虚血性心疾患・心不全	14	3.9
呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎含む）	4	1.1
脊髄損傷	12	3.4
がん	12	3.4
認知症	9	2.5
サルコペニア	3	0.8
フレイル	7	2.0
うつ（状態）	3	0.8
その他	12	3.4
不明	0	0.0
無回答	26	7.3
調査数	357	100.0

8) 現在の障害の状況

「筋力低下」が84.9%で最も多く、次いで「耐久性低下」が55.7%、「関節機能障害」が49.9%、「疼痛」が47.3%であった。

図表8 現在の障害の状況

現在の障害の状況	件数	%
片麻痺	111	31.1
四肢麻痺	28	7.8
対麻痺	12	3.4
運動失調	30	8.4
感覚障害	103	28.9
呼吸障害	20	5.6
循環障害	41	11.5
耐久性低下	199	55.7
筋力低下	303	84.9
関節機能障害	178	49.9
高次脳機能障害	48	13.4
認知機能障害	102	28.6
失語症	18	5.0
構音障害	31	8.7
嚥下障害	34	9.5
疼痛	169	47.3
排泄障害	31	8.7
その他	13	3.6
調査数	357	100.0

9) 主な利用頻度

「週1回」が45.4%で最も多く、次いで「週2回」が44.0%であった。

図表 9 主な利用頻度

主な利用頻度	件数	%
週1回	162	45.4
週2回	157	44.0
週3回	29	8.1
週4回	1	0.3
週5回以上	2	0.6
無回答	6	1.7
調査数	357	100.0

10) 加算の算定状況（訪問リハ）

「5 リハビリテーションマネジメント加算（B）ロ」が12.0%で最も多く、次いで「2 リハビリテーションマネジメント加算（A）イ」「4 リハビリテーションマネジメント加算（B）イ」が各々10.4%であった。

図表 10 加算の算定状況（訪問リハ）

加算の算定状況(訪問リハ)	件数	%
1 短期集中リハビリテーション実施加算	18	5.0
2 リハビリテーションマネジメント加算(A)イ	37	10.4
3 リハビリテーションマネジメント加算(A)ロ	19	5.3
4 リハビリテーションマネジメント加算(B)イ	37	10.4
5 リハビリテーションマネジメント加算(B)ロ	43	12.0

13) リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

「身体機能・構造」が88.0%で最も多く、次いで「交通手段の利用」が82.6%であった。

図表 13 リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

リハビリ実施計画書の目標	件数	%
精神機能	58	16.2
感覚機能と痛み	155	43.4
身体機能・構造	314	88.0
学習	15	4.2
選択と実行	14	3.9
問題解決	30	8.4
日課の遂行	62	17.4
コミュニケーション	65	18.2
姿勢の変換	62	17.4
移乗	150	42.0
物の運搬・移動・操作	116	32.5
歩行や移動	35	9.8
交通手段の利用	295	82.6
入浴	18	5.0
整容	59	16.5
トイレ動作	28	7.8
更衣	105	29.4
食事	53	14.8
健康管理	40	11.2
買物	59	16.5
料理	33	9.2
家事	28	7.8
家庭用品の管理	51	14.3
他者への援助	4	1.1
対人関係	13	3.6
仕事	36	10.1
趣味や社会活動	14	3.9
人権	63	17.6
無回答	4	1.1
調査数	357	100.0

14) 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

「筋力増強訓練」が 89.9%で最も多く、次いで「関節可動域訓練」が 84.9%、「立位歩行訓練」が 79.6%であった。

図表 14 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

提供したリハビリの種類	件数	%
関節可動域訓練	303	84.9
筋力増強訓練	321	89.9
基本動作訓練	243	68.1
移乗訓練	110	30.8
立位歩行訓練	284	79.6
バランス訓練	221	61.9
持久力(心肺機能)訓練	87	24.4
呼吸機能訓練	26	7.3
階段昇降訓練	84	23.5
促通手技(上肢・下肢麻痺に対する)	42	11.8
巧緻運動・協調性運動訓練	35	9.8
排泄機能訓練	7	2.0
摂食嚥下機能訓練	16	4.5
失語症訓練	9	2.5
構音訓練	12	3.4
認知機能訓練(認知症に対する)	34	9.5
認知機能訓練(高次脳機能障害に対する)	15	4.2
食事動作	16	4.5
整容動作	22	6.2
トイレ動作	72	20.2
入浴動作	32	9.0
更衣動作	37	10.4
調理動作	15	4.2
洗濯動作	10	2.8
掃除動作	10	2.8
趣味活動	38	10.6
服薬管理	13	3.6
車の乗降	11	3.1
家の手入れ	5	1.4
買い物	13	3.6
就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等含)	3	0.8
公共交通機関の利用	2	0.6
義肢装具の評価・調整・作成	13	3.6
福祉用具の評価・調整	86	24.1
家屋の評価・環境調整	84	23.5
その他	29	8.1
調査数	357	100.0

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

⑨排便コントロール、⑩排尿コントロールは「利用開始時」、⑧着替えは「6 か月前」、②車いすからベッドの移乗、③整容、④トイレ動作、⑤入浴、⑥歩行、⑦階段昇降は「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 15.1 利用者のADL (Barthel Index)

利用者のADL (Barthel Index)	【利用開始 時】平均	【6カ月前】 平均	【現在】平 均
①食事	8.51	8.51	8.54
②車いすからベッドの移乗	11.09	11.46	11.65
③整容	3.18	3.23	3.34
④トイレ動作	6.86	7.25	7.27
⑤入浴	1.17	1.31	1.36
⑥歩行	7.80	8.30	8.49
⑦階段昇降	3.37	3.94	4.10
⑧着替え	6.22	6.57	6.55
⑨排便コントロール	7.67	7.53	7.44
⑩排尿コントロール	7.58	7.40	7.29
合計点	63.27	65.34	65.86

図表 15.2 利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	【利用開始 時】合 計点	【6カ月 前】合 計点	【現在】 合計点
0以上～5未満	12	14	17
5以上～10未満	11	10	11
10以上～15未満	7	3	5
15以上～20未満	7	3	5
20以上～25未満	7	5	9
25以上～30未満	7	6	4
30以上～35未満	8	8	8
35以上～40未満	7	3	4
40以上～45未満	7	8	8
45以上～50未満	14	13	11
50以上～55未満	16	10	12
55以上～60未満	17	8	13
60以上～65未満	19	16	20
65以上～70未満	13	11	14
70以上～75未満	18	10	11
75以上～80未満	23	27	26
80以上～85未満	39	23	31
85以上～90未満	33	30	34
90以上～95未満	26	32	34
95以上～100以下	41	43	60

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

③認知機能～オリエンテーション、⑤認知機能～精神活動、⑦食事～食事動作および食事介助、⑩整容～口腔ケア、⑪整容～整容は「利用開始時」、その他は「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 15.3 利用者のADL (ICF ステージング)

利用者のADL (ICF ステージング)	【利用開始 時(点)】平均	【6カ月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①基本動作	4.09	4.21	4.26
②歩行・移動	2.45	2.58	2.73
③認知機能～オリエンテーション	4.50	4.45	4.49
④認知機能～コミュニケーション	4.24	4.19	4.25
⑤認知機能～精神活動	4.24	4.21	4.23
⑥食事～嚥下機能	4.52	4.38	4.54
⑦食事～食事動作および食事介助	4.50	4.34	4.48
⑧排泄の動作	4.19	4.09	4.21
⑨入浴動作	3.43	3.36	3.52
⑩整容～口腔ケア	4.17	3.96	4.08
⑪整容～整容	3.65	3.53	3.64
⑫整容～衣服の着脱	3.65	3.60	3.67
⑬社会参加～余暇	2.72	2.85	3.02
⑭社会参加～社会交流	3.46	3.51	3.59
合計点	52.95	52.29	53.94

図表 15.4 利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)

利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)	【利用開始 時】合計点	【6カ月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	0	0	0
5以上～10未満	1	1	1
10以上～15未満	0	0	0
15以上～20未満	0	1	1
20以上～25未満	0	2	2
25以上～30未満	1	0	0
30以上～35未満	2	0	0
35以上～40未満	4	4	6
40以上～45未満	6	5	3
45以上～50未満	4	3	4
50以上～55未満	4	6	11
55以上～60未満	12	5	4
60以上～65未満	15	13	20
65以上～70以下	6	8	9

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

②食事の片付け、⑫庭仕事、⑭読書は「6 か月前」、③洗濯、⑦外出、⑧屋外歩行、⑨趣味、⑩交通手段の利用、⑪旅行、⑬家や車の手入れ、⑮勤労は「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 15.5 利用者の IADL (FAI:FrenchayActivities Index)

利用者のIADL (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開始 時(点)】平 均	【6カ月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①食事の用意	0.52	0.79	0.79
②食事の片付け	0.65	0.91	0.90
③洗濯	0.54	0.64	0.66
④掃除や整頓	0.58	0.71	0.71
⑤力仕事	0.04	0.08	0.08
⑥買い物	0.40	0.54	0.54
⑦外出	0.95	1.27	1.33
⑧屋外歩行	0.66	0.95	1.01
⑨趣味	0.68	0.83	0.85
⑩交通手段の利用	0.18	0.26	0.34
⑪旅行	0.02	0.05	0.08
⑫庭仕事	0.12	0.17	0.16
⑬家や車の手入れ	0.06	0.08	0.10
⑭読書	0.73	0.84	0.82
⑮勤労	0.05	0.07	0.14
合計点	6.11	8.17	8.52

図表 15.6 利用者の ADL 合計点の分布 (FAI:FrenchayActivities Index)

利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開始 時】合計点	【6カ月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	133	93	108
5以上～10未満	53	49	58
10以上～15未満	13	23	26
15以上～20未満	18	24	23
20以上～25未満	13	14	22
25以上～30未満	7	7	8
30以上～35未満	0	2	4
35以上～40未満	0	0	0
40以上～45未満	0	1	1

(8) 集計結果 老健 利用者票

2) 年齢

「85 歳以上～90 歳未満」が 26.3%で最も多く、次いで「90 歳以上～95 歳未満」が 20.5%、「80 歳以上～85 歳未満」が 17.0%であった。

図表 2 年齢

年齢	件数	%
60歳未満	5	2.2
60歳以上～65歳未満	5	2.2
65歳以上～70歳未満	5	2.2
70歳以上～75歳未満	23	10.3
75歳以上～80歳未満	24	10.7
80歳以上～85歳未満	38	17.0
85歳以上～90歳未満	59	26.3
90歳以上～95歳未満	46	20.5
95歳以上～100歳未満	18	8.0
100歳以上	1	0.4
無回答	0	0.0
調査数	224	100.0

3) 性別

「男」が 33.9%、「女」が 64.7%であった。

図表 3 性別

性別	件数	%
男	76	33.9
女	145	64.7
無回答	3	1.3
調査数	224	100.0

4) サービスの利用開始時期【西暦】

「2020年～」が67.0%で最も多く、次いで「2015年～2020年」が21.4%であった。

図表4 サービスの利用開始時期【西暦】

利用開始時期	件数	%
～1990年	16	7.1
1990年～1995年	0	0.0
1995年～2000年	0	0.0
2000年～2005年	3	1.3
2005年～2010年	2	0.9
2010年～2015年	5	2.2
2015年～2020年	48	21.4
2020年～	150	67.0
無回答	0	0.0
調査数	224	100.0

5) 要介護度

「要介護3」が24.6%で最も多く、次いで「要介護2」が22.3%、「要介護1」が21.4%であった。

図表5 要介護度

要介護度	件数	%
要介護1	48	21.4
要介護2	50	22.3
要介護3	55	24.6
要介護4	42	18.8
要介護5	26	11.6
無回答	3	1.3
調査数	224	100.0

6) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅲa」が24.6%で最も多く、次いで「Ⅱb」が22.3%であった。

図表6 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度	件数	%
自立	22	9.8
I	29	12.9
Ⅱa	34	15.2
Ⅱb	50	22.3
Ⅲa	55	24.6
Ⅲb	10	4.5
Ⅳ	19	8.5
M	2	0.9
不明	1	0.4
無回答	2	0.9
調査数	224	100.0

7) リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

「脳血管障害」が27.2%で最も多く、次いで「骨関節疾患」が26.8%、「認知症」が15.6%であった。

図表7 リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

リハビリ原因の主たる傷病名	件数	%
脳血管障害	61	27.2
骨関節疾患	60	26.8
関節リウマチ	0	0.0
神経筋疾患(パーキンソン病含む)	11	4.9
虚血性心疾患・心不全	6	2.7
呼吸器疾患(COPD・間質性肺炎含む)	3	1.3
脊髄損傷	1	0.4
がん	1	0.4
認知症	35	15.6
サルコペニア	5	2.2
フレイル	5	2.2
うつ(状態)	4	1.8
その他	15	6.7
不明	0	0.0
無回答	17	7.6
調査数	224	100.0

8) 現在の障害の状況

「筋力低下」が87.5%で最も多く、次いで「耐久性低下」が52.2%、「認知機能障害」が48.7%、「関節機能障害」が45.5%であった。

図表8 現在の障害の状況

現在の障害の状況	件数	%
片麻痺	56	25.0
四肢麻痺	4	1.8
対麻痺	2	0.9
運動失調	13	5.8
感覚障害	39	17.4
呼吸障害	3	1.3
循環障害	5	2.2
耐久性低下	117	52.2
筋力低下	196	87.5
関節機能障害	102	45.5
高次脳機能障害	25	11.2
認知機能障害	109	48.7
失語症	17	7.6
構音障害	16	7.1
嚥下障害	24	10.7
疼痛	75	33.5
排泄障害	7	3.1
その他	12	5.4
調査数	224	100.0

9) 主な利用頻度

「週2回」が38.8%で最も多く、次いで「週3回」が30.4%、「週5回以上」が17.4%であった。

図表 9 主な利用頻度

主な利用頻度	件数	%
週1回	7	3.1
週2回	87	38.8
週3回	68	30.4
週4回	12	5.4
週5回以上	39	17.4
無回答	11	4.9
調査数	224	100.0

11) 加算の算定状況（老健）

「リハビリテーションマネジメント計画書情報加算」が30.4%で最も多く、次いで「短期集中リハビリテーション実施加算」が15.2%であった。

図表 10 加算の算定状況（老健）

10) 加算の算定状況（老健）	件数	%
1 短期集中リハビリテーション実施加算	34	15.2
2 認知症短期集中リハビリテーション実施加算	1	0.4
3 リハビリテーションマネジメント計画書情報加算	68	30.4

13) リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

「身体機能・構造」が90.2%で最も多く、次いで「交通手段の利用」が74.6%であった。

図表 13 リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

リハビリ実施計画書の目標	件数	%
精神機能	61	27.2
感覚機能と痛み	56	25.0
身体機能・構造	202	90.2
学習	17	7.6
選択と実行	11	4.9
問題解決	12	5.4
日課の遂行	45	20.1
コミュニケーション	57	25.4
姿勢の変換	25	11.2
移乗	65	29.0
物の運搬・移動・操作	95	42.4
歩行や移動	7	3.1
交通手段の利用	167	74.6
入浴	1	0.4
整容	21	9.4
トイレ動作	6	2.7
更衣	78	34.8
食事	22	9.8
健康管理	16	7.1
買物	17	7.6
料理	4	1.8
家事	3	1.3
家庭用品の管理	1	0.4
他者への援助	0	0.0
対人関係	2	0.9
仕事	43	19.2
趣味や社会活動	0	0.0
人権	25	11.2
無回答	1	0.4
調査数	224	100.0

14) 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

「筋力増強訓練」が 83.9%で最も多く、次いで「立位歩行訓練」が 78.1%、「関節可動域訓練」が 71.9%、「基本動作訓練」が 53.6%であった。

図表 14 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

提供したリハビリの種類	件数	%
関節可動域訓練	161	71.9
筋力増強訓練	188	83.9
基本動作訓練	120	53.6
移乗訓練	84	37.5
立位歩行訓練	175	78.1
バランス訓練	95	42.4
持久力(心肺機能)訓練	42	18.8
呼吸機能訓練	3	1.3
階段昇降訓練	41	18.3
促通手技(上肢・下肢麻痺に対する)	16	7.1
巧緻運動・協調性運動訓練	17	7.6
排泄機能訓練	11	4.9
摂食嚥下機能訓練	12	5.4
失語症訓練	6	2.7
構音訓練	12	5.4
認知機能訓練(認知症に対する)	53	23.7
認知機能訓練(高次脳機能障害に対する)	12	5.4
食事動作	4	1.8
整容動作	7	3.1
トイレ動作	58	25.9
入浴動作	8	3.6
更衣動作	16	7.1
調理動作	3	1.3
洗濯動作	0	0.0
掃除動作	0	0.0
趣味活動	23	10.3
服薬管理	2	0.9
車の乗降	2	0.9
家の手入れ	0	0.0
買い物	1	0.4
就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等含)	0	0.0
公共交通機関の利用	0	0.0
義肢装具の評価・調整・作成	2	0.9
福祉用具の評価・調整	21	9.4
家屋の評価・環境調整	15	6.7
その他	10	4.5
調査数	224	100.0

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

③整容、⑤入浴、⑩排尿コントロールは「6 か月前」、その他は「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 15.1 利用者のADL (Barthel Index)

利用者のADL (Barthel Index)	【利用開始 時】平均	【6カ月前】 平均	【現在】平 均
①食事	8.77	8.69	8.83
②車いすからベッドの移乗	9.88	10.50	11.10
③整容	2.58	3.06	2.95
④トイレ動作	5.87	6.35	6.41
⑤入浴	0.48	0.81	0.60
⑥歩行	6.69	7.36	8.00
⑦階段昇降	2.34	2.66	3.08
⑧着替え	5.24	5.71	5.90
⑨排便コントロール	6.42	6.30	6.43
⑩排尿コントロール	6.30	6.48	6.35
合計点	54.57	58.09	59.66

図表 15.2 利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	【利用開始 時】合 計点	【6カ月 前】合 計点	【現在】 合計点
0以上～5未満	7	8	10
5以上～10未満	4	1	3
10以上～15未満	5	4	5
15以上～20未満	5	4	5
20以上～25未満	6	3	4
25以上～30未満	9	3	3
30以上～35未満	8	4	5
35以上～40未満	9	4	6
40以上～45未満	14	9	14
45以上～50未満	14	7	7
50以上～55未満	11	12	12
55以上～60未満	13	7	9
60以上～65未満	14	5	14
65以上～70未満	15	6	12
70以上～75未満	9	5	8
75以上～80未満	11	13	19
80以上～85未満	25	20	26
85以上～90未満	13	6	19
90以上～95未満	6	7	11
95以上～100以下	9	13	14

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

②歩行・移動、⑦食事～食事動作および食事介助、⑩整容～口腔ケアは「利用開始時」、①基本動作、③認知機能～オリエンテーション、④認知機能～コミュニケーション、⑤認知機能～精神活動、⑧排泄の動作、⑨入浴動作、⑪整容～整容、⑫整容～衣服の着脱、⑬社会参加～余暇、⑭社会参加～社会交流は「6 か月前」、⑥食事～嚥下機能は「現在」が最も高い。合計点は「6 か月前」が最も高い。

図表 15.3 利用者のADL (ICF ステージング)

利用者のADL (ICF ステージング)	【利用開始 時(点)】平均	【6か月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①基本動作	3.86	4.13	4.00
②歩行・移動	2.33	2.25	2.31
③認知機能～オリエンテーション	3.55	3.75	3.51
④認知機能～コミュニケーション	3.47	3.59	3.51
⑤認知機能～精神活動	3.62	3.69	3.57
⑥食事～嚥下機能	4.24	4.25	4.26
⑦食事～食事動作および食事介助	4.47	4.34	4.43
⑧排泄の動作	3.63	3.97	3.90
⑨入浴動作	3.00	3.03	2.95
⑩整容～口腔ケア	3.42	3.31	3.30
⑪整容～整容	3.02	3.34	2.98
⑫整容～衣服の着脱	3.17	3.31	3.20
⑬社会参加～余暇	2.67	2.94	2.67
⑭社会参加～社会交流	2.45	2.81	2.62
合計点	46.78	48.72	47.21

図表 15.4 利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)

利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)	【利用開始 時】合計点	【6か月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	0	0	0
5以上～10未満	0	0	0
10以上～15未満	0	0	0
15以上～20未満	2	0	2
20以上～25未満	1	1	3
25以上～30未満	2	0	0
30以上～35未満	0	1	1
35以上～40未満	7	5	6
40以上～45未満	6	3	8
45以上～50未満	16	4	10
50以上～55未満	11	9	15
55以上～60未満	8	5	9
60以上～65未満	5	2	6
65以上～70以下	0	2	1

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

⑦外出、⑧屋外歩行、⑨趣味、⑪旅行、⑫庭仕事は「6 か月前」、①食事の用意、②食事の片付け、③洗濯、④掃除や整頓、⑥買い物、⑭読書は「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 15.5 利用者の IADL (FAI:FrenchayActivities Index)

利用者のIADL (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開始 時(点)】平 均	【6か月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①食事の用意	0.01	0.02	0.09
②食事の片付け	0.13	0.18	0.19
③洗濯	0.04	0.08	0.14
④掃除や整頓	0.22	0.18	0.31
⑤力仕事	0.00	0.00	0.00
⑥買い物	0.04	0.07	0.09
⑦外出	0.19	0.32	0.22
⑧屋外歩行	0.19	0.28	0.26
⑨趣味	0.33	0.70	0.67
⑩交通手段の利用	0.06	0.10	0.10
⑪旅行	0.00	0.05	0.00
⑫庭仕事	0.00	0.02	0.01
⑬家や車の手入れ	0.00	0.00	0.00
⑭読書	0.26	0.32	0.38
⑮勤労	0.01	0.02	0.02
合計点	1.43	2.27	2.44

図表 15.6 利用者の ADL 合計点の分布 (FAI:FrenchayActivities Index)

利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開始 時】合計点	【6か月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	88	50	85
5以上～10未満	7	5	8
10以上～15未満	4	4	6
15以上～20未満	1	1	3
20以上～25未満	0	0	0
25以上～30未満	0	0	0
30以上～35未満	0	0	0
35以上～40未満	0	0	0
40以上～45未満	0	0	0

(9) 集計結果 介護医療院 利用者票

2) 年齢

「85 歳以上～90 歳未満」が 28.6%で最も多く、次いで「90 歳以上～95 歳未満」が 25.5%であった。

図表 2 年齢

年齢	件数	%
60歳未満	5	2.3
60歳以上～65歳未満	3	1.4
65歳以上～70歳未満	3	1.4
70歳以上～75歳未満	12	5.5
75歳以上～80歳未満	13	5.9
80歳以上～85歳未満	24	10.9
85歳以上～90歳未満	63	28.6
90歳以上～95歳未満	56	25.5
95歳以上～100歳未満	31	14.1
100歳以上	9	4.1
無回答	1	0.5
調査数	220	100.0

3) 性別

「男」が 34.1%、「女」が 65.0%であった。

図表 3 性別

性別	件数	%
男	75	34.1
女	143	65.0
無回答	2	0.9
調査数	220	100.0

4) サービスの利用開始時期【西暦】

「2020年～」が63.6%で最も多く、次いで「2015年～2020年」が22.3%であった。

図表4 サービスの利用開始時期【西暦】

利用開始時期	件数	%
～1990年	25	11.4
1990年～1995年	0	0.0
1995年～2000年	0	0.0
2000年～2005年	0	0.0
2005年～2010年	0	0.0
2010年～2015年	2	0.9
2015年～2020年	49	22.3
2020年～	140	63.6
無回答	4	1.8
調査数	220	100.0

5) 要介護度

「要介護4」が39.5%で最も多く、次いで「要介護5」が38.2%、「要介護3」が15.9%であった。

図表5 要介護度

要介護度	件数	%
要介護1	2	0.9
要介護2	11	5.0
要介護3	35	15.9
要介護4	87	39.5
要介護5	84	38.2
無回答	1	0.5
調査数	220	100.0

6) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅳ」が33.6%で最も多く、次いで「Ⅲb」が21.4%であった。

図表6 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度	件数	%
自立	2	0.9
I	11	5.0
Ⅱa	11	5.0
Ⅱb	25	11.4
Ⅲa	35	15.9
Ⅲb	47	21.4
Ⅳ	74	33.6
M	9	4.1
不明	2	0.9
無回答	4	1.8
調査数	220	100.0

7) リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

「脳血管障害」が44.5%で最も多く、次いで「骨関節疾患」が19.5%、「認知症」が11.4%であった。

図表7 リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

リハビリ原因の主たる傷病名	件数	%
脳血管障害	98	44.5
骨関節疾患	43	19.5
関節リウマチ	0	0.0
神経筋疾患(パーキンソン病含む)	11	5.0
虚血性心疾患・心不全	6	2.7
呼吸器疾患(COPD・間質性肺炎含む)	2	0.9
脊髄損傷	2	0.9
がん	3	1.4
認知症	25	11.4
サルコペニア	1	0.5
フレイル	1	0.5
うつ(状態)	0	0.0
その他	16	7.3
不明	1	0.5
無回答	11	5.0
調査数	220	100.0

8) 現在の障害の状況

「筋力低下」が86.4%で最も多く、次いで「認知機能障害」が61.8%、「関節機能障害」が55.0%、「耐久性低下」が47.7%であった。

図表8 現在の障害の状況

現在の障害の状況	件数	%
片麻痺	76	34.5
四肢麻痺	14	6.4
対麻痺	3	1.4
運動失調	5	2.3
感覚障害	34	15.5
呼吸障害	12	5.5
循環障害	26	11.8
耐久性低下	105	47.7
筋力低下	190	86.4
関節機能障害	121	55.0
高次脳機能障害	39	17.7
認知機能障害	136	61.8
失語症	26	11.8
構音障害	41	18.6
嚥下障害	81	36.8
疼痛	59	26.8
排泄障害	31	14.1
その他	6	2.7
調査数	220	100.0

9) 主な利用頻度

「週2回」が25.9%で最も多く、次いで「週3回」「週5回以上」が各々20.9%であった。

図表 9 主な利用頻度

主な利用頻度	件数	%
週1回	21	9.5
週2回	57	25.9
週3回	46	20.9
週4回	35	15.9
週5回以上	46	20.9
無回答	15	6.8
調査数	220	100.0

12) 加算の算定状況（介護医療院）

「理学療法、作業療法又は言語聴覚療法に係る加算」は71.4%であった。

図表 11 加算の算定状況（介護医療院）

11) 加算の算定状況(介護医療院)	件数	%
1 理学療法、作業療法又は言語聴覚療法に係る加算	157	71.4

13) リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

「身体機能・構造」が86.4%で最も多く、次いで「移乗」が54.1%であった。

図表 13 リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

リハビリ実施計画書の目標	件数	%
精神機能	58	26.4
感覚機能と痛み	55	25.0
身体機能・構造	190	86.4
学習	18	8.2
選択と実行	5	2.3
問題解決	7	3.2
日課の遂行	20	9.1
コミュニケーション	88	40.0
姿勢の変換	53	24.1
移乗	119	54.1
物の運搬・移動・操作	91	41.4
歩行や移動	3	1.4
交通手段の利用	68	30.9
入浴	0	0.0
整容	5	2.3
トイレ動作	21	9.5
更衣	35	15.9
食事	13	5.9
健康管理	42	19.1
買物	8	3.6
料理	0	0.0
家事	0	0.0
家庭用品の管理	0	0.0
他者への援助	0	0.0
対人関係	0	0.0
仕事	25	11.4
趣味や社会活動	0	0.0
人権	24	10.9
無回答	6	2.7
調査数	220	100.0

14) 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

「関節可動域訓練」が 80.5%で最も多く、次いで「筋力増強訓練」63.2%、「基本動作訓練」が 54.1%であった。

図表 14 調査日から過去 1 月間に提供したリハビリの種類

提供したリハビリの種類	件数	%
関節可動域訓練	177	80.5
筋力増強訓練	139	63.2
基本動作訓練	119	54.1
移乗訓練	83	37.7
立位歩行訓練	84	38.2
バランス訓練	32	14.5
持久力(心肺機能)訓練	25	11.4
呼吸機能訓練	10	4.5
階段昇降訓練	7	3.2
促通手技(上肢・下肢麻痺に対する)	16	7.3
巧緻運動・協調性運動訓練	17	7.7
排泄機能訓練	4	1.8
摂食嚥下機能訓練	32	14.5
失語症訓練	8	3.6
構音訓練	32	14.5
認知機能訓練(認知症に対する)	38	17.3
認知機能訓練(高次脳機能障害に対する)	12	5.5
食事動作	17	7.7
整容動作	15	6.8
トイレ動作	22	10.0
入浴動作	3	1.4
更衣動作	10	4.5
調理動作	0	0.0
洗濯動作	0	0.0
掃除動作	0	0.0
趣味活動	19	8.6
服薬管理	1	0.5
車の乗降	1	0.5
家の手入れ	0	0.0
買い物	0	0.0
就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等含)	0	0.0
公共交通機関の利用	0	0.0
義肢装具の評価・調整・作成	0	0.0
福祉用具の評価・調整	10	4.5
家屋の評価・環境調整	0	0.0
その他	9	4.1
調査数	220	100.0

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

①食事、⑧着替え、⑩排尿コントロールは「6 か月前」、②車いすからベッドの移乗、③整容、④トイレ動作、⑥歩行、⑦階段昇降、⑨排便コントロールは「現在」が最も高い。合計点は「現在」が最も高い。

図表 15.1 利用者のADL (Barthel Index)

利用者のADL (Barthel Index)	【利用開始 時】平均	【6カ月前】 平均	【現在】平 均
①食事	4.58	4.72	4.50
②車いすからベッドの移乗	4.11	4.29	4.55
③整容	0.72	0.71	0.73
④トイレ動作	1.72	1.91	1.93
⑤入浴	0.14	0.07	0.14
⑥歩行	1.89	2.21	2.30
⑦階段昇降	0.26	0.22	0.35
⑧着替え	1.64	1.67	1.62
⑨排便コントロール	1.64	1.74	1.90
⑩排尿コントロール	1.69	1.91	1.90
合計点	18.39	19.43	19.89

図表 15.2 利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	【利用開始 時】合計点	【6カ月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	66	52	68
5以上～10未満	21	15	20
10以上～15未満	18	14	16
15以上～20未満	13	8	9
20以上～25未満	7	3	9
25以上～30未満	4	4	6
30以上～35未満	8	6	5
35以上～40未満	6	7	5
40以上～45未満	6	5	3
45以上～50未満	4	4	7
50以上～55未満	6	5	5
55以上～60未満	2	4	3
60以上～65未満	7	4	7
65以上～70未満	1	1	2
70以上～75未満	5	4	3
75以上～80未満	3	4	4
80以上～85未満	1	0	2
85以上～90未満	2	1	2
90以上～95未満	0	0	3
95以上～100以下	0	0	0

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

②歩行・移動、⑧排泄の動作、⑩整容～口腔ケア、⑫整容～衣服の着脱は「利用開始時」、①基本動作、③認知機能～オリエンテーション、④認知機能～コミュニケーション、⑤認知機能～精神活動、⑥食事～嚥下機能、⑦食事～食事動作および食事介助、⑨入浴動作は「6 か月前」、⑬社会参加～余暇、⑭社会参加～社会交流は「現在」が最も高い。合計点は「6 か月前」が最も高い。

図表 15.3 利用者のADL (ICF ステージング)

利用者のADL (ICF ステージング)	【利用開始 時(点)】平均	【6か月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①基本動作	1.84	1.88	1.83
②歩行・移動	1.32	1.29	1.31
③認知機能～オリエンテーション	2.26	2.38	2.31
④認知機能～コミュニケーション	2.23	2.38	2.34
⑤認知機能～精神活動	2.29	2.46	2.34
⑥食事～嚥下機能	2.26	2.42	2.24
⑦食事～食事動作および食事介助	2.68	2.88	2.69
⑧排泄の動作	1.55	1.42	1.48
⑨入浴動作	1.77	1.92	1.90
⑩整容～口腔ケア	1.84	1.79	1.83
⑪整容～整容	1.71	1.71	1.69
⑫整容～衣服の着脱	1.71	1.67	1.62
⑬社会参加～余暇	1.35	1.29	1.38
⑭社会参加～社会交流	1.71	1.71	1.72
合計点	25.75	26.16	25.87

図表 15.4 利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)

利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)	【利用開始 時】合計点	【6か月前】 合計点	【現在】合 計点
0以上～5未満	1	1	1
5以上～10未満	0	0	0
10以上～15未満	5	3	5
15以上～20未満	8	7	8
20以上～25未満	4	3	3
25以上～30未満	3	2	3
30以上～35未満	2	2	2
35以上～40未満	3	2	3
40以上～45未満	4	3	3
45以上～50未満	2	1	0
50以上～55未満	0	1	0
55以上～60未満	0	0	2
60以上～65未満	0	0	0
65以上～70以下	0	0	0

15) 利用者のADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6 か月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。

①食事の用意、③洗濯は「利用開始時」、②食事の片付け、④読書は「6 か月」、④掃除や整頓は「現在」が最も高い。合計点は「6 か月前」「現在」が各々0.38であった。

図表 15.5 利用者の IADL (FAI:FrenchayActivities Index)

利用者のIADL (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開始 時(点)】平 均	【6カ月前 (点)】平均	【現在 (点)】平均
①食事の用意	0.01	0.00	0.00
②食事の片付け	0.01	0.05	0.04
③洗濯	0.01	0.00	0.00
④掃除や整頓	0.05	0.05	0.08
⑤力仕事	0.00	0.00	0.00
⑥買い物	0.00	0.00	0.00
⑦外出	0.00	0.00	0.00
⑧屋外歩行	0.00	0.00	0.00
⑨趣味	0.08	0.27	0.27
⑩交通手段の利用	0.00	0.00	0.00
⑪旅行	0.00	0.00	0.00
⑫庭仕事	0.00	0.00	0.00
⑬家や車の手入れ	0.00	0.00	0.00
⑭読書	0.00	0.02	0.01
⑮勤労	0.00	0.00	0.00
合計点	0.17	0.38	0.38

図表 15.6 利用者の ADL 合計点の分布 (FAI:FrenchayActivities Index)

利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)	【利用開 始時】合 計点	【6カ月 前】合計 点	【現在】 合計点
0以上～5未満	73	57	71
5以上～10未満	2	1	2
10以上～15未満	0	0	0
15以上～20未満	0	0	0
20以上～25未満	0	0	0
25以上～30未満	0	0	0
30以上～35未満	0	0	0
35以上～40未満	0	0	0
40以上～45未満	0	0	0

第4章 アンケートデータ結果の分析

(1) クロス集計 通所リハ 事業所票

【通所リハビリテーション】 【事業者票】 (通所リハのサービス提供施設類型)

1. 貴事業所の基本情報

2) 事業所規模

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「通常規模型」が各々93件、136件、116件で最も多い。

図表 1.2 事業所規模

事業所規模	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
通常規模型	93	136	116	2	347
大規模事業所型Ⅰ	8	5	12	0	25
大規模事業所型Ⅱ	5	3	20	0	28
調査数	106	144	148	2	400

3) サービス提供の時間区分

病院、診療所では「1時間以上2時間未満」が各々68件、77件、介護老人保健施設では「6時間以上7時間未満」が121件で最も多い。

図表 1.3 サービス提供の時間区分

時間区分	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
1時間以上2時間未満	68	77	43	0	188
2時間以上3時間未満	29	37	51	1	118
3時間以上4時間未満	34	48	62	1	145
4時間以上5時間未満	24	32	53	1	110
5時間以上6時間未満	27	33	60	0	120
6時間以上7時間未満	57	69	121	1	248
7時間以上8時間未満	10	21	51	0	82
8時間以上	1	0	5	0	6

4) 同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

病院、診療所では「訪問リハビリテーション」が各々74件、69件、介護老人保健施設では「短期入所療養介護」が117件で最も多い。

図表 1.4 同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス

同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
訪問リハビリテーション	74	69	73	1	217
訪問看護	42	24	38	2	106
訪問介護	12	14	28	2	56
通所介護	12	15	17	1	45
短期入所生活介護	8	5	23	0	36
短期入所療養介護	5	5	117	0	127
居宅介護支援事業所	57	48	99	2	206
地域包括支援センター	8	4	18	0	30
グループホーム	7	10	15	0	32
その他	11	20	14	0	45
併設サービスはない	9	34	1	0	44

5) 1週間の営業日数（日／週）

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「6日」が各々59件、69件、108件で最も多い。

図表 1.5 1週間の営業日数（日／週）

営業日数	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
1日	0	2	0	0	2
2日	2	0	0	0	2
3日	0	3	0	0	3
4日	1	12	0	0	13
5日	44	59	37	0	140
6日	59	69	108	2	238
7日	2	1	4	0	7

6) 1日あたりの利用定員数（人）

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「31人～40人」が各々26件、37件、42件で最も多い。

図表 1.6 1日あたりの利用定員数（人）

利用定員数	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
1人～10人	9	21	5	0	35
11人～20人	21	34	18	0	73
21人～30人	22	28	40	1	91
31人～40人	26	37	42	1	106
41人～50人	8	12	16	0	36
51人～60人	9	8	14	0	31
61人以上	11	4	13	0	28
調査数	106	144	148	2	400

問2 送迎を行っている場合の体制についてご回答ください。

1) 送迎の実施

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「利用者のほぼ全員が利用」が各々90件、127件、149件で最も多い。

図表 2.1 送迎の実施

送迎の実施	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用者のほぼ全員が利用	90	127	149	2	368
利用者のほぼ半数が利用	8	7	0	0	15
利用者の一部が利用	2	2	0	0	4
実施していない	7	9	0	0	16

2) 1日あたりの運転手の人数（人）

病院では「2人」「5人」が各々19件、診療所、介護老人保健施設では「3人」が各々28件、33件で最も多い。

図表 2.2 1日あたりの運転手の人数（人）

運転手の人数	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
0人	6	6	3	0	15
1人	9	24	8	0	41
2人	19	27	16	0	62
3人	14	28	33	1	76
4人	9	24	18	0	51
5人	19	10	26	0	55
6人	9	9	18	0	36
7人	6	7	10	1	24
8人	6	3	7	0	16
9人	2	1	2	0	5
10人以上	3	2	7	0	12

3) 送迎用の車両台数（台）

病院、介護老人保健施設では「5台」が各々18件、29件、診療所では「3台」が30件で最も多い。

図表 2.3 送迎用の車両台数（台）

車両台数	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
0台	4	5	0	0	9
1台	7	13	1	0	21
2台	14	17	7	0	38
3台	13	30	19	0	62
4台	10	29	21	0	60
5台	18	18	29	0	65
6台	13	10	19	0	42
7台	6	10	18	1	35
8台	7	2	14	1	24
9台	3	5	3	0	11
10台以上	8	3	18	0	29

Ⅱ．利用者の状況

問4 令和3年10月1日時点の利用登録者数（実人数）についてご回答ください。

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「101人以上」が各々33件、22件、33件で最も多い。

図表4 利用者登録者数（実人数）

利用登録者数(実人数)	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
1人～10人	7	6	1	0	14
11人～20人	7	12	3	0	22
21人～30人	9	15	13	0	37
31人～40人	6	17	15	0	38
41人～50人	10	17	11	0	38
51人～60人	8	21	16	0	45
61人～70人	5	9	8	0	22
71人～80人	5	5	14	0	24
81人～90人	8	11	14	1	34
91人～100人	6	6	9	0	21
101人以上	33	22	33	1	89
調査数	104	141	137	2	384

Ⅲ. サービスの提供状況

問7 (ADL 訓練等のリハビリテーション以外で) 提供しているリハビリテーションについてご回答ください。

- 1) (ADL 訓練等のリハビリテーション以外で) 右にあげる項目のうち、どのようなリハビリテーションを提供されていますか

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「福祉用具の評価・調整・作成」が各々79件、103件、122件で最も多い。

図表 7.1 提供リハビリ

提供リハビリ	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
IADL訓練	67	87	95	1	250
摂食嚥下に関するリハビリテーション	53	69	101	1	224
排泄に関するリハビリテーション	56	73	102	0	231
敷地外でのリハビリテーション	51	64	81	1	197
認知症に関するリハビリテーション	64	82	117	0	263
失語症・構音障害へのリハビリテーション	52	35	81	1	169
義肢装具の評価・調整・作成	61	71	75	0	207
福祉用具の評価・調整・作成	79	103	122	0	304

- 2) IADL に関するリハビリテーションの具体的内容

病院では「趣味活動の訓練」が41件、診療所、介護老人保健施設では「車の乗降訓練」が各々55件、66件で最も多い。

図表 7.2 IADL に関するリハビリテーションの具体的内容

IADLリハビリの具体的内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
調理訓練	17	18	30	0	65
洗濯動作の訓練	36	29	45	0	110
掃除の訓練	32	22	28	1	83
趣味活動の訓練	41	45	55	0	141
服薬管理	12	26	18	0	56
車の乗降訓練	40	55	66	1	162
家の手入れ(含草取り・菜園)訓練	24	16	28	0	68
買い物訓練	18	23	21	0	62
就労訓練(報酬を伴わないものを含む)	12	8	12	0	32
その他	13	8	5	0	26

3) 摂食嚥下に関するリハビリテーションの具体的内容

病院では「本人・家族等への指導」が39件、診療所、介護老人保健施設では「食事姿勢・体位調整」が各々52件、84件で最も多い。

図表 7.3 摂食嚥下に関するリハビリテーションの具体的内容

摂食嚥下リハビリの具体的内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
嚥下機能評価	32	28	73	1	134
食形態調整	30	42	81	0	153
口腔ケア	35	48	66	0	149
間接嚥下訓練(頭部挙上等)	34	22	53	1	110
呼吸訓練	26	31	42	1	100
直接嚥下訓練(交互嚥下、複数回嚥下等)	20	7	33	0	60
食事姿勢・体位調整	36	52	84	0	172
本人・家族等への指導	39	37	70	1	147
その他	1	3	2	0	6

4) 排泄に関するリハビリテーションの具体的内容

病院では「移乗訓練」「トイレ動作の指導」が各々44件、診療所、介護老人保健施設では「移乗訓練」が各々52件、88件で最も多い。

図表 7.4 排泄に関するリハビリテーションの具体的内容

排泄リハビリの具体的内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
骨盤底筋訓練	31	42	36	0	109
移乗訓練	44	52	88	0	184
時間排泄誘導	26	41	40	0	107
パターン排泄誘導	11	14	18	0	43
トイレ動作の指導	44	46	85	0	175
排尿姿勢の調整	13	14	25	0	52
膀胱訓練	3	5	3	0	11
環境調整	31	32	64	0	127
その他	1	0	1	0	2

5) 敷地外でのリハビリテーションの具体的内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「屋外歩行訓練(坂道、不整地等)」が各々48件、62件、79件で最も多い。

図表 7.5 敷地外でのリハビリテーションの具体的内容

敷地外リハビリの具体的内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
スーパー等での買い物訓練	11	21	9	0	41
バス等の公共交通機関の利用訓練	9	9	5	0	23
屋外歩行訓練(坂道、不整地等)	48	62	79	1	190
就労訓練(報酬を伴わないものを含む)	6	3	6	0	15
その他	2	1	0	0	3

6) 認知症に関するリハビリテーションの具体的内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「認知機能維持のための訓練」が各々58件、75件、106件で最も多い。

図表 7.6 認知症に関するリハビリテーションの具体的内容

認知症リハビリの具体的内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
認知機能維持のための訓練	58	75	106	0	239
残存する認知能力を活用した、生活行為の訓練	29	30	59	0	118
意欲を引き出す集団訓練	43	58	69	0	170
認知、記憶、見当識等を代償する福祉用具等の活用	8	10	25	0	43
人的環境調整(ケアの統一、家族教育・支援)	20	28	54	0	102
その他	1	0	1	0	2

7) 失語症・構音障害へのリハビリテーションの具体的内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「個別の言語聴覚療法」が各々46件、23件、76件で「集団での言語聴覚療法」に比べ多い。

図表 7.7 失語症・構音障害へのリハビリテーションの具体的内容

失語症・構音障害へのリハビリテーションの具体的内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
個別の言語聴覚療法	46	23	76	1	146
集団での言語聴覚療法	17	20	10	0	47

8) 義肢装具の評価・調整・作成の具体的内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「装具の評価・調整」が各々57件、62件、66件で最も多い。

図表 7.8 義肢装具の評価・調整・作成の具体的内容

義肢装具	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
装具の評価・調整	57	62	66	0	185
装具の作成	27	11	14	0	52
義肢の評価・調整	13	8	20	0	41
義肢装具会社・義肢装具士との連携	47	46	51	0	144
その他	0	1	2	0	3

9) 福祉用具の評価・調整

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「福祉用具の評価・調整」が各々78件、96件、114件で最も多い。

図表 7.9 福祉用具の評価・調整

福祉用具	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
福祉用具の評価・調整	78	96	114	0	288
福祉用具の貸与の検討	66	79	100	0	245
自助具等の作成	21	14	33	0	68
福祉用具専門員との連携	65	82	99	0	246
その他	1	0	0	0	1

10) 通所リハビリテーション事業所単独で保有しているリハビリテーション機器・設備（兼用除く）

病院では「歩行器・車」が90件、診療所では「筋力増強のための機器」が117件、介護老人保健施設では「歩行器・車」が131件で最も多い。

図表 7.10 保有リハビリ機器・設備

保有リハビリ機器・設備	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
筋力増強のための機器	69	117	100	1	287
平行棒	83	116	119	0	318
プラットフォーム	79	91	106	1	277
訓練用階段	37	61	86	0	184
エルゴメーター	79	91	103	1	274
温熱療法のための機器	56	101	101	0	258
神経筋電気刺激装置	22	55	33	0	110
訓練用装具（下肢装具等）	21	30	41	1	93
歩行器・車	90	116	131	1	338
調理設備（訓練用）	10	18	14	0	42
個別浴槽	34	38	48	0	120
畳の部屋	20	32	38	0	90
掃除機などの掃除用品	31	48	37	0	116
手工芸用品	49	71	79	1	200

問8 提供しているケアの内容についてお答えください。

1) 食事の提供の有無

「有」は病院で64件、診療所で84件、介護老人保健施設で137件であった。

図表 8.1.1 食事の提供の有無

食事の提供の有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
有	64	84	137	0	285
無	38	56	4	1	99

1) 食事の提供の割合

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「利用者のほぼ全員（80%以上）が利用」が各々51件、63件、125件で最も多い。

図表 8.1.2 食事の提供の割合

食事の提供の割合	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用者のほぼ全員(80%以上)が利用	51	63	125	0	239
利用者の過半数(60～80%)が利用	9	10	9	0	28
利用者の半数程度(40～60%)が利用	3	3	3	0	9
利用者の少数(20～40%)が利用	1	5	0	0	6
利用者の一部(20%以下)が利用	0	3	0	0	3

2) 食事提供時のケアとして取り組んでいる内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「食事姿勢の修正」が各々48件、69件、112件で最も多い。

図表 8.2 食事提供時のケアとして取り組んでいる内容

食事提供時のケアとして取り組んでいる内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
一対一での食事介助	33	43	85	0	161
利用者の希望時間での提供	3	2	4	0	9
利用者の嗜好に配慮した献立	30	35	73	0	138
慣れ親しんだ食器等の使用	4	8	18	0	30
自宅環境を配慮した介助	8	9	22	0	39
食事姿勢の修正	48	69	112	0	229

3) 排泄のケアの提供の有無

「有」は病院で71件、診療所で91件、介護老人保健施設で139件であった。

図表 8.3.1 排泄のケアの提供の有無

排泄のケアの提供の有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
有	71	91	139	1	302
無	30	46	2	0	78

3) 排泄のケアの提供の割合

病院では「利用者の少数（20～40％）が利用」「利用者の一部（20％以下）が利用」が各々22件、診療所では「利用者の一部（20％以下）が利用」が30件、介護老人保健施設では「利用者の少数（20～40％）が利用」が36件で最も多い。

図表 8.3.2 排泄のケアの提供の割合

排泄のケアの提供の割合	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用者のほぼ全員(80%以上)が利用	13	12	24	0	49
利用者の過半数(60～80%)が利用	5	8	23	0	36
利用者の半数程度(40～60%)が利用	9	19	35	0	63
利用者の少数(20～40%)が利用	22	17	36	0	75
利用者の一部(20%以下)が利用	22	30	17	1	70

4) 排泄のケアとして取り組んでいる内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「プライバシーの配慮」が各々62件、76件、116件で最も多い。

図表 8.4 排泄のケアとして取り組んでいる内容

排泄のケアの取組内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
排泄リズムに沿った支援	47	61	98	0	206
本人の希望を踏まえた排泄時間	47	51	96	1	195
プライバシーの配慮	62	76	116	1	255
自宅環境を配慮した介助	23	17	39	0	79

5) 入浴の提供の有無

「有」は病院で60件、診療所で75件、介護老人保健施設で140件であった。

図表 8.5.1 入浴の提供の有無

入浴の提供の有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
有	60	75	140	0	275
無	43	65	4	1	113

5) 入浴の提供の割合

病院、介護老人保健施設では「利用者のほぼ全員（80％以上）が利用」が各々27件、89件、診療所では「利用者の過半数（60～80％）が利用」が25件で最も多い。

図表 8.5.2 入浴の提供の割合

入浴の提供の割合	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用者のほぼ全員(80%以上)が利用	27	20	89	0	136
利用者の過半数(60～80%)が利用	15	25	33	0	73
利用者の半数程度(40～60%)が利用	13	8	10	0	31
利用者の少数(20～40%)が利用	3	15	4	0	22
利用者の一部(20%以下)が利用	1	5	3	0	9

6) 入浴提供時のケアとして取り組んでいる内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「一般浴槽での入浴」が各々58件、63件、128件で最も多い。

図表 8.6 入浴提供時のケアとして取り組んでいる内容

入浴のケアの取組内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
一般浴槽での入浴	58	63	128	0	249
機械浴での入浴	41	37	106	0	184
一対一での入浴介助	29	50	52	0	131
本人の希望を踏まえた入浴時間	12	18	28	0	58
プライバシーの配慮	49	61	113	0	223
自宅環境を配慮した介助	27	25	50	0	102

問9 利用者自宅への定期的な居宅訪問についてご回答ください。

1) 定期的な居宅訪問の実施

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「実施していない」が各々45件、49件、50件で最も多い。

図表 9.1 定期的な居宅訪問の実施

定期的な居宅訪問	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
すべての利用者について実施している	27	46	29	1	103
およそ半数の利用者について実施している	8	12	20	0	40
一部の利用者について実施している	28	36	48	1	113
実施していない	45	49	50	0	144

2) 定期的な居宅訪問の実施頻度の目安

病院、診療所では「おおむね1年に1回程度実施している」が各々21件、29件、介護老人保健施設では「おおむね3か月に1回程度実施している」が25件で最も多い。

図表 9.2 定期的な居宅訪問の実施頻度の目安

居宅訪問の実施頻度	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
おおむね月に1回程度実施している	1	11	5	0	17
おおむね3か月に1回程度実施している	12	14	25	1	52
おおむね半年に1回程度実施している	11	19	20	0	50
おおむね1年に1回程度実施している	21	29	23	0	73
それ以下の頻度で実施している	17	21	20	1	59

3) 居宅訪問時のアセスメント項目

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「住環境評価（家屋・居室等）」が各々55件、82件、81件で最も多い。

図表 9.3 居宅訪問時のアセスメント項目

居宅訪問時のアセスメント項目	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
当初の支援方針	33	46	45	0	124
生活目標	40	52	55	0	147
家族の希望	37	57	68	2	164
1日の過ごし	26	41	40	0	107
ADL 評価	43	56	68	2	169
IADL評価	34	37	42	1	114
介助方法	35	50	68	0	153
訪問サービスの実施状況	12	15	19	0	46
住環境評価（家屋・居室等）	55	82	81	2	220
生活環境評価（屋外・地域）	36	47	43	0	126
福祉用具の評価・検討	48	72	70	2	192
これまでに達成された内容（得られた効果）	27	35	39	0	101
今後の方針（残された課題）	41	53	65	0	159

4) 自宅訪問結果の活用方法

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「リハビリテーション計画への反映」が各々51件、83件、83件で最も多い。

図表 9.4 自宅訪問結果の活用方法

自宅訪問結果の活用方法	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
目標達成状況の確認	46	59	64	1	170
リハビリテーション計画への反映	51	83	83	2	219
リハビリテーション会議での共有	44	58	67	1	170
本人のフィードバック(目標共有含む)	49	70	67	1	187
家族・介助者等へのフィードバック(目標共有含む)	44	68	77	1	190
その他	4	4	3	0	11

問 10 医師の関与状況についてご回答ください。

1) リハビリテーションに関する医師からの指示内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「リハビリテーション実施上の留意点」が各々101件、133件、138件で最も多い。

図表 10.1 リハビリテーションに関する医師からの指示内容

医師からの指示内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
リハビリテーションの目的	93	116	122	2	333
利用者の機能予後	31	50	38	0	119
リハビリテーション中止の基準	86	116	118	1	321
リハビリテーション実施上の留意点	101	133	138	1	373
運動の負荷量	56	88	79	1	224
リハビリテーションの実施方針	64	97	83	2	246
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の職種に応じた訓練内容	51	60	54	1	166
終了の目安・時期	34	54	44	0	132
その他	2	3	4	0	9

2) 貴事業所での医師の役割

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「急変時の対応」が各々88件、138件、120件で最も多い。

図表 10.2 貴事業所での医師の役割

医師の役割	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
疾患の管理	64	122	77	1	264
運動リスクの管理	64	109	69	1	243
急変時の対応	88	138	120	2	348
機能・活動の評価	22	33	28	0	83
リハビリテーション会議等への参加	66	84	112	1	263
本人・家族への説明	58	85	79	1	223
リハビリテーション計画の作成・承認	73	92	96	2	263
書類作成	31	32	33	0	96
業務管理・職員教育	15	47	22	0	84
その他	1	3	6	0	10

3) 主治医（かかりつけ医）との連携

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「利用者の急変時に指示を仰ぐ」が各々69件、104件、89件で最も多い。

図表 10.3 主治医（かかりつけ医）との連携

主治医（かかりつけ医）との連携	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用者の急変時に指示を仰ぐ	69	104	89	2	264
利用者の急変時の通院の付き添い	9	10	12	0	31
利用者の急変時に関する状況の報告	61	81	76	0	218
利用者の通常時の様子等に関する状況の報告	38	62	42	0	142
その他	16	14	14	0	44

問 11 多職種連携についてご回答ください。

1) リハビリテーション会議への基本構成員以外の参加者

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「担当ケアマネジャー」が各々59件、97件、106件で最も多い。

図表 11.1 リハビリテーション会議への基本構成員以外の参加者

リハ会議への参加者(基本構成員以外)	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
歯科医師	0	3	1	0	4
看護職員	37	58	66	0	161
介護福祉士	44	55	87	1	187
介護職員	31	53	62	1	147
歯科衛生士	2	4	2	1	9
管理栄養士	11	4	30	0	45
栄養士	0	2	0	0	2
支援相談員・ソーシャルワーカー	11	15	66	1	93
1～8以外の事業所職員	10	15	13	0	38
かかりつけ医	5	21	3	0	29
担当ケアマネジャー	59	97	106	1	263
併用利用サービスの関係者	26	52	62	0	140

2) リハビリテーション会議における主な検討内容

病院では「アセスメント結果などの情報の共有」が78件、診療所、介護老人保健施設では「リハビリテーションの内容」が各々116件、124件で最も多い。

図表 11.2 リハビリテーション会議における主な検討内容

リハ会議における主な検討内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
アセスメント結果などの情報の共有	78	110	120	1	309
リハビリテーションの内容	76	116	124	1	317
多職種協働に向けた支援方針	51	67	95	1	214
他サービス事業所との連携	47	69	76	0	192
家族との連携	57	87	102	1	247
在宅環境の検討	44	77	92	1	214

3) 管理栄養士が貴事業所で実施している取組内容

病院、介護老人保健施設ともに「食事摂取量の確認」が各々10件、24件で最も多い。

図表 11.3 管理栄養士が貴事業所で実施している取組内容

管理栄養士の取組内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
栄養状態の評価(スクリーニング含む)	9	2	22	0	33
栄養ケア計画の作成	7	2	17	0	26
提供栄養量の調整	5	2	19	0	26
食事摂取量の確認	10	3	24	0	37
食事嗜好の確認と対応	8	3	22	0	33
利用者・家族への説明・指導	7	4	17	0	28
職員への栄養管理の指導	2	1	7	0	10
摂食嚥下リハ学会の分類に応じた嚥下調整食の提供	4	0	16	0	20
見た目に配慮したソフト食の提供	4	1	13	0	18
その他	1	0	2	0	3

4) 歯科医師・歯科衛生士が貴事業所で実施している取組内容

図表 11.4 歯科医師・歯科衛生士が貴事業所で実施している取組内容

歯科医師・歯科衛生士の取組内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
口腔機能状態の評価(スクリーニング含む)	2	4	2	1	9
口腔衛生状態の評価(スクリーニング含む)	2	4	3	1	10
摂食・嚥下等の口腔機能に関する指導	2	3	2	1	8
口腔清掃・口腔清掃に関する指導	2	4	3	1	10
音声・言語機能に関する指導	2	2	3	0	7
歯科治療が必要な方の歯科医院への紹介	2	3	2	0	7
利用者の口腔に関する相談	2	4	3	1	10
事業所職員への口腔衛生に関する技術的助言および指導	1	3	2	0	6
その他	0	0	0	0	0

5) 支援相談員・ソーシャルワーカーが貴事業所で実施している取組内容

病院、介護老人保健施設ともに「ケアマネとの連携」が各々10件、58件で最も多い。

図表 11.5 支援相談員・ソーシャルワーカーが貴事業所で実施している取組内容

支援相談員・ソーシャルワーカーの取組内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
本人・家族からの希望の聴取	9	8	55	1	73
福祉サービスの紹介と調整	7	0	32	0	39
ケアマネとの連携	10	8	58	1	77
他事業所との連携	9	6	49	0	64
その他	1	0	5	0	6

6) 「リハビリテーション・個別機能訓練、栄養管理、口腔管理に係る実施計画書」の活用有無

「活用あり」は病院で 72 件、診療所で 94 件、介護老人保健施設で 95 件であった。

図表 11.6 実施計画書の活用有無

実施計画書の活用有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
活用あり	72	94	95	1	262
活用なし	29	42	43	1	115

7) 上記 6) で活用なしの場合、活用していない理由

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「栄養・口腔に関連する加算を算定していない」が各々 19 件、31 件、23 件で最も多い。

図表 11.7 上記 6) で活用なしの場合、活用していない理由

活用していない理由	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
当該計画書様式の存在を知らない	1	2	2	0	5
栄養・口腔に関連する加算を算定していない	19	31	23	1	74
管理栄養士が勤務していない	9	26	3	0	38
歯科医師・歯科衛生士が勤務していない	18	27	13	0	58
報酬上のインセンティブがないため	4	5	4	0	13
当該計画書様式の記載が煩雑	3	1	8	0	12
報酬算定の管理が煩雑	1	0	4	0	5
その他	4	3	9	0	16

問 12 各評価指標について、活用の有無をご回答ください。

病院では「① TUG (Timed Up and Go Test)」が102件、診療所では「④ 握力」が133件、介護老人保健施設では「⑫ BI (Barthel Index)」が137件で最も多い。

図表 12 各評価指標について

	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
① TUG (Timed Up and Go Test)	102	126	132	1	361
② 6分間歩行距離	29	21	47	0	97
③ CS30 (30秒椅子立ち上がりテスト)	29	30	28	1	88
④ 握力	101	133	132	2	368
⑤ BMI	64	72	89	0	225
⑥ FAC (Functional Ambulation Categories)	7	9	7	0	23
⑦ 10m歩行テスト	55	68	70	0	193
⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度	83	105	126	1	315
⑨ DBD-13 (Dementia Behavior Disturbance scale - 13)	15	14	26	0	55
⑩ Vitality Index	20	23	38	0	81
⑪ MMSE (Mini Mental State Examination)	47	37	66	1	151
⑫ HDS-R (長谷川式認知症スケール)	94	126	127	1	348
⑬ CDR (Clinical Dementia Rating)	3	0	4	0	7
⑭ NPI-Q (NPI-Brief Questionnaire Form)	2	0	1	0	3
⑮ SLTA (Standard Language Test of Aphasia)	13	3	22	0	38
⑯ リバーミード行動記憶検査 (Rivermead Behavioural Memory Test)	7	0	2	0	9
⑰ Ability for Basic Movement Scale	4	6	2	0	12
⑱ 障害高齢者の日常生活自立度	86	111	123	1	321
⑲ BI (Barthel Index)	99	125	137	2	363
⑳ FIM (Functional Independence Measure)	39	49	44	1	133
21. Lawton の日常生活尺度 (IADL)	18	42	33	1	94
22. FAI (Frenchay Activities Index)	32	37	46	0	115
23. 老研式活動能力指標	4	4	9	0	17
24. LSA (Life Space Assessment)	11	7	9	0	27
25. CHART (Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)	2	1	1	0	4
26. CIQ (Community Integration Questionnaire)	1	1	1	0	3
27. SF-36 (MOS 36-Item Short-Form Health Survey)	2	1	1	0	4
28. ICF ステージング	7	5	37	0	49
29. WHODAS2.0 (The World Health Organization Disability Assessment Schedule)	1	0	1	0	2
30. 生活行為の作業工程分析(作業遂行アセスメント表)	4	1	9	0	14

問 13 各加算の届出有無、及び算定実人数（令和 3 年 9 月分）についてご回答ください。

病院では「1）リハビリテーション提供体制加算」が 78 件、診療所、介護老人保健施設では「5）介護職員処遇改善加算」が各々 92 件、138 件で最も多い。

図表 13 各加算の届出有無

各加算の届出有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
1) リハビリテーション提供体制加算	78	81	127	2	288
2) 理学療法士等体制強化加算	34	39	38	0	111
3) 中重度ケア体制加算	18	16	65	1	100
4) サービス提供体制強化加算(Ⅰ)	50	53	100	0	203
4) サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	17	21	28	1	67
4) サービス提供体制強化加算(Ⅲ)	25	27	19	0	71
5) 介護職員処遇改善加算	74	92	138	2	306
6) 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ)	34	36	104	0	174
6) 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅱ)	12	16	19	1	48
7) 移行支援加算(旧社会参加支援加算)	26	15	34	0	75
8) 科学的介護推進体制加算	48	44	112	0	204
9) リハビリテーションマネジメント加算(A)イ	29	33	35	1	98
9) リハビリテーションマネジメント加算(A)ロ	25	22	45	0	92
9) リハビリテーションマネジメント加算(B)イ	35	38	45	1	119
9) リハビリテーションマネジメント加算(B)ロ	33	37	73	0	143
10) 短期集中個別リハビリテーション実施加算	72	65	114	1	252
11) 認知症短期集中リハビリテーション実施加算(Ⅰ)	7	4	21	0	32
11) 認知症短期集中リハビリテーション実施加算(Ⅱ)	8	2	15	0	25
12) 生活行為向上リハビリテーション実施加算	15	11	18	0	44
13) 若年性認知症利用者受入加算	10	2	12	0	24
14) 入浴介助加算(Ⅰ)	57	65	128	1	251
14) 入浴介助加算(Ⅱ)	23	22	51	0	96
15) 重度者療養管理加算	19	9	30	0	58
16) 栄養アセスメント加算	14	5	47	0	66
17) 栄養改善加算	18	6	14	0	38
18) 口腔・栄養スクリーニング加算(Ⅰ)	23	19	24	0	66
18) 口腔・栄養スクリーニング加算(Ⅱ)	15	9	20	0	44
19) 口腔機能向上加算(Ⅰ)	23	21	21	1	66
19) 口腔機能向上加算(Ⅱ)	13	7	33	0	53

IV. 貴事業所における取組等

問 14 貴事業所における、利用者家族・親族等との関わり方についてご回答ください

1) リハビリテーション会議への家族・親族等の参加

病院、診療所では「参加を案内していない」が各々42件、53件、介護老人保健施設では「すべての家族・親族等について参加を案内している」が61件で最も多い。

図表 14.1 リハビリテーション会議への家族・親族等の参加

リハ会議への家族・親族等の参加	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
すべての家族・親族等について参加を案内している	23	41	61	0	125
およそ半数の家族・親族等について参加を案内している	7	10	11	1	29
一部の家族・親族等について参加を案内している	26	31	30	0	87
参加を案内していない	42	53	39	1	135

2) 家族・親族等への在宅での介助に関する指導や説明

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「一部の家族・親族等について実施している」が各々63件、87件、72件で最も多い。

図表 14.2 家族・親族等への在宅での介助に関する指導や説明

在宅での介助に関する指導や説明	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
すべての家族・親族等について実施している	18	27	46	0	91
およそ半数の家族・親族等について実施している	14	19	23	0	56
一部の家族・親族等について実施している	63	87	72	2	224
実施していない	10	8	5	0	23

3) 2) 以外の家族・親族等への支援

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「個別相談への対応」が各々52件、75件、81件で最も多い。

図表 14.3 2) 以外の家族・親族等への支援

2) 以外の家族・親族等への支援	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
家族会の開催	0	2	3	0	5
意見交換会の開催	1	0	1	0	2
個別相談への対応	52	75	81	2	210
その他	3	4	7	0	14
特に実施していない	40	54	41	0	135

問 15 貴事業所における、過去 1 年間（令和 2 年 10 月 1 日～令和 3 年 9 月 30 日）の、地域への貢献活動（地域リハビリテーション活動支援事業等）への参加状況についてご回答ください。

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「2）地域ケア会議等への職員の関与（委員として参加したなど）」が各々 28 件、34 件、46 件で最も多い。

図表 15 地域への貢献活動

地域への貢献活動	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
1) 地域リハビリテーション活動支援事業の一環としての自治体への関与(リハビリテーション専門職を地域支援事業へ派遣した等)	25	31	39	0	95
2) 地域ケア会議等への職員の関与(委員として参加したなど)	28	34	46	1	109
3) 地域の介護事業所等への職員の訪問・派遣	5	11	16	0	32
4) 地域住民が運営している通いの場への職員の訪問・派遣(指導者として参画した等)	16	17	22	0	55
5) 地域住民に対する健康教室(介護予防・健康づくり)の開催	14	17	25	0	56
6) 認知症・失語症・障害者等の地域住民が集うカフェやサロンの運営・設置・参加	3	3	8	0	14

【通所リハビリテーション】 【事業者票】 （ケアの提供状況）

1) 食事と入浴の提供有無の相関

食事と入浴の提供有無の相関では、正の相関関係がみられた。

図表 1.1 食事と入浴の提供有無の相関

食事と入浴の提供有無の相関	入浴の提供有無	
	有	無
有	265	16
無	0	97

1) 食事の提供の有無（再掲：サービス提供施設別）

「有」は病院で 64 件、診療所で 84 件、介護老人保健施設で 137 件であった。

図表 1.2 食事の提供の有無（再掲：サービス提供施設別）

食事の提供の有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
有	64	84	137	0	285
無	38	56	4	1	99

1) 入浴の提供の有無（再掲：サービス提供施設別）

「有」は病院で 60 件、診療所で 75 件、介護老人保健施設で 140 件であった。

図表 1.3 入浴の提供の有無（再掲：サービス提供施設別）

入浴の提供の有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
有	60	75	140	0	275
無	43	65	4	1	113

2) サービス時間と食事ケアの提供の関係

食事の提供有では「6 時間以上 7 時間未満」が 237 件、食事の提供無では「1 時間以上 2 時間未満」が 78 件で最も多い。

図表 2.1 サービス時間と食事ケアの提供の関係

時間区分	食事の提供有無		計
	有	無	
1 時間以上 2 時間未満	100	78	178
2 時間以上 3 時間未満	97	16	113
3 時間以上 4 時間未満	114	24	138
4 時間以上 5 時間未満	102	0	102
5 時間以上 6 時間未満	112	0	112
6 時間以上 7 時間未満	237	0	237
7 時間以上 8 時間未満	81	0	81
8 時間以上	4	0	4

2) 食事の提供の割合（再掲：サービス提供施設別）

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「利用者のほぼ全員（80%以上）が利用」が各々51件、63件、125件で最も多い。

図表 2.2 食事の提供の割合（再掲：サービス提供施設別）

食事の提供の割合	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用者のほぼ全員(80%以上)が利用	51	63	125	0	239
利用者の過半数(60～80%)が利用	9	10	9	0	28
利用者の半数程度(40～60%)が利用	3	3	3	0	9
利用者の少数(20～40%)が利用	1	5	0	0	6
利用者の一部(20%以下)が利用	0	3	0	0	3

3) サービス時間と入浴ケアの提供の関係

入浴の提供有では「6時間以上7時間未満」が233件、入浴の提供無では「1時間以上2時間未満」が88件で最も多い。

図表 3.1 サービス時間と入浴ケアの提供の関係

時間区分	入浴の提供有無		計
	有	無	
1時間以上2時間未満	91	88	179
2時間以上3時間未満	94	22	116
3時間以上4時間未満	109	32	141
4時間以上5時間未満	100	6	106
5時間以上6時間未満	110	5	115
6時間以上7時間未満	233	9	242
7時間以上8時間未満	77	3	80
8時間以上	5	0	5

3) 入浴の提供の割合（再掲：サービス提供施設別）

病院では「利用者のほぼ全員（80%以上）が利用」が27件、診療所では「利用者のほぼ全員（60～80%）が利用」が25件、介護老人保健施設では「利用者のほぼ全員（80%以上）が利用」が89件で最も多い。

図表 3.2 入浴の提供の割合（再掲：サービス提供施設別）

入浴の提供の割合	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用者のほぼ全員(80%以上)が利用	27	20	89	0	136
利用者の過半数(60～80%)が利用	15	25	33	0	73
利用者の半数程度(40～60%)が利用	13	8	10	0	31
利用者の少数(20～40%)が利用	3	15	4	0	22
利用者の一部(20%以下)が利用	1	5	3	0	9

(2) クロス集計 通所リハ 利用者票

【通所リハビリテーション】 【利用者票】 (サービス提供施設)

2) 年齢

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「85歳以上～90歳未満」が各々134件、191件、200件で最も多い。

図表 2 年齢

年齢	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
60歳未満	24	15	18	0	57
60歳以上～65歳未満	24	20	29	0	73
65歳以上～70歳未満	42	37	65	0	144
70歳以上～75歳未満	82	66	100	1	249
75歳以上～80歳未満	95	102	117	1	315
80歳以上～85歳未満	105	172	172	1	450
85歳以上～90歳未満	134	191	200	3	528
90歳以上～95歳未満	56	111	112	0	279
95歳以上～100歳未満	28	26	30	0	84
100歳以上	2	5	5	0	12
無回答	5	5	4	0	14
調査数	597	750	852	6	2205

3) 性別

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「女」が各々318件、436件、439件で「男」に比べ多い。

図表 3 性別

性別	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
男	252	289	389	2	932
女	318	436	439	4	1197
無回答	27	25	24	0	76
調査数	597	750	852	6	2205

4) サービスの利用開始時期【西暦】

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「2020年～」が各々255件、335件、338件で最も多い。

図表4 サービスの利用開始時期【西暦】

利用開始時期	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
～1990年	62	55	89	0	206
1990年～1995年	0	0	0	0	0
1995年～2000年	0	0	1	0	1
2000年～2005年	3	7	6	0	16
2005年～2010年	8	10	24	0	42
2010年～2015年	40	53	71	0	164
2015年～2020年	219	284	316	3	822
2020年～	255	335	338	3	931
無回答	10	6	7	0	23
調査数	597	750	852	6	2205

5) 要介護度

病院、診療所では「要介護1」が各々221件、329件、介護老人保健施設では「要介護2」が271件で最も多い。

図表5 要介護度

要介護度	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
要介護1	221	329	247	4	801
要介護2	180	232	271	2	685
要介護3	114	104	163	0	381
要介護4	49	51	106	0	206
要介護5	24	17	44	0	85
無回答	9	17	21	0	47
調査数	597	750	852	6	2205

6) 認知症高齢者の日常生活自立度

病院、診療所では「自立」が各々212件、210件、介護老人保健施設では「Ⅰ」が254件で最も多い。

図表 6 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
自立	212	210	186	3	611
Ⅰ	162	199	254	0	615
Ⅱ a	74	114	128	1	317
Ⅱ b	70	127	164	1	362
Ⅲ a	29	40	53	1	123
Ⅲ b	9	9	12	0	30
Ⅳ	8	8	24	0	40
M	0	4	3	0	7
不明	9	6	9	0	24
無回答	24	33	19	0	76
調査数	597	750	852	6	2205

7) リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

病院、介護老人保健施設では「脳血管障害」が各々228件、303件、診療所では「骨関節疾患」が287件で最も多い。

図表 7 リハビリが必要となった原因の主たる傷病名

リハビリ原因の主たる傷病名	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
脳血管障害	228	184	303	1	716
骨関節疾患	165	287	210	4	666
関節リウマチ	6	6	4	0	16
神経筋疾患(パーキンソン病含む)	43	49	49	1	142
虚血性心疾患・心不全	12	11	14	0	37
呼吸器疾患(COPD・間質性肺炎含む)	10	6	6	0	22
脊髄損傷	11	12	15	0	38
がん	6	7	9	0	22
認知症	27	44	72	0	143
サルコペニア	3	7	8	0	18
フレイル	3	12	10	0	25
うつ(状態)	2	3	3	0	8
その他	36	30	56	0	122
不明	0	1	2	0	3
無回答	45	91	91	0	227
調査数	597	750	852	6	2205

8) 現在の障害の状況

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「筋力低下」が各々484件、641件、675件で最も多い。

図表 8 現在の障害の状況

現在の障害の状況	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人 保健施設	介護医療 院	
片麻痺	202	163	275	1	641
四肢麻痺	20	20	21	0	61
対麻痺	13	10	13	0	36
運動失調	37	55	79	0	171
感覚障害	150	171	181	1	503
呼吸障害	14	28	27	0	69
循環障害	23	40	33	0	96
耐久性低下	273	314	413	1	1001
筋力低下	484	641	675	6	1806
関節機能障害	251	344	313	4	912
高次脳機能障害	64	40	108	0	212
認知機能障害	119	196	229	1	545
失語症	48	20	74	0	142
構音障害	37	41	94	0	172
嚥下障害	23	34	49	0	106
疼痛	217	364	260	5	846
排泄障害	21	26	37	0	84
その他	17	26	46	0	89

9) 現在の医療介入

病院では「膀胱または直腸の機能障害の程度が身体障害者4級以上に該当し、かつ、ストーマの処置を実施している状態」が6件、診療所、介護老人保健施設では「経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われている状態」が各々16件、24件で最も多い。

図表 9 現在の医療介入

現在の医療介入	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
常時頻回の喀痰吸引を実施している状態	0	0	2	0	2
呼吸障害等により人工呼吸器を使用している状態	0	1	0	0	1
中心静脈注射を実施している状態	0	0	0	0	0
人工腎臓を実施しており、かつ重篤な合併症を有する状態	1	1	1	0	3
重篤な心機能障害、呼吸障害等により常時モニター測定を実施している状態	0	0	0	0	0
膀胱または直腸の機能障害の程度が身体障害者4級以上に該当し、かつ、ストーマの処置を実施している状態	6	3	5	0	14
経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われている状態	4	4	16	0	24
褥瘡に対する治療を実施している状態	5	3	11	0	19
気管切開が行われている状態	0	0	2	0	2

10) 通所リハビリ開始前に入院・入所していた医療機関

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「病院」が各々412件、342件、491件で最も多い。

図表 10 通所リハビリ開始前に入院・入所していた医療機関

通所リハビリ開始前に入院・入所していた医療機関	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
病院	412	342	491	5	1250
老健	11	14	104	0	129
介護医療院	1	1	1	0	3
その他	23	35	28	0	86
無回答	150	358	228	1	737
調査数	597	750	852	6	2205

11) 通所リハ利用開始前に利用していた介護サービス事業所

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「通所介護」が各々60件、85件、67件で最も多い。

図表 11 通所リハ利用開始前に利用していた介護サービス事業所

通所リハ利用開始前に利用していた介護サービス事業所	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
通所介護	60	85	67	1	213
地域密着型通所介護	2	6	2	0	10
認知症対応型通所介護	2	0	0	0	2
小規模多機能型居宅介護	0	0	4	0	4
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	1	0	1
介護予防認知症対応型通所介護	0	0	0	0	0
介護予防小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0
その他	35	31	44	0	110
無回答	498	628	734	5	1865
調査数	597	750	852	6	2205

12) 現在の居所

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「自宅・親戚宅」が各々540件、677件、777件で最も多い。

図表 12 現在の居所

現在の居所	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
自宅・親戚宅	540	677	777	5	1999
高齢者住宅	27	33	46	1	107
その他	4	1	8	0	13
無回答	26	39	21	0	86
調査数	597	750	852	6	2205

13) 主な利用時間

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「6～7時間」が各々240件、258件、527件で最も多い。

図表 13 主な利用時間

主な利用時間	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
1～2時間	189	195	24	0	408
2～3時間	29	68	18	0	115
3～4時間	55	89	33	5	182
4～5時間	12	18	20	0	50
5～6時間	34	48	96	0	178
6～7時間	240	258	527	1	1026
7～8時間	26	49	121	0	196
8時間以上	1	1	1	0	3
無回答	11	24	12	0	47
調査数	597	750	852	6	2205

14) 主な利用頻度

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「週2回」が各々274件、288件、365件で最も多い。

図表 14 主な利用頻度

主な利用頻度	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
週1回	73	142	67	0	282
週2回	274	288	365	3	930
週3回	144	148	259	0	551
週4回	25	48	49	0	122
週5回以上	17	29	32	0	78
無回答	64	95	80	3	242
調査数	597	750	852	6	2205

15) 加算の算定状況

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「入浴介助加算Ⅰ」が各々198件、215件、477件で最も多い。

図表 15 加算の算定状況

加算の算定状況	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
リハビリテーションマネジメント加算(A) イ	36	103	64	0	203
リハビリテーションマネジメント加算(A) ロ	46	18	121	0	185
リハビリテーションマネジメント加算(B) イ	70	82	44	5	201
リハビリテーションマネジメント加算(B) ロ	90	133	267	0	490
短期集中個別リハビリテーション実施加算	31	12	44	0	87
認知症短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ	0	0	10	0	10
認知症短期集中リハビリテーション実施加算Ⅱ	0	0	1	0	1
生活行為向上リハビリテーション実施加算	3	3	3	0	9
入浴介助加算Ⅰ	198	215	477	1	891
入浴介助加算Ⅱ	40	44	94	0	178
栄養改善加算	4	6	16	0	26
重度者療養管理加算	8	3	21	0	32
口腔機能向上加算Ⅰ	1	34	7	1	43
口腔機能向上加算Ⅱ	15	22	28	0	65

16) 併用サービスの有無

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「福祉用具」が各々293件、383件、527件で最も多い。

図表 16 併用サービスの有無

(複数回答)

併用サービスの有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
訪問リハ	39	48	72	0	159
訪問看護	42	64	96	1	203
訪問介護	85	140	167	0	392
通所介護	118	153	135	1	407
短期生活介護	29	28	49	0	106
短期療養介護	6	6	53	0	65
福祉用具	293	383	527	2	1205
障害福祉サービス	1	4	6	0	11
その他	15	16	25	0	56

17) 入浴サービスの有無

「利用あり」は病院で285件、診療所で297件、介護老人保健施設で679件であった。

図表 17.1 入浴サービスの有無

入浴サービスの有無	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
利用あり	285	297	679	1	1262
利用なし	298	432	160	5	895
無回答	14	21	13	0	48
調査数	597	750	852	6	2205

「1. 利用あり」の場合のサービス形態

病院では「個浴」が107件、診療所、介護老人保健施設では「集団浴」が各々142件、360件で最も多い。

図表 17.2 「1. 利用あり」の場合のサービス形態

「1. 利用あり」の場合のサービス形態	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
個浴	107	110	169	0	386
機械浴	67	42	151	1	261
集団浴	105	142	360	0	607

18) 過去6か月以内に実施した敷地外でのリハビリの有無・内容

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「実施なし」が各々423件、546件、612件で最も多い。

図表 18 過去6か月以内に実施した敷地外でのリハビリの有無・内容

過去6か月以内に実施した敷地外でのリハビリの有無・内容	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
スーパー等での買い物訓練	8	15	6	0	29
バス等の公共交通機関の利用訓練	0	3	0	0	3
屋外歩行訓練(坂道・不整地等)	132	163	182	1	478
就労訓練(仕事体験・ボランティア等含)	0	1	1	0	2
その他	8	11	16	0	35
実施なし	423	546	612	5	1586

19) 在宅での生活機能の評価の頻度

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「実施なし」が各々208件、202件、235件で最も多い。

図表 19 在宅での生活機能の評価の頻度

在宅での生活機能の評価の頻度	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
月に1回程度	11	45	52	0	108
2～3か月に1回程度	114	143	180	5	442
3か月～半年に1回程度	69	69	107	0	245
半年～年に1回程度	73	124	90	0	287
年に1回以下の頻度	95	148	150	0	393
実施なし	208	202	235	1	646
無回答	27	19	38	0	84
調査数	597	750	852	6	2205

20) 在宅での生活状況(離床時間)※通所サービスの利用時間以外

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「8時間以上(1日あたり換算)」が各々331件、372件、384件で最も多い。

図表 20 在宅での生活状況(離床時間)※通所サービスの利用時間以外

在宅での生活状況(離床時間)※通所サービスの利用時間以外	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
0時間(離床なし)	8	8	13	0	29
1時間未満(1日あたり換算)	7	10	13	0	30
1時間以上2時間未満(1日あたり換算)	24	39	41	0	104
2時間以上4時間未満(1日あたり換算)	56	63	124	0	243
4時間以上8時間未満(1日あたり換算)	153	217	258	1	629
8時間以上(1日あたり換算)	331	372	384	5	1092
無回答	18	41	19	0	78
調査数	597	750	852	6	2205

21) 在宅での生活状況（排泄方法）※通所サービスの利用時間以外

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「自宅トイレ利用」が各々548件、682件、769件で最も多い。

図表 21 在宅での生活状況（排泄方法）※通所サービスの利用時間以外

在宅での生活状況(排泄方法)※通所サービスの利用時間以外	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
自宅トイレ利用	548	682	769	5	2004
簡易トイレ	41	52	63	1	157
おむつ	50	91	88	0	229
その他	10	14	20	0	44

22) リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

病院では「交通手段の利用」が512件、診療所、介護老人保健施設では「身体機能・構造」が各々685件、754件で最も多い。

図表 22 リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）

リハビリ実施計画書の目標(解決すべき課題)	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
精神機能	90	126	136	0	352
感覚機能と痛み	231	344	254	4	833
身体機能・構造	507	685	754	6	1952
学習	19	44	43	0	106
選択と実行	21	16	24	0	61
問題解決	29	24	24	0	77
日課の遂行	91	117	128	2	338
コミュニケーション	122	195	252	1	570
姿勢の変換	42	68	82	2	194
移乗	195	262	263	1	721
物の運搬・移動・操作	107	133	190	1	431
歩行や移動	50	38	41	0	129
交通手段の利用	512	657	739	6	1914
入浴	25	17	17	0	59
整容	120	167	170	0	457
トイレ動作	15	49	29	0	93
更衣	72	111	157	0	340
食事	50	91	81	0	222
健康管理	33	56	53	0	142
買物	109	153	125	0	387
料理	45	41	48	0	134
家事	19	24	27	0	70
家庭用品の管理	58	61	58	0	177
他者への援助	5	11	5	0	21
対人関係	3	6	4	1	14
仕事	66	63	157	0	286
趣味や社会活動	13	9	7	0	29
人権	122	103	105	1	331

23) 調査日から過去1月間に提供したリハビリの種類

病院、診療所、介護老人保健施設ともに「筋力増強訓練」が各々558件、693件、776件で最も多い。

図表 23 調査日から過去1月間に提供したリハビリの種類

調査日から過去1月間に提供したリハビリの種類	サービス提供施設				計
	病院	診療所	介護老人保健施設	介護医療院	
関節可動域訓練	467	598	602	5	1672
筋力増強訓練	558	693	776	6	2033
基本動作訓練	297	385	360	6	1048
移乗訓練	104	127	167	1	399
立位歩行訓練	499	617	747	6	1869
バランス訓練	345	428	421	3	1197
持久力(心肺機能)訓練	254	262	287	4	807
呼吸機能訓練	9	26	16	0	51
階段昇降訓練	163	220	289	1	673
促通手技(上肢・下肢麻痺に対する)	61	66	63	1	191
巧緻運動・協調性運動訓練	51	83	63	0	197
排泄機能訓練	7	7	9	0	23
摂食嚥下機能訓練	23	31	21	0	75
失語症訓練	32	11	38	0	81
構音訓練	17	22	41	0	80
認知機能訓練(認知症に対する)	74	126	112	0	312
認知機能訓練(高次脳機能障害に対する)	18	17	27	0	62
食事動作	12	37	33	0	82
整容動作	11	44	22	0	77
トイレ動作	54	65	81	0	200
入浴動作	70	90	91	0	251
更衣動作	32	66	49	0	147
調理動作	7	11	8	0	26
洗濯動作	6	19	4	0	29
掃除動作	3	7	3	0	13
趣味活動	30	63	56	0	149
服薬管理	4	38	13	0	55
車の乗降	19	51	22	0	92
家の手入れ	1	5	1	0	7
買い物	7	8	4	0	19
就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等を含む)	2	2	0	0	4
公共交通機関の利用	5	2	0	0	7
義肢装具の評価・調整・作成	15	12	19	0	46
福祉用具の評価・調整	40	43	56	0	139
家屋の評価・環境調整	17	29	41	1	88
その他	35	46	66	0	147

(3) 個別クロス集計 通所リハ (利用者票及び事業所票結合)

(個別クロス (BI, FAI 変量))

①利用者の ADL (BI) の変化量

図表① 利用者の ADL (BI) の変化量

利用者のADL 変化量 (Barthel Index)	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)
BI改善(変化量プラス)	617	246
BI維持(変化量0)	980	1372
BI悪化(変化量マイナス)	356	175
無回答	260	420
調査数	2213	2213

②利用者の ADL (BI) の変化量 (始点別)

図表② 利用者の ADL (BI) の変化量 (始点別)

利用者のADL 変化量 (Barthel Index)	始点BI(0-50)		始点BI(50-80)		始点BI(80-100)	
	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)
BI改善(変化量プラス)	77	27	264	98	269	117
BI維持(変化量0)	78	111	205	333	486	684
BI悪化(変化量マイナス)	31	23	76	53	197	84

③利用者の IADL (FAI) の変化量

図表③ 利用者の IADL (FAI) の変化量

利用者のADL 変化量 (FAI:)	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)
FAI:改善	609	283
FAI:維持	621	971
FAI:悪化	274	149
無回答	709	810
調査数	2213	2213

④利用者の IADL (FAI) の変化量 (始点別)

図表④ 利用者の IADL (FAI) の変化量 (始点別)

利用者のADL 変化量 (FAI)	始点FAI(0-10)		始点FAI(10-20)		始点FAI(20-)	
	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)	変化量(現在-初期)	変化量(現在-6ヵ月)
FAI改善(変化量プラス)	420	169	139	66	50	48
FAI維持(変化量0)	418	596	113	221	90	154
FAI悪化(変化量マイナス)	103	70	108	56	63	23

【通所リハビリテーション】 【利用者票】 （個別クロス（BI, FAI 相関））

①BI と FAI の相関

図表① BI と FAI の相関

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)									
	0以上～5未満	5以上～10未満	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上～40未満	40以上～45未満	45以上～50未満
0以上～5未満	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0
5以上～10未満	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10以上～15未満	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15以上～20未満	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0
20以上～25未満	9	3	1	0	0	0	0	0	0	0
25以上～30未満	12	2	1	0	0	0	0	0	0	0
30以上～35未満	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0
35以上～40未満	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0
40以上～45未満	16	2	0	0	0	0	0	0	0	0
45以上～50未満	26	6	2	0	0	0	0	0	0	0
50以上～55未満	25	8	3	0	0	0	0	0	0	0
55以上～60未満	31	10	1	0	0	0	1	1	0	0
60以上～65未満	40	10	4	2	0	1	0	0	0	0
65以上～70未満	58	21	7	1	1	1	0	0	0	0
70以上～75未満	41	23	12	4	2	0	0	0	0	0
75以上～80未満	38	34	11	10	3	2	0	0	0	0
80以上～85未満	56	52	27	15	12	1	0	0	0	0
85以上～90未満	52	64	37	22	19	5	2	0	0	0
90以上～95未満	40	50	38	39	29	9	6	0	0	0
95以上～100未満	29	42	44	34	30	19	7	1	0	0
100	22	37	35	47	50	39	15	2	1	1

②BI 変化量と FAI 変化量との相関（初期から現在）

図表② BI 変化量と FAI 変化量との相関（初期から現在）

BI変化量	FAI変化量		
	FAI悪化 (変化量 マイナス)	FAI維持 (変化量 0)	FAI改善 (変化量 プラス)
BI改善(変化量プラス)	39	136	315
BI維持(変化量0)	96	394	235
BI悪化(変化量マイナス)	132	81	44

③BI 変化量と FAI 変化量との相関（6 か月前から現在）

図表③ BI 変化量と FAI 変化量との相関（6 か月前から現在）

BI変化量	FAI変化量		
	FAI悪化 (変化量 マイナス)	FAI維持 (変化量 0)	FAI改善 (変化量 プラス)
BI改善(変化量プラス)	9	93	96
BI維持(変化量0)	95	804	164
BI悪化(変化量マイナス)	45	64	23

【通所リハビリテーション】 【利用者票】 （個別クロス（BI, FAI－年齢））

①BI と年齢の相関

図表① BI と年齢の相関

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	利用者の年齢									
	60歳未満	60歳以上～65歳未満	65歳以上～70歳未満	70歳以上～75歳未満	75歳以上～80歳未満	80歳以上～85歳未満	85歳以上～90歳未満	90歳以上～95歳未満	95歳以上～100歳未満	100歳以上
0以上～5未満	2	1	4	4	1	3	3	6	0	0
5以上～10未満	0	2	2	2	1	1	1	1	0	0
10以上～15未満	0	0	1	2	4	2	2	1	0	1
15以上～20未満	0	0	3	2	1	2	2	0	0	0
20以上～25未満	1	1	2	3	1	3	2	2	0	0
25以上～30未満	0	0	3	1	3	4	2	1	2	1
30以上～35未満	0	0	2	4	2	2	5	2	1	0
35以上～40未満	0	0	1	1	4	5	4	4	3	1
40以上～45未満	2	1	2	4	4	1	6	2	0	0
45以上～50未満	1	1	5	7	3	6	12	4	2	0
50以上～55未満	0	4	3	6	4	9	12	7	3	0
55以上～60未満	2	2	6	5	12	10	14	5	2	0
60以上～65未満	6	0	7	12	8	10	20	10	5	0
65以上～70未満	4	3	7	14	19	24	16	11	5	1
70以上～75未満	1	4	7	11	12	19	24	20	5	2
75以上～80未満	4	5	10	18	25	28	22	18	8	0
80以上～85未満	5	7	15	27	30	51	47	32	8	1
85以上～90未満	8	11	14	19	37	42	62	41	12	4
90以上～95未満	5	8	14	34	36	64	64	37	7	0
95以上～100未満	3	6	18	22	44	61	79	31	10	0
100	13	15	16	37	48	69	98	32	9	1

②BI 変化量と年齢の相関

図表② BI 変化量と年齢の相関

利用者のADL 変化量 (FAI)	利用者の年齢									
	60歳未満	60歳以上～65歳未満	65歳以上～70歳未満	70歳以上～75歳未満	75歳以上～80歳未満	80歳以上～85歳未満	85歳以上～90歳未満	90歳以上～95歳未満	95歳以上～100歳未満	100歳以上
BI改善(変化量プラス)	30	31	48	71	107	138	114	51	15	0
BI維持(変化量0)	9	20	42	73	89	110	160	88	24	5
BI悪化(変化量マイナス)	3	5	12	25	37	48	82	43	15	3

③FAI と年齢の相関

図表③ FAI と年齢の相関

利用者のADL 合計点の分布 (FAIFrenchay Activities Index)	利用者の年齢									
	60歳未満	60以上～ 65未満	65以上～ 70未満	70以上～ 75未満	75以上～ 80未満	80以上～ 85未満	85以上～ 90未満	90以上～ 95未満	95以上～ 100未満	100以上
0以上～5未満	9	19	46	62	73	94	139	80	33	5
5以上～10未満	9	10	26	42	66	73	82	55	14	1
10以上～15未満	5	11	7	28	34	52	52	26	10	0
15以上～20未満	7	5	13	22	23	41	41	24	3	1
20以上～25未満	5	10	10	17	27	31	39	9	1	0
25以上～30未満	5	1	4	7	11	20	24	6	1	1
30以上～35未満	3	3	4	3	9	2	5	2	0	0
35以上～40未満	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
40以上～45未満	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④FAI 変化量と年齢の相関

図表④ FAI 変化量と年齢の相関

利用者のADL 変化量 (FAI)	利用者の年齢									
	60歳未満	60歳以上～65歳未満	65歳以上～70歳未満	70歳以上～75歳未満	75歳以上～80歳未満	80歳以上～85歳未満	85歳以上～90歳未満	90歳以上～95歳未満	95歳以上～100歳未満	100歳以上
FAI改善(変化量プラス)	30	31	48	71	107	138	114	51	15	0
FAI維持(変化量0)	9	20	42	73	89	110	160	88	24	5
FAI悪化(変化量マイナス)	3	5	12	25	37	48	82	43	15	3

①BI と要介護度との相関

図表① BI と要介護度との相関

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	利用者の要介護度				
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0以上～5未満	0	0	2	2	19
5以上～10未満	0	0	0	5	5
10以上～15未満	0	0	3	3	7
15以上～20未満	1	1	2	2	4
20以上～25未満	0	0	1	11	3
25以上～30未満	0	2	5	7	3
30以上～35未満	1	1	1	9	4
35以上～40未満	0	1	9	11	2
40以上～45未満	0	1	6	8	5
45以上～50未満	3	6	16	16	0
50以上～55未満	5	10	18	13	2
55以上～60未満	6	13	19	11	4
60以上～65未満	8	26	28	12	2
65以上～70未満	14	44	27	14	3
70以上～75未満	18	36	31	14	4
75以上～80未満	44	47	34	10	2
80以上～85未満	75	87	47	13	1
85以上～90未満	105	99	32	10	1
90以上～95未満	129	96	27	12	2
95以上～100未満	147	89	25	6	2
100	197	78	22	8	3

②BI 変化量と要介護度の相関

図表②.1 BI 変化量と要介護度の相関

利用者のADL 変化量 (BI 現在-初期)	利用者の要介護度				
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
BI改善(変化量プラス)	199	203	113	68	23
BI維持(変化量0)	414	294	149	73	32
BI悪化(変化量マイナス)	104	110	69	44	19

図表②.2 BI 変化量と要介護度の相関

利用者のADL 変化量 (BI 現在-6ヵ月)	利用者の要介護度				
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
BI改善(変化量プラス)	67	81	53	25	14
BI維持(変化量0)	539	420	223	120	47
BI悪化(変化量マイナス)	51	62	26	20	10

③FAI と要介護度との相関

図表③ FAI と要介護度との相関

利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)	利用者の要介護度				
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0以上～5未満	112	165	135	95	40
5以上～10未満	128	125	73	41	8
10以上～15未満	97	80	32	9	3
15以上～20未満	100	56	13	9	2
20以上～25未満	77	48	15	5	3
25以上～30未満	57	18	4	0	0
30以上～35未満	20	7	4	0	0
35以上～40未満	2	1	0	0	0
40以上～45未満	0	1	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0

④FAI 変化量と要介護度の相関

図表④. 1 FAI 変化量と要介護度の相関

利用者のADL 変化量 (FAI 現在-初期)	利用者の要介護度				
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
FAI改善(変化量プラス)	231	199	107	42	17
FAI維持(変化量0)	212	178	103	88	31
FAI悪化(変化量マイナス)	115	86	43	20	4

図表④. 2 FAI 変化量と要介護度の相関

利用者のADL 変化量 (FAI 現在-6ヵ月)	利用者の要介護度				
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
FAI改善(変化量プラス)	120	81	56	14	9
FAI維持(変化量0)	343	293	165	113	40
FAI悪化(変化量マイナス)	55	60	18	9	1

【通所リハビリテーション】 【利用者票】 (施設単位での利用者 ADLIADL 変化量の割合)

①施設単位での利用者の ADL (BI) 変化量の割合

(施設単位でのサンプル 8 のうち改善・維持となった利用者の割合)

図表① 施設単位での利用者の ADL (BI) 変化量の割合

施設における割合	BI改善割合	BI維持割合	BI維持+改善割合
0%-20%	91	47	19
20%-40%	84	57	10
40%-60%	29	50	23
60%-80%	18	57	66
80%-100%	6	17	110
調査数	228	228	228

②施設単位での利用者の IADL (FAI) 変化量の割合

(施設単位でのサンプル 8 のうち改善・維持となった利用者の割合)

図表② 施設単位での利用者の IADL (FAI) 変化量の割合

施設における割合	FAI改善割合	FAI維持割合	FAI維持+改善割合
0%-20%	102	94	53
20%-40%	59	63	15
40%-60%	23	33	16
60%-80%	35	28	59
80%-100%	9	10	85
調査数	228	228	228

【通所リハビリテーション】 【利用者票】 （施設単位での利用者 ADL(BI) 変化量の割合）

①問 5' リハビリテーションの利用の回転率（12/平均利用延月数）

* 平均利用月数＝評価対象期間の利用延月数/ 評価対象期間の（新規開始者数＋新規終了者数）÷ 2

図表① リハビリテーションの利用の回転率（12/平均利用延月数）

リハビリテーションの利用の回転率	施設単位での利用者のADL(BI)変化量（維持改善）の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0%～5%	0	0	0	1	2
5%～10%	3	1	0	1	4
10%～15%	1	0	2	4	5
15%～20%	0	1	3	8	7
20%～25%	0	0	4	10	5
25%～30%	2	1	3	7	9
30%～35%	4	1	1	6	10
35%～40%	1	0	2	6	17
40%～45%	0	2	4	3	10
45%～50%	1	0	1	6	12
50%～55%	1	0	0	3	4
55%～60%	1	0	1	1	4
60%～65%	1	1	0	2	4
65%以上	0	1	0	1	0

②問 3' 常勤換算数／1日当たり利用者数（延実人数／営業日数）

図表②.1 理学療法士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

理学療法士 職員体制 （常勤換算数）／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のADL(BI)変化量の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	1	0	0	1	1
0.1～0.5%	0	0	2	7	4
0.5～1.0%	4	2	4	13	9
1.0～2.0%	6	3	8	18	45
2.0～5.0%	3	4	6	16	33
5.0～10.0%	2	0	1	5	4
10.0～20.0%	0	0	0	1	1
20.0～30.0%	0	0	0	0	1
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	1	0	0

図表②. 2 作業療法士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

作業療法士 職員体制 (常勤換算数)／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のADL(BI)変化量の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	4	2	6	14	20
0.1～0.5%	1	1	2	3	13
0.5～1.0%	3	3	4	15	24
1.0～2.0%	1	4	2	15	21
2.0～5.0%	2	0	3	4	8
0.5～10.0%	1	0	0	0	1
10.0～20.0%	0	0	0	0	0
20.0～30.0%	0	0	0	0	0
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	0	0	0

図表②. 3 言語聴覚士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

言語聴覚士 職員体制 (常勤換算数)／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のADL(BI)変化量の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	7	4	8	23	46
0.1～0.5%	3	3	3	11	21
0.5～1.0%	0	1	1	3	6
1.0～2.0%	1	0	1	2	2
2.0～5.0%	0	0	0	0	1
0.5～10.0%	1	0	0	0	0
10.0～20.0%	0	0	0	0	0
20.0～30.0%	0	0	0	0	0
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	0	0	0

図表②. 4 理学療法士+作業療法士+言語聴覚士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

理学療法士+作業療法士+言語聴覚士 (常勤換算数)／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のADL(BI)変化量の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	0	0	0	0	0
0.1～0.5%	0	0	1	0	0
0.5～1.0%	2	0	0	3	4
1.0～2.0%	3	2	5	11	19
2.0～5.0%	3	6	4	18	40
0.5～10.0%	2	0	3	5	10
10.0～20.0%	0	0	0	1	1
20.0～30.0%	1	0	0	0	1
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	0	0	0

図表②. 5 社会福祉士+介護職員数 職員体制（常勤換算数） / 1日あたり利用者数

社会福祉士+介護職員数 (常勤換算数)/1日あたり利用者数	施設単位での利用者のADL(BI)変化維持改善の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	1	0	0	0	3
0.1～0.5%	0	0	0	0	0
0.5～1.0%	0	0	0	1	3
1.0～2.0%	1	0	0	2	5
2.0～5.0%	4	5	8	18	29
5.0～10.0%	6	4	11	29	48
10.0～20.0%	1	0	0	4	2
20.0～30.0%	0	0	0	0	0
30.0～40.0%	0	0	0	1	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	0	0	0

【通所リハビリテーション】 【利用者票】 （施設単位での利用者 ADLIAD 変化量の割合）

①問 5' リハビリテーションの利用の回転率（12/平均利用延月数）

* 平均利用月数＝評価対象期間の利用延月数/ 評価対象期間の（新規開始者数＋新規終了者数）÷ 2

図表① リハビリテーションの利用の回転率（12/平均利用延月数）

リハビリテーションの利用の回転率	施設単位での利用者のIADL(FAI)変化量（維持改善）の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0%～5%	1	1	0	0	1
5%～10%	5	1	0	1	2
10%～15%	3	1	2	1	5
15%～20%	2	2	2	6	7
20%～25%	3	0	1	8	7
25%～30%	6	0	1	7	8
30%～35%	6	1	0	8	7
35%～40%	9	0	0	8	9
40%～45%	1	1	2	6	9
45%～50%	4	1	2	4	9
50%～55%	2	1	0	1	4
60%～65%	0	1	1	1	4
65%～70%	1	1	0	3	3
70以上	0	0	1	1	0

②問 3' 常勤換算数／1日当たり利用者数（延実人数／営業日数）

図表②.1 理学療法士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

理学療法士 職員体制 （常勤換算数）／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のIADL(FAI)変化量（維持改善）の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	1	0	1	0	1
0.1～0.5%	1	0	1	7	4
0.5～1.0%	10	0	4	8	10
1.0～2.0%	16	5	3	18	38
2.0～5.0%	14	4	4	20	20
0.5～10.0%	5	1	0	3	3
10.0～20.0%	0	0	0	1	1
20.0～30.0%	0	1	0	0	0
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	1	0	0

図表②. 2 作業療法士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

作業療法士 職員体制 (常勤換算数)／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のIADL(FAI)変化量(維持改善)の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	18	2	3	11	12
0.1～0.5%	1	1	1	5	12
0.5～1.0%	9	3	3	12	22
1.0～2.0%	5	3	2	16	17
2.0～5.0%	4	2	1	8	2
5.0～10.0%	1	0	0	0	1
10.0～20.0%	0	0	0	0	0
20.0～30.0%	0	0	0	0	0
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	0	0	0

図表②. 3 言語聴覚士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

言語聴覚士 職員体制 (常勤換算数)／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のIADL(FAI)変化量(維持改善)の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	24	2	5	30	27
0.1～0.5%	8	3	3	10	17
0.5～1.0%	1	1	1	3	5
1.0～2.0%	2	0	0	1	3
2.0～5.0%	0	1	0	0	0
5.0～10.0%	1	0	0	0	0
10.0～20.0%	0	0	0	0	0
20.0～30.0%	0	0	0	0	0
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	0	0	0

図表②. 4 理学療法士+作業療法士+言語聴覚士 職員体制（常勤換算数）／1日あたり利用者数

理学療法士+作業療法士+言語聴覚士 (常勤換算数)／1日あたり利用者数	施設単位での利用者のIADL(FAI)変化量(維持改善)の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0～0.1%	0	0	0	0	0
0.1～0.5%	0	0	0	1	0
0.5～1.0%	3	0	2	2	2
1.0～2.0%	8	1	3	11	17
2.0～5.0%	17	5	3	20	26
5.0～10.0%	5	0	1	8	6
10.0～20.0%	0	0	0	1	1
20.0～30.0%	1	1	0	0	0
30.0～40.0%	0	0	0	0	0
40.0～50.0%	0	0	0	0	0
50.0%～	0	0	0	0	0

図表②.5 社会福祉士+介護職員数 職員体制（常勤換算数） / 1日あたり利用者数

社会福祉士+介護職員数 (常勤換算数)/1日あたり利用者数	施設単位での利用者のIADL(FAI)変化量(維持改善)の割合				
	0-20%	20-40%	40-60%	60-80%	80-100%
0~0.1%	0	1	0	1	2
0.1~0.5%	0	0	0	0	0
0.5~1.0%	0	0	0	2	2
1.0~2.0%	2	1	1	1	3
2.0~5.0%	13	3	2	22	24
5.0~10.0%	25	4	11	25	33
10.0~20.0%	2	0	0	3	2
20.0~30.0%	0	0	0	0	0
30.0~40.0%	0	0	0	0	1
40.0~50.0%	0	0	0	0	0
50.0%~	0	0	0	0	0

(4) 個別クロス集計 訪問リハ／老健／介護医療院（利用者票及び事業所票結合）

①BI と ICF 相関

図表① BI と ICF

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)														
	0以上～5未満	5以上～10未満	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上～40未満	40以上～45未満	45以上～50未満	50以上～55未満	55以上～60未満	60以上～65未満	65以上～70以下	
0以上～5未満	0	0	5	7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5以上～10未満	1	0	0	3	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
10以上～15未満	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
15以上～20未満	0	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	
20以上～25未満	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	
25以上～30未満	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
30以上～35未満	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	
35以上～40未満	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
40以上～45未満	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	
45以上～50未満	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	
50以上～55未満	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	
55以上～60未満	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	1	0	0	
60以上～65未満	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	1	0	0	
65以上～70未満	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	1	0	0	
70以上～75未満	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
75以上～80未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	3	0	0	
80以上～85未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	3	5	1	
85以上～90未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	9	1	
90以上～95未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	2	
95以上～100未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	3	
100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	

②BI 変化量と ICF 変化量との相関（初期から現在）

図表② BI 変化量と ICF 変化量との相関（初期から現在）

BI変化量	ICF変化量		
	ICF悪化 (変化量 マイナス)	ICF維持 (変化量 0)	ICF改善 (変化量 プラス)
BI改善(変化量プラス)	0	5	19
BI維持(変化量0)	8	53	2
BI悪化(変化量マイナス)	9	5	0

③BI 変化量と ICF 変化量との相関（6 か月前から現在）

図表③ BI 変化量と ICF 変化量との相関（6 か月前から現在）

BI変化量	ICF変化量		
	ICF悪化 (変化量 マイナス)	ICF維持 (変化量 0)	ICF改善 (変化量 プラス)
BI改善(変化量プラス)	0	5	19
BI維持(変化量0)	8	53	2
BI悪化(変化量マイナス)	9	5	0

④BI と FAI の相関

図表④ BI と FAI の相関

利用者のADL 合計点の分布 (Barthel Index)	利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)								
	0以上～5未満	5以上～10未満	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上～40未満	40以上～45未満
0以上～5未満	44	0	0	0	0	0	0	0	0
5以上～10未満	19	0	0	0	0	0	0	0	0
10以上～15未満	11	0	0	0	0	0	0	0	0
15以上～20未満	9	2	0	0	0	0	0	0	0
20以上～25未満	8	1	0	0	0	0	0	0	0
25以上～30未満	2	0	0	0	0	0	0	0	0
30以上～35未満	9	0	0	0	0	0	0	0	0
35以上～40未満	8	1	0	0	0	0	0	0	0
40以上～45未満	12	0	0	0	0	0	0	0	0
45以上～50未満	15	2	0	0	0	0	0	0	0
50以上～55未満	9	7	0	0	0	0	0	0	0
55以上～60未満	12	3	2	0	0	0	0	0	0
60以上～65未満	22	8	0	0	0	0	0	0	0
65以上～70未満	15	4	0	0	0	0	0	0	0
70以上～75未満	6	1	2	0	0	0	0	0	0
75以上～80未満	17	3	2	1	0	1	0	0	0
80以上～85未満	16	11	7	4	1	0	0	0	0
85以上～90未満	10	13	7	5	5	0	0	0	0
90以上～95未満	10	6	1	7	3	1	0	0	0
95以上～100以下	2	4	7	5	6	0	1	0	0

⑤BI 変化量と FAI 変化量との相関（初期から現在）

図表⑤ BI 変化量と FAI 変化量との相関（初期から現在）

BI変化量	FAI変化量		
	FAI悪化 (変化量 マイナス)	FAI維持 (変化量 0)	FAI改善 (変化量 プラス)
BI改善(変化量プラス)	8	31	27
BI維持(変化量0)	10	169	29
BI悪化(変化量マイナス)	14	28	1

⑥BI 変化量と FAI 変化量との相関（6 か月前から現在）

図表⑥ BI 変化量と FAI 変化量との相関（6 か月前から現在）

BI変化量	FAI変化量		
	FAI悪化 (変化量 マイナス)	FAI維持 (変化量 0)	FAI改善 (変化量 プラス)
BI改善(変化量プラス)	8	31	27
BI維持(変化量0)	10	169	29
BI悪化(変化量マイナス)	14	28	1

⑦ICF と FAI の相関

図表⑦ ICF と FAI の相関

利用者のADL 合計点の分布 (ICF ステージング)	利用者のADL 合計点の分布 (FAI:Frenchay Activities Index)									
	0以上～ 5未満	5以上～ 10未満	10以上～ 15未満	15以上～ 20未満	20以上～ 25未満	25以上～ 30未満	30以上～ 35未満	35以上～ 40未満	40以上～ 45未満	
0以上～5未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5以上～10未満	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
10以上～15未満	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
15以上～20未満	11	0	0	0	0	0	0	0	0	
20以上～25未満	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
25以上～30未満	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
30以上～35未満	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
35以上～40未満	11	0	0	0	0	0	0	0	0	
40以上～45未満	11	0	0	0	0	0	0	0	0	
45以上～50未満	9	2	1	0	0	0	0	0	0	
50以上～55未満	20	3	2	0	0	0	0	0	0	
55以上～60未満	7	4	2	0	0	0	0	0	0	
60以上～65未満	5	8	3	5	3	0	0	0	0	
65以上～70以下	0	2	0	4	3	0	0	0	1	

⑧ ICF 変化量と FAI 変化量との相関（初期から現在）

図表⑧ ICF 変化量と FAI 変化量との相関（初期から現在）

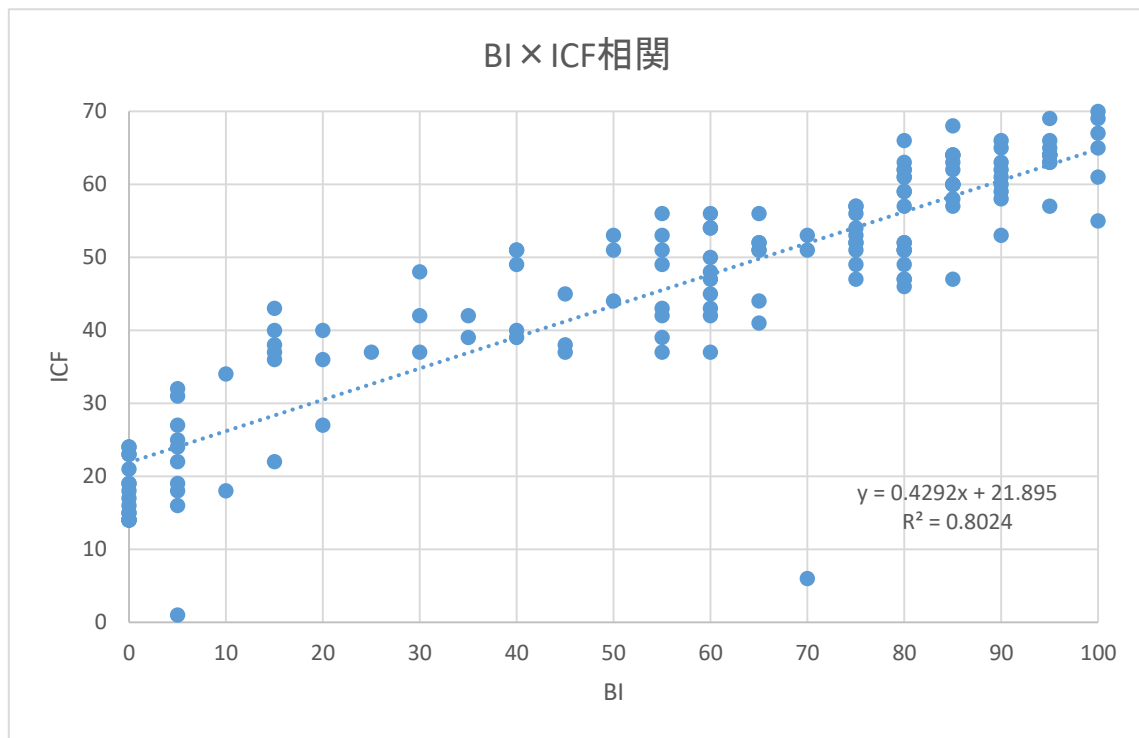
ICF変化量	FAI変化量		
	FAI悪化 (変化量 マイナス)	FAI維持 (変化量 0)	FAI改善 (変化量 プラス)
ICF改善(変化量プラス)	2	8	10
ICF維持(変化量0)	3	48	4
ICF悪化(変化量マイナス)	5	10	0

⑨ ICF 変化量と FAI 変化量との相関（6 か月前から現在）

図表⑨ ICF 変化量と FAI 変化量との相関（6 か月前から現在）

ICF変化量	FAI変化量		
	FAI悪化 (変化量 マイナス)	FAI維持 (変化量 0)	FAI改善 (変化量 プラス)
ICF改善(変化量プラス)	2	8	10
ICF維持(変化量0)	3	48	4
ICF悪化(変化量マイナス)	5	10	0

(参考) BI×ICF 変化量



第5章 本調査のまとめ

<調査結果のまとめと考察>

1. 通所リハビリテーションについて

- 通所リハの提供時間については、病院・診療所では1時間以上2時間未満と6時間以上7時間未満の提供が多く、老健では6時間以上7時間未満の提供が多かった。通所リハにおける食事の提供と入浴の提供には強い相関関係を認めた。病院・診療所では食事・入浴を提供しない通所リハが一定の割合であるものの、老健はほぼ全てで食事と入浴を提供していた。
- 通所リハにおけるリハビリテーションの内容としては、IADL 訓練は 61.8%、摂食嚥下に関するリハビリテーションは 55.2%、排泄に関するリハビリテーションは 57.1%、敷地外訓練は 48.8%、認知症に関するリハビリテーションは 65.0%、失語症・構音障害へのリハビリテーションは 41.6%、義肢装具の評価・調整・作成は 51.0%、福祉用具の評価・調整・作成は 75.1%の事業所で提供していた。また、利用者居宅への定期的な居宅訪問を「すべての利用者について実施している」事業所は 25.6%であった。生活期リハビリテーションにおいて重要な活動・参加に向けたアプローチを促すことが引き続き必要であると考えられる。
- 「義肢装具の評価・調整・作成の具体的内容」について、「装具の評価・調整」は 45.6%の事業所で実施できていた一方で、「装具の作成」を実施していた事業所は 12.8%であり、装具を作成を実施していた事業所は少なかった。
- 医師の関与状況としては、指示としては「リハビリテーション実施上の留意点(92.1%)」「リハビリテーションの目的(82.3%)」「リハビリテーション中止の基準(79.3%)」が多かった。また、医師の役割としては「急変時の対応(86.0%)」「疾患の管理(65.3%)」が多かった。医師が疾患状態に応じた適切なリハビリテーションの指示と留意点を示すことが重要であると共に、急変対応を含む疾患管理を行っていることが示唆された。一方、医師の指示としての「利用者の機能予後」は 29.3%、役割としての「機能・活動の評価」は 20.4%と他の内容と比べて低く活動・参加に向けた医師の積極的な関わりが重要と考えられる。
- 「リハビリテーション・個別機能訓練、栄養管理、口腔管理に係る実施計画書」は通所リハのうち 64.8%で活用されており、一定の多職種連携が行われていることが示唆された。一方、多職種連携における「リハビリテーション会議への基本構成員以外の参加者」では、管理栄養士は 11.1%、歯科医師・歯科衛生士は 3.2%、支援相談員・ソーシャルワーカーは 22.9%であった。リハビリテーション会議に基本構成員以外の参加は少なかった。
- 利用者票におけるリハビリ実施計画書の目標としては、「身体機能・構造」が 88.6%、「歩行や移動」が 86.8%と多く、主に機能面に対する目標設定がなされているものと考えられる。また、実際に提供しているリハビリテーションとしては、筋力増強訓練、立位歩行訓練、関節可動域訓練が頻度として多くなっていた。

2. 生活期リハビリテーションにおける評価指標について

- 通所リハにおける評価指標としては握力、TUG、BI、HDS-R が 9 割前後と活用が多かった。
- 訪問リハにおける評価指標としては BI、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度が約8割と活用が多かった。
- 老健における評価指標としては認知症高齢者の日常生活自立度、HDS-R、BI、障害高齢者の日常生活自立度が約9割と多く活用されていた。
- 介護医療院では HDS-R、認知症高齢者の日常生活自立度、BI が約7～8割と多く活用されていた。

- 通所リハ、訪問リハ、老健、介護医療院において広く共通して活用されている指標は BI であった。これはリハビリテーション計画書の様式に示されていること、LIFE の収集項目として BI が示されていることも影響があると考えられる。
- IADL の評価である FAI の活用は通所リハで 28.3%、訪問リハで 31.2%、老健で 15.5%、介護医療院で 4.9% であった。通所リハ・訪問リハではリハビリテーション計画書の様式や LIFE へのデータ提出項目に IADL の指標として FAI が用いられているが、この指標が FAI であることが計画書等で示されていない。訪問・通所リハにおいて FAI は実際には活用されているものの、FAI として認識されていないために調査結果としては低くなった可能性がある。一方、通所リハ・訪問リハと比べ、老健・介護医療院では FAI は活用されていなかった。
- BI の点数の分布について、通所リハでは 80～100 点に多く分布する傾向を認めた。訪問リハでは 80 から 100 点に多く分布していたが、通所リハより BI 値が低い方も一定認めた。老健では 80 点以上 85 点未満が最も多く、広く分布していた。介護医療院では 0 点以上 5 点未満が最も多かった。
- このような BI の分布や変化は利用者の特性に応じて変わりうるものである点に配慮が必要である。例えば、本調査における通所リハの利用者のリハビリが必要となった原因の主たる傷病名は「脳血管障害」が 32.5%、「骨関節疾患」が 30.1% と多く、また要介護 1～2 の利用者が 67.3% を占めていた。
- FAI の点数の分布について、通所リハ・訪問リハでは 0 点以上 5 点未満が最も多く以後は次第に減少していた。老健・介護医療院では 0 点以上 5 点未満にほぼ全ての利用者が分布していた。
- FAI の各項目について、通所リハ・訪問リハ利用者において、②食事の片付け、④掃除や洗濯、⑦外出、⑧屋外歩行、⑨趣味の点数が高かった。一方、通所リハ・訪問リハの利用者において、⑤力仕事、⑪旅行、⑫庭仕事、⑬家や車の手入れ、⑮勤労はほぼ 0 点であった。
- 通所リハにおける BI の変化量と FAI の変化量を比較した分析において、BI と FAI の変化はよく相関していた。また、BI は維持(変化量 0)であったが、FAI が変化した利用者は 45.7% (初期値から現在までの変化) であり、FAI は BI より今回の調査結果における通所リハ利用者の変化を捉えるために活用できる指標であると考えられる。
- 通所リハにおいて、要介護度別に BI の変化量(初期から現在まで)を分析したところ、BI が改善した利用者は要介護 1 で 27.8%、要介護 2 で 33.4%、要介護 3 で 34.1%、要介護 4 で 36.8%、要介護 5 で 31.1% であり、要介護 1 と要介護 5 で低い傾向となった。FAI についての同様の分析では、FAI が改善した改善する利用者は要介護 1 で 41.4%、要介護 2 で 43.0%、要介護 3 で 42.3%、要介護 4 で 28.0%、要介護 5 で 32.7% であり、要介護 1～3 と比べ、要介護 4～5 では改善する利用者の割合が低い傾向となった。要介護度によって BI・FAI の変化が異なることが明らかとなった。BI については要介護 1 では天井効果があったと推定される。また、要介護が高い利用者では ADL や IADL が改善しにくいことが影響していると考えられる。
- 通所リハにおいて、事業所単位で BI が維持改善している利用者の割合を分析したところ、8 割の以上の利用者の BI が維持されている事業所が約半数であった。一方、FAI についての同様の分析では、維持改善者数の割合は 2 割以下と 8 割以上の二峰性に分布していた。
- 老健における ICF-S ステージングの活用状況は 33.3% であった。ICF ステージング合計点と BI はよく相関していた(ともに現在値)。また、変化量の分析結果から、BI は維持(変化量 0)であったが、ICF ステージングは変化した利用者は 12.6% (初期値から現在までの変化) であり、今回の調査結果においては、ICF ステージングは BI より活用できる指標である可能性があると考えられる。

＜今後に向けた提言＞

1. 生活期リハビリテーションのアウトカムについて

- ADL の評価である BI は通所リハ、訪問リハ、老健、介護医療院で広く活用されているため、活用状況という観点では生活期リハビリテーションの評価指標となりうると考えられる。ただし、通所リハでは BI は満点に近い 80 点以上に利用者が多く分布していたため天井効果に配慮する必要があると考えられる。IADL の評価である FAI は通所リハ・訪問リハには活用されているため指標となり得ると考えられる。また、本邦の要介護高齢者には指標として適さない項目があることが伺えた。一方、FAI は老健・介護医療院では活用されていないこと、また重度者の指標としては適さないことから、老健・介護医療院における指標には適さないと考えられる。
- 本事業の調査結果により要介護度によって BI や FAI の変化は異なることが明らかとなったため、要介護度等の利用者の状態に応じた指標の設定が必要であると考えられる。特に加齢性変化や神経疾患等の進行性疾患は経過により改善が難しいために、一律に改善を評価することは難しいと考えられる。
- アウトカムに活用される指標については、検者による測定誤差が生じないように、妥当性が十分に検証された指標である必要がある。また、生活期リハビリテーションによる本邦の要介護者等の変化を鋭敏に捉える指標であることが重要である。
- 居宅要介護者における生活期リハビリテーションのアウトカムとしては「どれだけ在宅生活を維持できているか」という観点が重要と考える。生活期リハビリテーションにおいてはこの観点から、自立支援・重度化防止にどれだけ寄与できているかという観点で評価がなされうるのでと考えられる。
- また、居宅要介護者については他サービスの提供状況や、同居家族等の環境因子がアウトカムに与える影響を加味する必要がある。
- 生活期リハビリテーションのアウトカムについては、ストラクチャー・プロセスに応じたアウトカムである必要があり、ストラクチャー・プロセスとアウトカムとの関連について更なる検証が必要であると考えられる。
- アウトカムは生活期リハビリテーションが本来として果たす目的を踏まえて検討がなされる必要がある。

2. 通所リハビリテーションの総合的評価に向けて

- 調査結果および検討会での議論を踏まえ、通所リハビリテーションの総合的な評価としては以下の項目を指標とすることが想定される。この提言を踏まえ、引き続き調査検証を進めていく必要があると考える。

(ストラクチャー)

- ・リハ職の人員配置(常勤換算数、3職種配置等)
- ・介護職員の人員配置
- ・ソーシャルワーカー・相談員の配置

(プロセス)

- ・リハマネ加算 A～B の算定割合
- ・定期的な居宅訪問による生活機能評価
- ・充実したリハビリテーション(失語症、認知症、敷地外訓練、義肢装具評価等)
- ・医師の関与(医師による予後評価、機能・活動の評価等)
- ・地域貢献活動
- ・管理栄養士、歯科医師・歯科衛生士による取組
- ・相談支援(他の在宅サービススタッフとの連携)
- ・家族指導(介護指導等の取組)
- ・BI 及び FAI 等に係るデータ提出
- ・重度者の受入状況

(アウトカム)

- (・BI の改善割合、BI の維持改善割合)
- (・FAI の改善割合、FAI の維持改善割合)

- 通所リハビリテーションにおけるプロセス評価として、活動・参加に資する取組の実施状況について、要介護度別に、目標とする基準を設定することが考えられる。
- 通所リハビリテーションにおけるアウトカム評価については、現状では BI および FAI の維持改善・改善率が想定される。一方、上述したように
 - ・ 要介護度等の利用者の状態に応じた指標の設定が求められること
 - ・ 事業所単位のサンプル数が限られることにも留意すべきこと
 - ・ アウトカムについては、ストラクチャー・プロセスとの関連について調査分析が必要であることから更なる検証が必要と考えられる。

以上

参考資料

参考資料 1 アンケート調査票

令和3年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
「生活期リハビリテーションにおける適切なアウトカムの評価の在り方」に関する調査
【事業所票・通所リハビリテーション】

◎この調査は厚生労働省の補助を受け、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が実施する調査です。

◎ご回答の数字が「0」の場合は、空欄のままとせず、「0」とご記入ください。

◎選択肢のある設問は、該当する数字/アルファベットに○をつけてください。

都道府県		事業所名	
TEL		ご記入者(部署・氏名)	

I. 貴事業所の基本情報

問1 令和3年10月1日時点の貴事業所の基本情報についてご回答ください。

1) 通所リハビリテーションのサービス提供施設（ひとつ○）	1 病院 3 介護老人保健施設	2 診療所 4 介護医療院
2) 事業所規模（ひとつ○）	1 通常規模型 2 大規模事業所型Ⅰ 3 大規模事業所型Ⅱ	※月平均利用延人員数 750 人以内 ※月平均利用延人員数 750 人超 900 人以内 ※月平均利用延人員数 900 人超
3) サービス提供の時間区分（当てはまるものすべて○）	1 1時間以上2時間未満 2 2時間以上3時間未満 3 3時間以上4時間未満 4 4時間以上5時間未満	5 5時間以上6時間未満 6 6時間以上7時間未満 7 7時間以上8時間未満 8 8時間以上
4) 同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス（当てはまるものすべて○）	1 訪問リハビリテーション 2 訪問看護 3 訪問介護 4 通所介護 5 短期入所生活介護 6 短期入所療養介護	7 居宅介護支援事業所 8 地域包括支援センター 9 グループホーム 10 その他 11 併設サービスはない
5) 1週間の営業日数	() 日/週	
6) 1日あたりの利用定員数	() 人	

問2 送迎を行っている場合の体制についてご回答ください。

1) 送迎の実施（ひとつ○）	1 利用者のほぼ全員が利用 2 利用者のほぼ半数が利用 3 利用者の一部が利用 4 実施していない
2) 1日あたりの運転手の人数	() 人（主な専任者の人数）
3) 送迎用の車両台数	() 台

問3 貴事業所の職員体制についてご回答ください。

令和3年10月1日時点の職員数について、**通所リハに従事している常勤換算数**でご回答ください。
※常勤換算数は「従事者の1週間の勤務延時間÷貴事業所において常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数」で計算し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで計上してください。常勤と非常勤の合計人数でご記入ください。職種を兼務している場合は、勤務実態に応じて、按分してください。**得られた結果が0.1に満たない場合は、「0.1」と計上してください。0人の場合は、0または空欄として下さい。**
※以下は、通所リハに主に従事している職員に限定して回答ください

医師	歯科 医師	理学 療法士	作業 療法士	言語 聴覚士	看護 職員	介護 福祉士	その他 介護職員	歯科 衛生士
00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0
管理 栄養士	栄養士	支援相談 員・リハ ワーカー						
00.0	00.0	00.0						

II. 利用者の状況

問4 令和3年10月1日時点の利用登録者数（実人数）についてご回答ください。

1) 利用登録者数（実人数）					() 人				
2) 要介護度別の利用登録者数									
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中		
000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人		
3) 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用登録者数									
自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	
000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	
4) 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用登録者数									
自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M		
000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人	000 人		
5) 医療処置を実施している者*の実人数									
※重度療養管理加算の要件に当てはまる医療ニーズについてお伺いします。 複数の状態に該当する場合は、当てはまる状態すべてにカウントしてください。									
1. 常時頻回の喀痰吸引実施			人		6. 重篤な心機能障害、呼吸障害等により 常時モニター測定			人	
2. 常時頻回ではない喀痰吸引実施			人		7. 身体障害者等級4級以上かつストマ処 置			人	
3. 人工呼吸器			人		8. 経鼻経管栄養や胃瘻等の経腸栄養			人	
4. 中心静脈注射			人		9. 褥瘡治療			人	
5. 人工腎臓かつ重篤な合併症を有する			人		10. 気管切開			人	

問5 過去半年間（令和3年4月1日～令和3年9月30日）の実績（要介護者のみ）についてご回答ください。

	単位	令和3年（2021年）					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
①新規利用者数	人						
②14日以内に医療機関を退院して利用を開始した新規利用者	人						
③28日以内に医療機関を退院して利用を開始した新規利用者	人						
④28日以内に老健を退所して利用を開始した新規利用者	人						
⑤上記以外で利用を開始した新規利用者	人						
⑥利用終了者数	人						
⑦通所介護等への移行による終了※1	人						
⑧医療機関への入院による終了	人						
⑨施設への入所による終了	人						
⑩死亡等による終了	人						
⑪利用実人数	人						
⑫利用延べ人数※2	人						
⑬利用キャンセルされた延べ人数（事前キャンセル・当日キャンセル含む）	人						

※1 は次の状態を示します。サービス終了後、通所介護、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防認知症対応型通所介護、介護予防小規模多機能型居宅介護、第一号通所事業（総合事業）、一般介護予防事業、居宅における家庭での役割、就労への移行。

※2 「利用延べ人数」とは、1か月の利用人数を足し上げたものです。例えば、20営業日の毎日利用者が50人ずつ利用した場合、50人+50人+…+50人=延べ1,000人と計算されます。

問6 問5で回答した利用延べ人数について、利用者の属性別の実績についてご回答ください。

利用延べ人数	単位	令和3年(2021年)					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1の利用者(による利用延べ人数)	人						
要介護2の利用者	人						
要介護3の利用者	人						
要介護4の利用者	人						
要介護5の利用者	人						
認知症高齢者の日常生活自立度がⅡの利用者	人						
認知症高齢者の日常生活自立度がⅢ・Ⅳ・Ⅴの利用者	人						
「1時間以上2時間未満」の利用者	人						
「2時間以上3時間未満」の利用者	人						
「3時間以上4時間未満」の利用者	人						
「4時間以上5時間未満」の利用者	人						
「5時間以上6時間未満」の利用者	人						
「6時間以上7時間未満」の利用者	人						
「7時間以上8時間未満」の利用者	人						
「8時間以上」の利用者	人						

※1「医療処置を実施している利用者」とは、重度療養管理加算の要件に当てはまる医療ニーズ(問3(5)に示す9つの状態像)のいずれかに当てはまる利用者を指します。

Ⅲ. サービスの提供状況

問7 (ADL訓練等のリハビリテーション以外で) 提供しているリハビリテーションについてご回答ください。

1) (ADL訓練等のリハビリテーション以外で) 右にあげる項目のうち、どのようなリハビリテーションを提供されていますか (当てはまるものすべて○)	1 IADL 訓練 →2)にご回答ください 2 摂食嚥下に関するリハビリテーション →3)にご回答ください 3 排泄に関するリハビリテーション →4)にご回答ください 4 敷地外でのリハビリテーション →5)にご回答ください 5 認知症に関するリハビリテーション →6)にご回答ください 6 失語症・構音障害へのリハビリテーション →7)にご回答ください 7 義肢装具の評価・調整・作成 →8)にご回答ください 8 福祉用具の評価・調整・作成 →9)にご回答ください
2) IADL に関するリハビリテーションの具体的内容 (当てはまるものすべて○)	1 調理訓練 2 洗濯動作の訓練 3 掃除の訓練 4 趣味活動の訓練 5 服薬管理 6 車の乗降訓練 7 家の手入れ(含草取り・菜園)訓練 8 買い物訓練 9 就労訓練 (報酬を伴わないものを含む) 10 その他

3) 摂食嚥下に関するリハビリテーションの具体的な内容 (当てはまるものすべて○)	1 嚥下機能評価 2 食形態調整 3 口腔ケア 4 間接嚥下訓練(頭部挙上等) 5 呼吸訓練	6 直接嚥下訓練(交互嚥下、複数回嚥下等) 7 食事姿勢・体位調整 8 本人・家族等への指導 9 その他
4) 排泄に関するリハビリテーションの具体的な内容 (当てはまるものすべて○)	1 骨盤底筋訓練 2 移乗訓練 3 時間排泄誘導 4 パターン排泄誘導 5 トイレ動作の指導	6 排尿姿勢の調整 7 膀胱訓練 8 環境調整 9 その他
5) 敷地外でのリハビリテーションの具体的な内容 (当てはまるものすべて○)	1 スーパー等での買い物訓練 2 バス等の公共交通機関の利用訓練 3 屋外歩行訓練(坂道、不整地等)	4 就労訓練 (報酬を伴わないものを含む) 5 その他
6) 認知症に関するリハビリテーションの具体的な内容 (当てはまるものすべて○)	1 認知機能維持のための訓練 2 残存する認知能力を活用した、生活行為の訓練 3 意欲を引き出す集団訓練 4 認知、記憶、見当識等を代償する 福祉用具等の活用	5 人的環境調整(ケアの統一、家族教育・支援) 6 その他
7) 失語症・構音障害へのリハビリテーションの具体的な内容(当てはまるものすべて○)	1 個別の言語聴覚療法 2 集団での言語聴覚療法	
8) 義肢装具の評価・調整・作成の具体的な内容 (当てはまるものすべて○)	1 装具の評価・調整 2 装具の作成 3 義肢の評価・調整	4 義肢装具会社・義肢装具士との連携 5 その他
9) 福祉用具の評価・調整 (当てはまるものすべて○)	1 福祉用具の評価・調整 2 福祉用具の貸与の検討 3 自助具等の作成	4 福祉用具専門員との連携 5 その他
【すべての方にお伺いします】 10) 通所リハビリテーション事業所単独で保有しているリハビリテーション機器・設備(兼用除く) (当てはまるものすべて○)	1 筋力増強のための機器 2 平行棒 3 プラットフォーム 4 訓練用階段 5 エルゴメーター 6 温熱療法のための機器 7 神経筋電気刺激装置 8 訓練用装具(下肢装具等)	9 歩行器・車 10 調理設備(訓練用) 11 個別浴槽 12 畳の部屋 13 掃除機などの掃除用品 14 手工芸用品

問8 提供しているケアの内容についてお答えください。

食事の提供	1) 食事の提供の有無と割合（ひとつ〇）	1 有 （以下の割合も回答ください） 2 無
		1 利用者のほぼ全員（80%以上）が利用 2 利用者の過半数（60～80%）が利用 3 利用者の半数程度（40～60%）が利用 4 利用者の少数（20～40%）が利用 5 利用者の一部（20%以下）が利用
	2) 食事提供時のケアとして取り組んでいる内容（当てはまるものすべて〇）	1 一対一での食事介助 5 自宅環境を配慮した介助 2 利用者の希望時間での提供 6 食事姿勢の修正 3 利用者の嗜好に配慮した献立 4 慣れ親しんだ食器等の使用
排泄のケア	3) 排泄のケアの提供の有無と割合（ひとつ〇）	1 有 （以下の割合も回答ください） 2 無
		1 利用者のほぼ全員（80%以上）が利用 2 利用者の過半数（60～80%）が利用 3 利用者の半数程度（40～60%）が利用 4 利用者の少数（20～40%）が利用 5 利用者の一部（20%以下）が利用
	4) 排泄のケアとして取り組んでいる内容（当てはまるものすべて〇）	1 排泄リズムに沿った支援 2 本人の希望を踏まえた排泄時間 3 プライバシーの配慮 4 自宅環境を配慮した介助
入浴の提供	5) の提供の有無と割合（ひとつ〇）	1 有 （以下の割合も回答ください） 2 無
		1 利用者のほぼ全員（80%以上）が利用 2 利用者の過半数（60～80%）が利用 3 利用者の半数程度（40～60%）が利用 4 利用者の少数（20～40%）が利用 5 利用者の一部（20%以下）が利用
	6) 入浴提供時のケアとして取り組んでいる内容（当てはまるものすべて〇）	1 一般浴槽での入浴 5 プライバシーの配慮 2 機械浴での入浴 6 自宅環境を配慮した介助 3 一対一での入浴介助 4 本人の希望を踏まえた入浴時間

問9 利用者自宅への定期的な居宅訪問についてご回答ください。（この設問では通所リハ利用開始の初回訪問は除きます。）

1) 定期的な居宅訪問の実施 (ひとつ〇)	1 すべての利用者について実施している 2 およそ半数の利用者について実施している 3 一部の利用者について実施している 4 実施していない → 問10へ
2) 【1) で1・2・3のいずれかに回答した場合のみ】 定期的な居宅訪問の実施頻度の目安(ひとつ〇)	1 おおむね月に1回程度実施している 2 おおむね3か月に1回程度実施している 3 おおむね半年に1回程度実施している 4 おおむね1年に1回程度実施している 5 それ以下の頻度で実施している
3) 【1) で1・2・3のいずれかに回答した場合のみ】居宅訪問時のアセスメント項目 (当てはまるものすべて〇)	1 当初の支援方針 2 生活目標 3 家族の希望 4 1日の過ごし 5 ADL 評価 6 IADL 評価 7 介助方法 8 訪問サービスの実施状況 9 住環境評価(家屋・居室等) 10 生活環境評価(屋外・地域) 11 福祉用具の評価・検討 12 これまでに達成された内容(得られた効果) 13 今後の方針(残された課題)
4) 【1) で1・2・3のいずれかに回答した場合のみ】自宅訪問結果の活用方法 (当てはまるものすべて〇)	1 目標達成状況の確認 2 リハビリテーション計画への反映 3 リハビリテーション会議での共有 4 本人のフィードバック(目標共有含む) 5 家族・介助者等へのフィードバック(目標共有含む) 6 その他

問10 医師の関与状況についてご回答ください。

1) リハビリテーションに関する医師からの指示内容 (当てはまるものすべて〇)	1 リハビリテーションの目的 2 利用者の機能予後 3 リハビリテーション中止の基準 4 リハビリテーション実施上の留意点 5 運動の負荷量 6 リハビリテーションの実施方針 7 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の職種に応じた訓練内容 8 終了の目安・時期 9 その他
2) 貴事業所での医師の役割 (当てはまるものすべて〇)	1 疾患の管理 2 運動リスクの管理 3 急変時の対応 4 機能・活動の評価 5 リハビリテーション会議等への参加 6 本人・家族への説明 7 リハビリテーション計画の作成・承認 8 書類作成 9 業務管理・職員教育 10 その他
3) 主治医(かかりつけ医)との連携 (当てはまるものすべて〇)	1 利用者の急変時に指示を仰ぐ 2 利用者の急変時の通院の付き添い 3 利用者の急変時に関する状況の報告 4 利用者の通常時の様子等に関する状況の報告 5 その他

問 11 多職種連携についてご回答ください。

1) リハビリテーション会議への基本構成員以外の参加者 (当てはまるものすべて○)	1 歯科医師 2 看護職員 3 介護福祉士 4 介護職員 5 歯科衛生士 6 管理栄養士	7 栄養士 8 支援相談員・ソーシャルワーカー 9 1～8以外の事業所職員 10 かかりつけ医 11 担当ケアマネジャー 12 併用利用サービスの関係者
2) リハビリテーション会議における主な検討内容 (当てはまるものすべて○)	1 アセスメント結果などの情報の共有 2 リハビリテーションの内容 3 多職種協働に向けた支援方針	4 他サービス事業所との連携 5 家族との連携 6 在宅環境の検討
3) 【管理栄養士が従事している場合のみ】 管理栄養士が貴事業所で実施している取組内容 (当てはまるものすべて○)	1 栄養状態の評価(スクリーニング含む) 2 栄養ケア計画の作成 3 提供栄養量の調整 4 食事摂取量の確認 5 食事嗜好の確認と対応 6 利用者・家族への説明・指導	7 職員への栄養管理の指導 8 摂食嚥下リハ学会の分類に応じた嚥下調整食の提供 9 見た目に配慮したソフト食の提供 10 その他
4) 【歯科医師あるいは歯科衛生士が従事している場合のみ】 歯科医師・歯科衛生士が貴事業所で実施している取組内容 (当てはまるものすべて○)	1 口腔機能状態の評価(スクリーニング含む) 2 口腔衛生状態の評価(スクリーニング含む) 3 摂食・嚥下等の口腔機能に関する指導 4 口腔清掃・口腔清掃に関する指導 5 音声・言語機能に関する指導 6 歯科治療が必要な方の歯科医院への紹介 7 利用者の口腔に関する相談 8 事業所職員への口腔衛生に関する技術的助言および指導 9 その他	
5) 【支援相談員・ソーシャルワーカーが従事している場合のみ】 支援相談員・ソーシャルワーカーが貴事業所で実施している取組内容 (当てはまるものすべて○)		1 本人・家族からの希望の聴取 2 福祉サービスの紹介と調整 3 ケアマネとの連携 4 他事業所との連携 5 その他
6) 「リハビリテーション・個別機能訓練、栄養管理、口腔管理に係る実施計画書」の活用有無 (ひとつ○)	1 活用あり	2 活用なし
7) 上記6)で活用なしの場合、活用していない理由 (当てはまるものすべて○)	1 当該計画書様式の内容を知らない 2 栄養・口腔に関連する加算を算定していない 3 管理栄養士が勤務していない 4 歯科医師・歯科衛生士が勤務していない 5 報酬上のインセンティブがないため 6 当該計画書様式の記載が煩雑 7 報酬算定の管理が煩雑 8 その他	

Ⅳ. リハビリテーションの評価指標の活用状況

問 12 各評価指標について、活用の有無をご回答ください。

評価指標			活用有無
心身機能	身体機能	① TUG (Timed Up and Go Test)	有 ・ 無
		② 6 分間歩行距離	有 ・ 無
		③ CS30 (30 秒椅子立ち上がりテスト)	有 ・ 無
		④ 握力	有 ・ 無
		⑤ BMI	有 ・ 無
	歩行	⑥ FAC (Functional Ambulation Categories)	有 ・ 無
		⑦ 10m 歩行テスト	有 ・ 無
	認知機能・失語症等	⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度	有 ・ 無
		⑨ DBD-13 (Dementia Behavior Disturbance scale - 13)	有 ・ 無
		⑩ Vitality Index	有 ・ 無
		⑪ MMSE (Mini Mental State Examination)	有 ・ 無
		⑫ HDS-R (長谷川式認知症スケール)	有 ・ 無
		⑬ CDR (Clinical Dementia Rating)	有 ・ 無
		⑭ NPI-Q (NPI-Brief Questionnaire Form)	有 ・ 無
		⑮ SLTA (Standard Language Test of Aphasia)	有 ・ 無
		⑯ リバーミード行動記憶検査 (Rivermead Behavioural Memory Test)	有 ・ 無
活動と参加	基本動作	⑰ Ability for Basic Movement Scale	有 ・ 無
		⑱ 障害高齢者の日常生活自立度	有 ・ 無
	ADL	⑲ BI (Barthel Index)	有 ・ 無
		⑳ FIM (Functional Independence Measure)	有 ・ 無
	IADL	㉑ Lawton の日常生活尺度 (IADL)	有 ・ 無
		㉒ FAI (Frenchay Activities Index)	有 ・ 無
		㉓ 老研式活動能力指標	有 ・ 無
	活動範囲	㉔ LSA (Life Space Assessment)	有 ・ 無
	社会参加	㉕ CHART (Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)	有 ・ 無
		㉖ CIQ (Community Integration Questionnaire)	有 ・ 無
		㉗ SF-36 (MOS 36-Item Short-Form Health Survey)	有 ・ 無
その他	包括的評価等	㉘ ICF ステージング	有 ・ 無
		㉙ WHODAS2.0 (The World Health Organization Disability Assessment Schedule)	有 ・ 無
		㉚ 生活行為の作業工程分析(作業遂行アセスメント表)	有 ・ 無

Ⅴ. 加算の算定状況

問 13 各加算の届出有無、及び算定実人数（令和 3 年 9 月分）についてご回答ください。

1) リハビリテーション提供体制加算		1 無	2 有	
2) 理学療法士等体制強化加算		1 無	2 有	
3) 中重度ケア体制加算		1 無	2 有	
4) サービス提供体制強化加算	(Ⅰ)	1 無	2 有	
	(Ⅱ)	1 無	2 有	
	(Ⅲ)	1 無	2 有	
5) 介護職員処遇改善加算		1 無	2 有	
6) 介護職員等特定処遇改善加算	(Ⅰ)	1 無	2 有	
	(Ⅱ)	1 無	2 有	
7) 移行支援加算（旧社会参加支援加算）		1 無	2 有	
8) 科学的介護推進体制加算		1 無	2 有	
9) リハビリテーションマネジメント加算	(A) イ	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
	(A) ロ	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
	(B) イ	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
	(B) ロ	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
10) 短期集中個別リハビリテーション実施加算		1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
11) 認知症短期集中リハビリテーション実施加算	(Ⅰ)	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
	(Ⅱ)	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
11) 生活行為向上リハビリテーション実施加算		1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
12) 若年性認知症利用者受入加算		1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
13) 入浴介助加算	(Ⅰ)	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
	(Ⅱ)	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
14) 重度者療養管理加算		1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
15) 栄養アセスメント加算		1 無	2 有	
16) 栄養改善加算		1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
17) 口腔・栄養スクリーニング加算	(Ⅰ)	1 無	2 有	
	(Ⅱ)	1 無	2 有	
18) 口腔機能向上加算	(Ⅰ)	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数
	(Ⅱ)	1 無 () 人	2 有	⇒算定人数

Ⅵ. 貴事業所における取組等

問 14 貴事業所における、利用者家族・親族等との関わり方についてご回答ください。

1) リハビリテーション会議への家族・親族等の参加	1 すべての家族・親族等について参加を案内している 2 およそ半数の家族・親族等について参加を案内している 3 一部の家族・親族等について参加を案内している 4 参加を案内していない
2) 家族・親族等への在宅での介助に関する指導や説明	1 すべての家族・親族等について実施している 2 およそ半数の家族・親族等について実施している 3 一部の家族・親族等について実施している 4 実施していない
3) 2) 以外の家族・親族等への支援	1 家族会の開催 2 意見交換会の開催 3 個別相談への対応 4 その他 5 特に実施していない

問 15 貴事業所における、過去 1 年間（令和 2 年 10 月 1 日～令和 3 年 9 月 30 日）の、地域への貢献活動（地域リハビリテーション活動支援事業等）への参加状況についてご回答ください。

1) 地域リハビリテーション活動支援事業の一環としての自治体への関与（リハビリテーション専門職を地域支援事業へ派遣した等）	1 有	2 無
2) 地域ケア会議等への職員の関与（委員として参加したなど）	1 有 ⇒延べ人数（ ）人	2 無
3) 地域の介護事業所等への職員の訪問・派遣（自法人以外の事業所への助言等のため。生活機能向上連携加算算定のための派遣を含む）	1 有 ⇒訪問回数（ ）回	2 無
4) 地域住民が運営している通いの場への職員の訪問・派遣（指導者として参画した等）	1 有 ⇒訪問回数（ ）回	2 無
5) 地域住民に対する健康教室（介護予防・健康づくり）の開催	1 有 ⇒実施日数（ ）日	2 無
6) 認知症・失語症・障害者等の地域住民が集うカフェやサロンの運営・設置・参加	1 有 ⇒実施日数（ ）日	2 無

※訪問にはオンライン上での参加を含めてご回答ください。

調査票は以上です。2月11日（金）までに返信用封筒に入れて、ご投函ください。

引き続き、利用者の個別状況に関する調査票へのご記入をお願いいたします。

調査へのご協力に御礼申し上げます。

令和3年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
「生活期リハビリテーションにおける適切なアウトカムの評価の在り方」に関する調査
【事業所票・訪問リハビリテーション／介護老人保健施設／介護医療院】

◎この調査は厚生労働省の補助を受け、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が実施する調査です。

◎ご回答の数字が「0」の場合は、空欄のままとせず、「0」とご記入ください。

◎選択肢のある設問は、該当する数字/アルファベットに○をつけてください。

◎訪問リハビリテーション事業所様、介護老人保健施設様、介護医療院様に、回答者を限定してお尋ねしている設問がございます。その場合は、設問文中に指定（例：【訪問リハ事業所のみ】）がございますので、ご確認の上、ご回答をお願いいたします。

都道府県		事業所名	
TEL		ご記入者(部署・氏名)	

貴事業所における以下の事業についてお聞きします。

調査対象	訪問リハビリテーション事業所／介護老人保健施設／介護医療院
-------------	-------------------------------

設問文中に指定（例：【訪問リハ事業所のみ】）があるものについて、ご回答をお願いいたします。

I. 貴事業所の基本情報

問1 令和3年10月1日時点の貴事業所の基本情報についてご回答ください。

共通	1) 貴事業所の同一敷地内・隣接敷地で提供されている他のサービス（当てはまるものすべて○）	1 通所リハビリテーション 2 訪問リハビリテーション 3 訪問看護 4 訪問介護 5 通所介護 6 短期入所生活介護	7 短期入所療養介護 8 居宅介護支援 9 地域包括支援センター 10 認知症対応型共同生活介護 11 その他 12 併設サービスはない
訪問リハ事業所のみ	2) 訪問リハビリテーションの開設者種別（ひとつ○）	1 病院 3 介護老人保健施設	2 診療所 4 介護医療院
老健施設のみ	4) 介護報酬上の届け出	1 超強化型 2 在宅強化型 3 加算型	4 基本型 5 その他型
	5) 入所定員数	() 人	
介護医療院のみ	6) 施設類型	1 I型	2 II型
	7) 入所定員数	() 人	

問2 貴事業所の職員体制についてご回答ください。

令和3年10月1日時点の職員数について、調査対象事業所に従事する常勤換算数でご回答ください。

※常勤換算数は「従事者の1週間の勤務延時間÷貴事業所において常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数」で計算し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで計上してください。常勤と非常勤の合計人数でご記入ください。職種を兼務している場合は、勤務実態に応じて、按分してください。得られた結果が0.1に満たない場合は、「0.1」と計上してください。0人の場合は、0または空欄として下さい。

訪問リハ	医師*	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	
	000	00.0	00.0	00.0	

*医師数につきましては、常勤換算ではなく、兼務など含めた勤務状況に応じて、ご記入ください。

老健・介護医療院	医師	歯科医師	薬剤師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護職員	介護福祉士	その他介護職員
	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0
	歯科衛生士	管理栄養士	栄養士	支援相談員・リハビリワーカー	介護支援専門員				
	00.0	00.0	00.0	00.0	00.0				

II. 利用者／入所者の状況

問3 令和3年の利用者数（9月分の利用者人数／10月1日時点の入所者数）についてご回答ください。

※訪問リハ事業所は「9月分の利用者人数」、介護老人保健施設・介護医療院は「入所者数」としてご回答ください。

1) 利用者数／入所者数					() 人				
2) 要介護度別の利用者数／入所者数									
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中		
000人	000人	000人	000人	000人	000人	000人	000人		
3) 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数／入所者数									
自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	
000人	000人	000人	000人	000人	000人	000人	000人	000人	
4) 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数／入所者数									
自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M		
000人	000人	000人	000人	000人	000人	000人	000人		

Ⅲ. リハビリテーションの評価指標の活用状況

問4 各評価指標について、活用の有無をご回答ください。

評価指標			活用有無
心身機能	身体機能	① TUG (Timed Up and Go Test)	有 ・ 無
		② 6 分間歩行距離	有 ・ 無
		③ CS30 (30 秒椅子立ち上がりテスト)	有 ・ 無
		④ 握力	有 ・ 無
		⑤ BMI	有 ・ 無
	歩行	⑥ FAC (Functional Ambulation Categories)	有 ・ 無
		⑦ 10m 歩行テスト	有 ・ 無
	認知機能・失語症等	⑧ 認知症高齢者の日常生活自立度	有 ・ 無
		⑨ DBD-13 (Dementia Behavior Disturbance scale - 13)	有 ・ 無
		⑩ Vitality Index	有 ・ 無
		⑪ MMSE (Mini Mental State Examination)	有 ・ 無
		⑫ HDS-R (長谷川式認知症スケール)	有 ・ 無
		⑬ CDR (Clinical Dementia Rating)	有 ・ 無
		⑭ NPI-Q (NPI-Brief Questionnaire Form)	有 ・ 無
		⑮ SLTA (Standard Language Test of Aphasia)	有 ・ 無
		⑯ リバーミード行動記憶検査 (Rivermead Behavioural Memory Test)	有 ・ 無
活動と参加	基本動作	⑰ Ability for Basic Movement Scale	有 ・ 無
		⑱ 障害高齢者の日常生活自立度	有 ・ 無
	ADL	⑲ BI (Barthel Index)	有 ・ 無
		⑳ FIM (Functional Independence Measure)	有 ・ 無
	IADL	㉑ Lawton の日常生活尺度 (IADL)	有 ・ 無
		㉒ FAI (Frenchay Activities Index)	有 ・ 無
		㉓ 老研式活動能力指標	有 ・ 無
	活動範囲	㉔ LSA (Life Space Assessment)	有 ・ 無
	社会参加	㉕ CHART (Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)	有 ・ 無
		㉖ CIQ (Community Integration Questionnaire)	有 ・ 無
		㉗ SF-36 (MOS 36-Item Short-Form Health Survey)	有 ・ 無
その他	包括的評価等	㉘ ICF ステージング	有 ・ 無
		㉙ WHODAS2.0 (The World Health Organization Disability Assessment Schedule)	有 ・ 無
		㉚ 生活行為の作業工程分析(作業遂行アセスメント表)	有 ・ 無

Ⅳ. 加算の算定状況

問5 各加算の届出有無についてご回答ください。

訪問リハ事業所のみ	1) 短期集中リハビリテーション実施加算		1 無	2 有
	2) リハビリテーションマネジメント加算	(A) イ	1 無	2 有
		(A) ロ	1 無	2 有
		(B) イ	1 無	2 有
		(B) ロ	1 無	2 有
	3) 移行支援加算（旧社会参加支援加算）		1 無	2 有
	4) サービス提供体制強化加算	(Ⅰ)	1 無	2 有
		(Ⅱ)	1 無	2 有

介護老人保健施設のみ	1) 短期集中リハビリテーション実施加算		1 無	2 有
	2) 認知症短期集中リハビリテーション実施加算		1 無	2 有
	3) 認知症ケア加算		1 無	2 有
	4) 若年性認知症入所者受入加算		1 無	2 有
	5) 在宅復帰支援機能加算		1 無	2 有
	6) 栄養マネジメント強化加算		1 無	2 有
	7) 経口移行加算		1 無	2 有
	8) 経口維持加算		1 無	2 有
	9) 口腔衛生管理加算		1 無	2 有
	10) 認知症専門ケア加算	(Ⅰ)	1 無	2 有
		(Ⅱ)	1 無	2 有
	11) 認知症行動・心理症状緊急対応加算		1 無	2 有
	12) リハビリテーションマネジメント計画書情報加算		1 無	2 有
	13) 褥瘡マネジメント加算	(Ⅰ)	1 無	2 有
		(Ⅱ)	1 無	2 有
		(Ⅲ)	1 無	2 有
	14) 排せつ支援加算	(Ⅰ)	1 無	2 有
		(Ⅱ)	1 無	2 有
		(Ⅲ)	1 無	2 有
		(Ⅳ)	1 無	2 有
	15) 自立支援促進加算		1 無	2 有
	16) 科学的介護推進体制加算		1 無	2 有
	17) サービス提供体制強化加算	(Ⅰ)	1 無	2 有
		(Ⅱ)	1 無	2 有
		(Ⅲ)	1 無	2 有

介護医療院のみ	1) 若年性認知症入所者受入加算		1	無	2	有
	2) 栄養マネジメント強化加算		1	無	2	有
	3) 経口移行加算		1	無	2	有
	4) 経口維持加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
	5) 口腔衛生管理加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
	6) 在宅復帰支援機能加算		1	無	2	有
	7) 認知症専門ケア加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
	8) 認知症行動・心理症状緊急対応加算		1	無	2	有
	9) 重度認知症疾患療養体制加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
	10) 褥瘡マネジメント加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
		(Ⅲ)	1	無	2	有
	11) 排せつ支援加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
		(Ⅲ)	1	無	2	有
		(Ⅳ)	1	無	2	有
	12) 理学療法、作業療法又は言語聴覚療法に係る加算		1	無	2	有
	13) 自立支援促進加算		1	無	2	有
	14) 科学的介護推進体制加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
	15) サービス提供体制強化加算	(Ⅰ)	1	無	2	有
		(Ⅱ)	1	無	2	有
		(Ⅲ)	1	無	2	有

調査票は以上です。2月11日（金）までに返信用封筒に入れて、ご投函ください。

引き続き、利用者の個別状況に関する調査票へのご記入をお願いいたします。

調査へのご協力を御礼申し上げます。

令和3年度老人保健健康増進等事業「生活期リハビリテーションにおける適切なアウトカムの評価の在り方」に関する調査
利用者票

※回答の際は、あてはまる番号を○で囲んで下さい。具体的な数値等をご記入いただく場合、該当がない場合には必ず「0」とご記入下さい。分からない場合は「－」と記入して下さい。

※本調査票は、令和3年10月の任意の1日に利用された方について、五十音順に最大8名(要介護者のみ)を抽出してご回答ください。

1) 本調査用利用者 I D	() ※貴事業所で本調査用に任意 I D を付与ください。			
2) 年齢	() 歳	3) 年齢	1 男	2 女
4) サービスの利用開始時期	西暦 () 年 () 月 () 日 ※年は西暦でご記入ください。			
5) 要介護度	1 要介護 1	2 要介護 2	3 要介護 3	4 要介護 4
6) 認知症高齢者の日常生活自立度	1 自立	2 I	3 II a	4 II b
	6 III b	7 IV	8 M	9 不明
7) リハビリが必要となった原因の主たる傷病名 (主なもの1つに○)	1 脳血管障害			
	2 骨関節疾患			
	3 関節リウマチ			
	4 神経筋疾患 (パーキンソン病含む)			
	5 虚血性心疾患・心不全			
	6 呼吸器疾患 (COPD・間質性肺炎含む)			
	7 脊髄損傷			
8) 現在の障害の状況 (当てはまるものすべて○)	8 がん			
	9 認知症			
	10 サルコペニア			
	11 フレイル			
	12 うつ (状態)			
	13 その他			
	14 不明			
9) 現在の医療介入 (当てはまるものすべて○)	1 常時頻回の喀痰吸引を実施している状態			
	2 呼吸障害等により人工呼吸器を使用している状態			
	3 中心静脈注射を実施している状態			
	4 人工腎臓を実施しており、かつ重篤な合併症を有する状態			
	5 重篤な心機能障害、呼吸障害等により常時モニター測定を実施している状態			
	6 膀胱または直腸の機能障害の程度が身体障害者4級以上に該当し、かつ、ストーマの処置を実施している状態			
	7 経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われている状態			
10) 通所リハ利用開始前に入院・入所していた医療機関 (ある場合のみ○)	8 褥瘡に対する治療を実施している状態			
	9 気管切開が行われている状態			
	1 病院			
	2 老健			
11) 通所リハ利用開始前に利用していた介護サービス事業所 (ある場合のみ○)	3 介護医療院			
	4 その他			
	1 通所介護			
	2 地域密着型通所介護			
	3 認知症対応型通所介護			
	4 小規模多機能型居宅介護			
	5 看護小規模多機能型居宅介護			
6 介護予防認知症対応型通所介護				
7 介護予防小規模多機能型居宅介護				
8 その他				

12) 現在の居所	1 自宅・親戚宅	2 高齢者住宅	3 その他						
13) 主な利用時間	1 1～2時間	2 2～3時間	3 3～4時間						
	4 4～5時間	5 5～6時間	6 6～7時間						
	7 7～8時間	8 8時間以上							
14) 主な利用頻度	1 週1回	2 週2回	3 週3回	4 週4回	5 週5回以上				
15) 加算の算定状況 (当てはまるものすべて○)	1 リハビリテーションマネジメント加算(A)イ 2 リハビリテーションマネジメント加算(A)ロ 3 リハビリテーションマネジメント加算(B)イ 4 リハビリテーションマネジメント加算(B)ロ 5 短期集中個別リハビリテーション実施加算 6 認知症短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ 7 認知症短期集中リハビリテーション実施加算Ⅱ 8 生活行為向上リハビリテーション実施加算 9 入浴介助加算Ⅰ 10 入浴介助加算Ⅱ 11 栄養改善加算 12 重度者療養管理加算 13 口腔機能向上加算Ⅰ 14 口腔機能向上加算Ⅱ								
16) 併用サービスの有無 (当てはまるものすべて○)	1 訪問リハ	2 訪問看護	3 訪問介護	4 通所介護	5 短期生活介護	6 短期療養介護	7 福祉用具	8 障害福祉サービス	9 その他
17) 入浴サービスの有無	1 利用あり	2 利用なし		⇒上記で「1. 利用あり」の場合のサービス形態(当てはまるものすべて○)					
	1 個浴	2 機械浴	3 集団浴						
18) 過去6か月以内に実施した敷地外でのリハビリの有無・内容(当てはまるものすべて○)	1 スーパー等での買い物訓練	2 バス等の公共交通機関の利用訓練	3 屋外歩行訓練(坂道・不整地等)	4 就労訓練(仕事体験・各種ボランティア等を含む)	5 その他	6 実施なし			
19) 在宅での生活機能の評価の頻度	1 月に1回程度	2 2～3か月に1回程度	3 3か月～半年に1回程度	4 半年～年に1回程度	5 年に1回以下の頻度	6 実施なし			
20) 在宅での生活状況(離床時間)※通所サービスの利用時間以外	1 0時間(離床なし)	2 1時間未満(1日あたり換算)	3 1時間以上2時間未満(1日あたり換算)	4 2時間以上4時間未満(1日あたり換算)	5 4時間以上8時間未満(1日あたり換算)	6 8時間以上(1日あたり換算)			
21) 在宅での生活状況(排泄方法)※通所サービスの利用時間以外 (当てはまるものすべて○)	1 自宅トイレ利用								
	2 簡易トイレ								
	3 おむつ								
	4 その他								

＜心身機能＞

- | | | |
|------------|-------------|---------------|
| 1 精神機能 | 2 感覚機能と痛み | 3 身体機能・構造 |
| ＜活動と参加＞ | | |
| 4 学習 | 5 選択と実行 | 6 問題解決 |
| 7 日課の遂行 | 8 コミュニケーション | 9 姿勢の返還 |
| 10 姿勢保持 | 11 移乗 | 12 物の運搬・移動・操作 |
| 13 歩行や移動 | 14 交通手段の利用 | 15 入浴 |
| 16 整容 | 17 トイレ動作 | 18 更衣 |
| 19 食事 | 20 健康管理 | 21 買物 |
| 22 料理 | 23 家事 | 24 家庭用品の管理 |
| 25 他者への援助 | 26 対人関係 | 27 仕事 |
| 28 趣味や社会活動 | 29 人権 | |

1 關節可動域訓練

- | | | |
|----------------------------|------------------------|------------------|
| 1 関節可動域訓練 | 2 筋力増強訓練 | 3 基本動作訓練 |
| 4 移乗訓練 | 5 立位歩行訓練 | 6 バランス訓練 |
| 7 持久力（心肺機能）訓練 | 8 呼吸機能訓練 | 9 階段昇降訓練 |
| 10 促通手技（上肢・下肢麻痺に対する） | 11 巧緻運動・協調性運動訓練 | 12 排泄機能訓練 |
| 13 摂食嚥下機能訓練 | 14 失語症訓練 | 15 構音訓練 |
| 16 認知機能訓練（認知症に対する） | 17 認知機能訓練（高次脳機能障害に対する） | 18 食事動作 |
| 19 整容動作 | 20 トイレ動作 | 21 入浴動作 |
| 22 更衣動作 | 23 調理動作 | 24 洗濯動作 |
| 25 掃除動作 | 26 趣味活動 | 27 服薬管理 |
| 28 車の乗降 | 29 家の手入れ | 30 買い物 |
| 31 就労訓練（仕事体験・各種ボランティア等を含む） | 32 公共交通機関の利用 | 33 義肢装具の評価・調整・作成 |
| 34 福祉用具の評価・調整 | 35 家屋の評価・環境調整 | 36 その他 |

ある1日あたりに実施したリハビリ総提供時間
※問25の1～35に掲げられたリハビリ項目をリハ専門職や
介護職等の事業所職員により実施した時間を回答下さい。

() 分

ある1日あたりに実施した、下肢・体幹への筋力増強
訓練、歩行訓練、立ち上がり訓練の総提供時間

() 分

27) 調査日から直近のある 1 日において、重点的に取り組んだ（提供時間が多い 3 つの訓練項目）リハビリの種類と実施時間（問 25 の番号と時間数を記入ください）				
ある 1 日に重点的に取り組んだリハビリの種類 1	リハビリ種類（ ）	提供時間（ ）分		
ある 1 日に重点的に取り組んだリハビリの種類 2	リハビリ種類（ ）	提供時間（ ）分		
ある 1 日に重点的に取り組んだリハビリの種類 3	リハビリ種類（ ）	提供時間（ ）分		
28) 利用者の ADL（Barthel Index・ICF ステージング）、IADL（FAI）について、サービス利用開始時、6 カ月前、現在、の 3 時点の状況（項目ごとの点数）を以下にご記入ください。 ※貴事業所で測定・記録されている場合にご記入ください。 ※使用していない場合、6 か月前の欄について、不明の場合・利用期間外の場合は、ハイフン（－）をご記入ください。				
指標名	項目名	利用開始時	6カ月前	現在
① 利用者の ADL （Barthel Index） ※点数：10～15 点満点 ※使用していない場合、 6 か月前が不明の場合 は、ハイフン（－）をご 記入ください。	① 食事	点	点	点
	② 車いすからベッドの移乗	点	点	点
	③ 整容	点	点	点
	④ トイレ動作	点	点	点
	⑤ 入浴	点	点	点
	⑥ 歩行	点	点	点
	⑦ 階段昇降	点	点	点
	⑧ 着替え	点	点	点
	⑨ 排便コントロール	点	点	点
	⑩ 排尿コントロール	点	点	点
② 利用者の ADL （ICF ステージング） ※ステージ：1～5 ※使用していない場合、 6 か月前が不明の場合 は、ハイフン（－）をご 記入ください。	① 基本動作	点	点	点
	② 歩行・移動	点	点	点
	③ 認知機能～オリエンテーション	点	点	点
	④ 認知機能～コミュニケーション	点	点	点
	⑤ 認知機能～精神活動	点	点	点
	⑥ 食事～嚥下機能	点	点	点
	⑦ 食事～食事動作および食事介助	点	点	点
	⑧ 排泄の動作	点	点	点
	⑨ 入浴動作	点	点	点
	⑩ 整容～口腔ケア	点	点	点
	⑪ 整容～整容	点	点	点
	⑫ 整容～衣服の着脱	点	点	点
	⑬ 社会参加～余暇	点	点	点
	⑭ 社会参加～社会交流	点	点	点
③ 利用者の IADL （FAI： Frenchay Activities Index） ※点数：3 点満点 ※使用していない場合、 6 か月前が不明の場合 は、ハイフン（－）をご 記入ください。	① 食事の用意	点	点	点
	② 食事の片付け	点	点	点
	③ 洗濯	点	点	点
	④ 掃除や整頓	点	点	点
	⑤ 力仕事	点	点	点
	⑥ 買い物	点	点	点
	⑦ 外出	点	点	点
	⑧ 屋外歩行	点	点	点
	⑨ 趣味	点	点	点
	⑩ 交通手段の利用	点	点	点
	⑪ 旅行	点	点	点
	⑫ 庭仕事	点	点	点
	⑬ 家や車の手入れ	点	点	点
	⑭ 読書	点	点	点
	⑮ 勤労	点	点	点

質問は以上で終わりです。ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

2月11日（金）までに返信用封筒に入れて、ご投函ください。

令和3年度老人保健健康増進等事業「生活期リハビリテーションにおける適切なアウトカムの評価の在り方」に関する調査
利用者票・訪問リハ事業所／介護老人保健施設／介護医療院

※回答の際は、あてはまる番号を○で囲んで下さい。具体的な数値等をご記入いただく場合、該当がない場合には必ず「0」とご記入下さい。分からない場合は「－」と記入して下さい。

※本調査票は、令和3年10月の任意の1日に利用された方について、五十音順に最大3名（要介護者のみ）を抽出してご回答ください。

3) 本調査用利用者ID	() ※貴事業所で本調査用に任意IDを付与ください。				
4) 年齢	() 歳	3) 年齢	1 男	2 女	
3) サービスの利用開始時期	西暦()年()月()日 ※年は西暦でご記入ください。				
4) 要介護度	1 要介護1	2 要介護2	3 要介護3	4 要介護4	5 要介護5
5) 認知症高齢者の日常生活自立度	1 自立	2 I	3 II a	4 II b	5 III a
	6 III b	7 IV	8 M	9 不明	
6) リハビリが必要となった原因の主たる傷病名 (主なもの1つに○)	1 脳血管障害		2 骨関節疾患		3 関節リウマチ
	4 神経筋疾患（パーキンソン病含む）		5 虚血性心疾患・心不全		
	6 呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎含む）		7 脊髄損傷		
	8 がん		9 認知症		10 サルコペニア
	11 フレイル		12 うつ（状態）		13 その他
	14 不明				
7) 現在の障害の状況 (当てはまるものすべて○)	1 片麻痺		2 四肢麻痺		3 対麻痺
	4 運動失調		5 感覚障害		6 呼吸障害
	7 循環障害		8 耐久性低下		9 筋力低下
	10 関節機能障害		11 高次脳機能障害		12 認知機能障害
	13 失語症		14 構音障害		15 嚥下障害
	16 疼痛		17 排泄障害		18 その他
8) 主な実施頻度	1 週1回	2 週2回	3 週3回	4 週4回	5 週5回以上
9) 加算の算定状況（訪問リハ）					
1 短期集中リハビリテーション実施加算			2 リハビリテーションマネジメント加算（A）イ		
3 リハビリテーションマネジメント加算（A）ロ			4 リハビリテーションマネジメント加算（B）イ		
5 リハビリテーションマネジメント加算（B）ロ					
10) 加算の算定状況（老健）					
1 短期集中リハビリテーション実施加算					
2 認知症短期集中リハビリテーション実施加算					
3 リハビリテーションマネジメント計画書情報加算					
11) 加算の算定状況（介護医療院）					
1 理学療法、作業療法又は言語聴覚療法に係る加算					

12) リハビリ実施計画書の目標（解決すべき課題）（当てはまるものすべて○）		
＜心身機能＞		
1 精神機能	2 感覚機能と痛み	3 身体機能・構造
＜活動と参加＞		
4 学習	5 選択と実行	6 問題解決
7 日課の遂行	8 コミュニケーション	9 姿勢の返還
10 姿勢保持	11 移乗	12 物の運搬・移動・操作
13 歩行や移動	14 交通手段の利用	15 入浴
16 整容	17 トイレ動作	18 更衣
19 食事	20 健康管理	21 買物
22 料理	23 家事	24 家庭用品の管理
25 他者への援助	26 対人関係	27 仕事
28 趣味や社会活動	29 人権	
13) <u>調査日から過去1月間に提供した</u> リハビリの種類（当てはまるものすべて○）		
1 関節可動域訓練	2 筋力増強訓練	3 基本動作訓練
4 移乗訓練	5 立位歩行訓練	6 バランス訓練
7 持久力（心肺機能）訓練	8 呼吸機能訓練	9 階段昇降訓練
10 促通手技（上肢・下肢麻痺に対する）	11 巧緻運動・協調性運動訓練	12 排泄機能訓練
13 摂食嚥下機能訓練	14 失語症訓練	15 構音訓練
16 認知機能訓練（認知症に対する）	17 認知機能訓練（高次脳機能障害に対する）	18 食事動作
19 整容動作	20 トイレ動作	21 入浴動作
22 更衣動作	23 調理動作	24 洗濯動作
25 掃除動作	26 趣味活動	27 服薬管理
28 車の乗降	29 家の手入れ	30 買い物
31 就労訓練（仕事体験・各種ボランティア等を含む）	32 公共交通機関の利用	33 義肢装具の評価・調整・作成
34 福祉用具の評価・調整	35 家屋の評価・環境調整	36 その他

14) 利用者／入所者の ADL (Barthel Index・ICF ステージング)、IADL (FAI) について、サービス利用開始時、6カ月前、現在、の3時点の状況(項目ごとの点数)を以下にご記入ください。※貴事業所で測定・記録されている場合にご記入ください。※使用していない場合、6か月前の欄について、不明の場合・利用期間外の場合は、ハイフン(－)をご記入ください。				
指標名	項目名	利用開始時	6カ月前	現在
① 利用者／入所者の ADL (Barthel Index) ※点数：10～15 点満点 ※使用していない場合、6か月前が不明の場合は、ハイフン(－)をご記入ください。	① 食事	点	点	点
	② 車いすからベッドの移乗	点	点	点
	③ 整容	点	点	点
	④ トイレ動作	点	点	点
	⑤ 入浴	点	点	点
	⑥ 歩行	点	点	点
	⑦ 階段昇降	点	点	点
	⑧ 着替え	点	点	点
	⑨ 排便コントロール	点	点	点
	⑩ 排尿コントロール	点	点	点
② 利用者／入所者の ADL (ICF ステージング) ※ステージ：1～5 ※使用していない場合、6か月前が不明の場合は、ハイフン(－)をご記入ください。	① 基本動作	点	点	点
	② 歩行・移動	点	点	点
	③ 認知機能～オリエンテーション	点	点	点
	④ 認知機能～コミュニケーション	点	点	点
	⑤ 認知機能～精神活動	点	点	点
	⑥ 食事～嚥下機能	点	点	点
	⑦ 食事～食事動作および食事介助	点	点	点
	⑧ 排泄の動作	点	点	点
	⑨ 入浴動作	点	点	点
	⑩ 整容～口腔ケア	点	点	点
	⑪ 整容～整容	点	点	点
	⑫ 整容～衣服の着脱	点	点	点
	⑬ 社会参加～余暇	点	点	点
	⑭ 社会参加～社会交流	点	点	点
③ 利用者／入所者の IADL (FAI: Frenchay Activities Index) ※点数：3 点満点 ※使用していない場合、6か月前が不明の場合は、ハイフン(－)をご記入ください。	① 食事の用意	点	点	点
	② 食事の片付け	点	点	点
	③ 洗濯	点	点	点
	④ 掃除や整頓	点	点	点
	⑤ 力仕事	点	点	点
	⑥ 買い物	点	点	点
	⑦ 外出	点	点	点
	⑧ 屋外歩行	点	点	点
	⑨ 趣味	点	点	点
	⑩ 交通手段の利用	点	点	点
	⑪ 旅行	点	点	点
	⑫ 庭仕事	点	点	点
	⑬ 家や車の手入れ	点	点	点
	⑭ 読書	点	点	点
	⑮ 勤労	点	点	点

質問は以上で終わりです。2月11日(金)までに返信用封筒に入れて、ご投函ください。
ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。